

平成 21 年度

博物館教育普及活動



沖縄県立博物館・美術館

はじめに

平成 19 年秋に開館した沖縄県立博物館・美術館は、本年度末までに約 112 万余の入館者がありました。博物館では、新しい時代に対応して、規模、目的、事業等をより広く、より深く、より大きく展開させ、県民と共に知的共有財産を創造していく博物館活動をめざしております。

博物館の展示では、多くの人々に見ていただくために、資料を分かりやすく展示することを大きな使命としています。同時に、来館者の知的文化的な好奇心を充足させる、地域の中軸施設であることも求められています。とりわけ最近の動向として、博物館を訪れる来館者のニーズは多様化し、利用者はそれぞれが様々な目的を持って来館しています。このような来館者の要求により多くこたえていくため、当館では今年度も多くの博物館事業を実施してきました。

博物館の教育普及活動では、首里の博物館時代から取組んできた活動を発展させながら、新館ならではの事業に取り組むことの 2 本柱で推進してまいりました。学校連携事業では、学校団体受入れの充実した態勢を図るため、「沖縄博物館友の会」ボランティア部との連携を進めてきました。

また、平成 20 年度の『ウチナー探検 博物館学習ノートー小学生版ー』につづき、高校生版を作成いたしました。さらに、文化講座及び展示会関連講座は「薩摩の琉球侵攻 400 年を考える」を皮切りに 11 回実施し、県民の皆様に多くの参加をいただき好評を得ることが出来ました。その他にも、体験学習教室では、「アダン葉サバをつくろう」をはじめ 5 回の教室を開催し、学芸員講座を 12 回、常設展展示解説会を 20 回、バックヤードツアーを 11 回、展示会関連解説会を 7 回とそれぞれ開催してまいりました。

中でも、博物館特別展イベント「薩摩の琉球侵攻 400 年を考える」のシンポジウムにおいては、当館の講座対応スペースを全て活用しても入りきれない聴講者のご参加をいただいたことは、記憶に新しいところあります。

当博物館としては、学校連携事業、文化講座、体験学習教室等に参加された皆様から、博物館を通して、沖縄の自然や歴史及び伝統文化に触れ親しむ、知的文化的な好奇心の輪が広がることを願っております。

博物館教育普及事業の実施にあたり、ご講演、ご指導いただきました講師の方々をはじめ、ご協力いただきました博物館ボランティアの皆様、ならびに関係者各位に厚くお礼を申し上げます。

平成 22 年 3 月

沖縄県立博物館・美術館

館長 牧野 浩隆

博物館教育普及活動

目 次

I 博物館活動について	1	2 実施状況	
1 はじめに			
2 博物館活動（四つの車輪）			
3 博物館の機能			
4 博物館の施設			
各施設 バリアフリー 環境への配慮			
5 博物館教育普及活動の概要			
II 学校連携	6	IX ふれあい体験室	78
1 学校団体受入		1 ふれあい体験室の概要	
2 博物館学習ノート		2 体験キットの種類	
3 出前授業		3 スタッフの配置状況	
4 職場研修受入		4 利用者状況	
5 その他		5 その他	
III 体験学習教室	27	X ボランティア養成事業	81
1 博物館体験学習教室実施要項		1 沖縄県立博物館・美術館 博物館ボランティア活動実施要項	
2 体験学習教室 活動資料		2 博物館ボランティア活動養成事業実施要項	
3 活動の状況		3 博物館ボランティア専門講座実施計画	
IV 文化講座	60	4 博物館ボランティアのてびき	
1 博物館文化講座実施要項		5 ボランティア活動の細則	
2 実施状況		6 博物館継続ボランティア登録証交付式	
V 学芸員講座	70	7 博物館ボランティア登録証交付式	
1 学芸員講座実施要項		8 ボランティア通信	
2 実施状況			
VI 展示解説会	74	XI その他	97
1 展示解説会実施要項		1 移動展	
2 実施状況		2 フリークーポン	
VII バックヤードツアー	75	3 職場体験	
1 バックヤードツアー実施要項		4 教育普及資料貸出	
2 実施状況			
VIII 夏休み子ども相談週間	77		
1 夏休み子ども相談週間実施要項			

I 博物館活動について

1 はじめに

博物館は、調査研究、展示、教育普及、保存管理の4つを車輪として館活動を展開します。そのため館は次の4つのスタンスに基づいた活動を構築していきます。

- ① 琉球王国時代の文化(王朝文化)を体系化し、現在につなげる視点からの活動。
- ② 人類学に代表されるような、沖縄の特性を生かし、沖縄の優位性を発信する調査研究の推進。
- ③ 沖縄の自然、歴史、文化の独自性を発信。
- ④ 博物館が動き、観覧者が動く博物館活動の展開。

2 博物館活動(四つの車輪)

◎調査活動

沖縄に関する資料や関連資料は、本県の海洋性・島嶼性の地理的要因により日本や中国、東南アジア諸国までその範囲を広げています。そこで本県の豊かな自然や独自の歴史・文化に関する資料を自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗の6分野で探求し、体系的に調査研究し、資料の充実を図ります。

また、各研究機関や大学と共同で調査研究を行い、沖縄が持つ特性や優位性を発揮できるよう努めます。

◎展示活動

展示は資料を公開することですが、その資料が持っている背景や意味も重要になります。学芸員の展示活動は、この資料が持つ意味をできるだけ詳細に分析し、得られた成果を展示等に生かすことです。

展示の形は、郷土を紹介する基本的な展示である常設展、ある特定のテーマで開催される特別展・企画展、そして各島々で開催される移動展は、島嶼県である本県の特徴的な展示活動です。

◎教育普及活動

博物館が持つ知的財産を一般に提供する手段として普及活動があります。学校などの教育機関や関連施設と連絡協力を行うネットワーク化を推進し、教育的配慮のもと様々な方法をもって県民共有の財産としていきます。また、博物館活動を活性化するためには、県民の積極的な参画が必要です。そのため「友の会」を中心としたボランティア活動を推進していきます。

博物館では、県内の文化講座で草分け的存在である「博物館文化講座」や「体験学習教室」等を実施、新たに遊びながら学べる「ふれあい体験室」を加えました。

◎保存管理

博物館資料は、産地、用途、製作年、材質、大きさなどの違いにより、その種類は多岐にわたっています。これら博物館資料は材質別・性質別に区分され、適切な温度・湿度や虫害などの対応ができるような環境で保存・管理され良好な状態で次世代へ引き継ぎます。また、資料保全のため、修理や科学的な保存方法を構築し、保存に努めます。さらに、資料の管理状況が把握できるようなデータベース化を進めています。

3 博物館の機能

博物館はその名のとおり、様々な資料を収蔵している施設です。資料は収蔵されるだけでなく、できるだけ長くきれいな状態を維持するために整理・保存していきます。しかし、保管しているだけではなく、調査研究により、いつ・だれが・どこで・なんのためにつくったかを解明し、皆様へ紹介していきます。資料は展示や講座、論文、インターネットなどいろいろな媒体をとおして、県民の知的財産として蓄積されていきます。

いつでも誰でもが利用できるようにするために、博物館にはいろいろな機能があります。

① 資料を保存する収蔵庫

博物館には、自然史・化石・特別(歴史・美工・民俗)・考古陶磁器・民俗・大型収蔵庫が設置され、それぞれの収蔵庫で、温度や湿度そして害虫などから資料を保護します。

② 資料を公開する展示室

博物館には、総合展示室・部門展示室・屋外展示・ふれあい体験室が配され、常設の展示を行っており、特別・企画展示室では、期間を限定して沖縄をはじめ、国内外の自然・文化・歴史に関する展示会が開催されます。

③ 学習する場としての展示室、講座室

博物館は、「沖縄」について知り、そして将来の沖縄像を考える場所です。郷土学習に利用できる資料が分かりやすく展示されています。また、講演や体験をとおした学習を行なう講座室等があります。

④ 資料を研究する学芸員研究室

博物館資料に関するあらゆる調査・研究は、この学芸員研究室を中心に行なわれます。6分野の学芸員が共同で、様々なテーマに取り組みます。ここで蓄積された研究成果は、研究資料室や情報センターに保管され、展示会や講演会などで公開されます。

⑤ 博物館を管理する諸室

博物館の電気、空調施設などを管理するための機械室や、館を運営している職員が事務を行うための部屋があります。

4 博物館の施設

(1) 常設展示

常設展示のメインテーマは「海と島に生きる－豊かさ、美しさ、平和を求めて－」です。沖縄は、立地・環境的に「海洋性」と「島嶼性」という特性を持ち、そこに住む人々は絶えず「豊かさ」と「平穏」を求め続けてきました歴史があります。その風土、自然のなかで育んできた歴史、文化を人類史・自然史の流れの中で位置づけ、普遍的に海と島に生きていくことをメインテーマとしています。

その展示構成は、沖縄の歴史を時間で追いながら自由動線で観覧することのできる「総合展示」と自然史・考古・美術工芸・歴史・民俗の五つの「部門展示」に分かれます。

総合展示は次の10のテーマによって、琉球列島のおいたちから現代までの約2万年にわたる沖縄の歴史をたどります。中国や日本の文化を取り入れながら、独自の文化を創造してきた琉球王国の時代、王国解体後の近代化する沖縄、現在の沖縄までを紹介します。

「ニライカナイの彼方から」「シマの自然とくらし」「海で結ばれた人々」「貝塚のムラから琉球王国へ」「王国の繁栄」「薩摩侵攻と琉球王国」「王国の衰亡」「沖縄の近代」「戦後の沖縄」「沖縄の今・そして未来へ」の順に展示を観ることができます。中央に配した「シマの自然とくらし」のエリアでは、沖縄の「海洋性」「島嶼性」を大型地形模型によって実感することができます。また、情報端末機で島ごとに異なる表情を持った自然やくらしなどを調べることができます。

部門展示は、総合展示を取り巻く展示です。自然史・考古・美術工芸・歴史・民俗の5つの部門展示室では、収蔵資料を活用しながら、各分野のテーマをより深め、展示替えの頻度を高める展示をめざします。

・自然史部門展示

「生物が語る沖縄2億年」をテーマに、島の成り立ちや、島々で独自の進化をとげた生き物の世界を展示します。自然観察コーナーでは、岩に触れたり、顕微鏡で化石や昆虫、植物標本などを見るすることができます。

・考古部門展示

「沖縄考古学の世界」と題し、沖縄考古学のこれまでの成果と課題を示しながら、「沖縄考古学」を体系的に学び、古えの人々の生活を追体験することができます。

・美術工芸部門展示

美術工芸部門展示では「琉球の美」を求めます。琉球王国時代、それ以降の染織品、焼物、漆芸品などの工芸品や絵画、彫刻、書跡などの逸品をゆったり鑑賞することができます。1年に数回テーマを変え、様々な美術工芸の世界を通し、「琉球の美」を追求します。

・歴史部門展示

「モノから読む沖縄の歴史」とし、歴史の中で産出された様々の「モノ」資料を通して、その資料のもつ時代的な意味を解き明かしていきます。展示室内の一角では「那覇港」をテーマに、近世に製作された屏風絵の世界から、そこで暮らした人々の息づかい、ひいては歴史的、文化的意味を紐解いていきます。

・民俗部門展示

民俗部門展示は「沖縄の伝統とくらし」です。民俗の宝庫といわれる沖縄の様々な生活シーンの中で創造されてきた民具や信仰などを通して、戦前から伝わる沖縄の民俗世界を追体験することができます。また、現代に息づく民俗の変容した姿を紹介します。

(2) 屋外展示

・高倉

高倉は穀物を貯蔵する倉庫です。床を上げて風通しを良くし、湿気やネズミの害を防ぐ工夫がなされています。構造の違いにより、沖縄式と奄美式に分かれます。この高倉は昭和初期に建てられたものを、1976年に奄美から移築しました。

・民家

沖縄の伝統的な民家は、高温多湿の気候風土に適した構造をしています。門扉がなく、母屋も雨戸を全開にして風を通します。また、母屋の正面にあるヒンブン(中垣)は、外部への目隠しとなります。

・湧田窯

湧田窯は17世紀ごろの窯跡で、平窯の構造が特徴です。主に屋根瓦を焼いた窯です。琉球・沖縄の焼き物の歴史を考える上で貴重な資料です。

(3) ふれあい体験室

ふれあい体験室には、沖縄の「自然のしくみ」と「先人の知恵」を知るために様々な体験キットが用意されています。(詳細についてはP78、IXふれあい体験室を参照)

(4) 情報センター

情報センターは博物館・美術館の共用施設として、閲覧・検索用の座席を38席設けた情報提供のための部屋です。博物館の収蔵資料を検索したり、DVDやビデオの視聴ができます。また、沖縄の自然、歴史、文化、美術工芸等に関する専門図書、地方出版図書も配架され、来館者の調べ学習に対応できます。

(5) 講堂・講座室等

・講堂

講演会、シンポジウム、映画上演などを行うことができます。212席(車いす2人含む)を収容することができます。

・講座室

100名規模の講演会や会議などを開催できます。机、椅子を撤去すると、小学生150名程度の集会が可能です。

・実習室

体験学習や実技講習会などを開催できます。40名程度の収容が可能です。

(6) 救護室

来館中における、軽度の気分不良の際には、休憩をとることができます。(ベット数1台)

(7) 駐車場

一般車両140台(身障者用4台含)、バス10台が駐車可能です。

特別支援学校などの大型車両を横付けできるように、庇付きの玄関を準備しております。

また、盲導犬のトイレを駐車場側と公園側に整備しております。

(8) コインロッカー

百円コインが返還される、無料のロッカーが、204本準備されています。大きな荷物を持参の際は、他の観覧者に迷惑にならないよう、お手荷物を預けてからの入館をお願いします。

(9) バリアフリー

博物館・美術館は、不特定多数の人々が利用するため、誰でも安全に利用しやすい施設にする必要があることから、以下のような整備を行っています。

- ・観覧者が利用するトイレには、車いす使用者や乳幼児連れ、オストメイトに対応した機能を設けています。
- ・講堂や講座室に磁気誘導ループを設置して難聴者をサポートしています。
- ・館入口に音声誘導装置を設置して視覚障害者をサポートしています。
- ・車いす使用者駐車スペースには、雨天時の乗降に配慮して雨よけを設置しています。
- ・道路や公園からの主な敷地通路に誘導ブロックを設け、総合案内まで連続して敷設しています。
- ・高齢者や体の弱い人がゆっくり観賞できるように、展示室内に休憩室や椅子を準備しています。
- ・案内表示は日本語と英語の2ヶ国語表示としています。

(10) 環境への配慮

① 太陽光発電システムの導入

環境負担の低減と電気量の節約を図るために、10kW程度の太陽光発電装置を設置しています。

② 雨水及び再生水の有効利用

地下に雨水タンクを設けて、トイレ洗浄水や灌水に利用しています。

③ 夜間電力を利用した氷蓄熱方式空調設備の導入

夜間の安価な電力で作った氷を館内の冷房に利用することにより、割高な昼間電力の増加を抑えています

④ 総合的有害虫管理(IPM)施設 IPM(Integrated Pest Management)

博物館・美術館では、病害虫を管理するために総合的有害虫管理(IPM)を行っています。この管理方法は、施設を取り巻く環境状況と対象となる害虫の繁殖などの動きを考慮して、生物的防除、科学的・物理的防除を組み合わせることで、虫害菌を抑える管理方法です。

博物館を利用する方へお願いしていることは、館内への飲み物、食べ物の持込みはご遠慮いただいている。遠足等の行事の際にも、荷物を車で管理するなどの配慮をお願いしています。

5 博物館教育普及活動の概要

博物館の教育普及活動は、大きく二つの事業に分けることができます。1つめに、学校の計画する授業・行事等で博物館を活用する際に支援する学校連携事業があります。2つめに、博物館が企画運営する、文化講座、体験学習教室、ボランティア養成等のそれぞれの事業があります。それ以外にも、博物館を通しての教育普及に関する全般的な活動にも取組みました。

(1) 学校連携事業

学校連携事業は、大きく三つの事業を実施しました。一つは、各学校の計画による団体観覧の支援で、教育課程の一環として博物館を利用する際に、館から提供できる内容の調整を行いました。学校の規模や授業の進度、生徒の実態等を含めた学校からの要望と博物館の施設・職員・ボランティアの支援体制を考慮して、学校と博物館が連携していく学習プログラムを作成しました。

二つめに、児童生徒が、展示資料を通して調べ学習を行う際の興味を引き出す素材として、「博物館学習ノート」(ワークシート)を作成しました。資料の観察を通して見えないところまで興味関心を広げられるノートとなっています。今年度は、高校生向けを作成し、出来上がった冊子を各学校へ配布します。また、それぞれのワークシートは、博物館のホームページにも掲載することで、多くの方が利用できるように準備していきます。

三つめに、今年度から、新たな博学連携として、出前授業を実施しました。学芸員が学校に出向き、博物館資料を用いた授業を行ないました。

(2) 体験学習教室

沖縄の自然や歴史、文化と結びつけた体験的な活動を通して、郷土について関心を持ち、先人の知恵等を学ぶ機会としました。博物館の各分野(自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗)の展示と関連する体験を実施し、総合博物館としての豊かな学びの場を提供しました。

(3) 博物館文化講座

博物館の展示内容と関連する自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗の各分野についての講演、展示解説、実技指導、現地研修などを通して、県民各層が楽しく有意義に学べる講座を実施しました。

(4) 学芸員講座

博物館の学芸員が、研究成果や収蔵品の成果等の講演や展示解説などを通して、県民各層が楽しく有意義に学べる講座を実施しました。各分野の学芸員の充実した講話は、博物館をより身近に捉え、参観者の層を拡大する大切な役割を担いました。

(5) 展示解説会

博物館の展示内容に関する資料等の解説を、学芸員の広い視点から分り易く解説しました。新館における展示資料がどのようなねらいのもと、それぞれの展示室に設置されているかを理解し、総合博物館の資料のつながりを知る機会としました。

(6) バックヤードツアー

博物館のもつ、調査・研究・保存の各機能を担う諸室の見学を実施しました。普段は、入る事の出来ない収蔵庫やトラックヤードなどの機能を理解し、博物館についてより知ってもらう機会としました。

(7) 夏休み子ども相談週間

学芸員が、夏休み休暇中の児童生徒を対象に、沖縄の自然、歴史、文化に関する自由研究や調査研究等について相談を受け、可能な限り博物館の情報を提供するなど郷土への興味・关心を高める場を提供しました。

(8) ボランティア養成講座

博物館では、県民の自己啓発や学習の発表の場の提供、また、博物館支援活動を目的として「博物館ボランティア」を導入しています。この活動は、多様化する来館者のニーズに対して、よりきめ細かなサービスへの寄与と自己学習の場となりました。

(9) ふれあい体験室

博物館の展示室の手前にある「ふれあい体験室」は、27種類のキットを準備しています。これらは、展示と関連させ、展示資料を深く理解できるように工夫されています。キットはパズルのように組み立てるものなど、操作することによって、より理解が深まる仕組みとなっています。体験することで、沖縄の「自然のしくみ」や「先人の知恵」にふれることができます。

(10) フリーパス

県内の各小中学校に、①新館の開館②施設を身近に感じてもらう③常設展は無料で入館、ということを確認してもらうために、フリーパスの制作を依頼しました。

(11) その他

①移動展

ふだん沖縄県立博物館・美術館に足を運ぶことの出来ない離島や遠隔地の方々に移動展の展示を見てもらうことによって、沖縄県の自然、歴史、文化の広域普及を図り、博物館資料や美術作品を観賞する機会を提供しました。本年度は久米島で開催しました。

②職場体験

学校の実施する就業体験学習を受け入れ、実習に訪れる生徒に、博物館の仕事を体験する機会を提供しました。

③教育普及資料貸出

博物館の教育普及関係資料等を貸し出しました。

II 学校連携

1 学校団体受入

(1) 学校団体観覧

① 博物館を利用して学ぶ

ア はじめに

博物館では、子供から大人まで、生涯学習の一環として楽しく学ぶことができます。また、学校として利用する場合は、”モノ”を通して、総合的で広がりのある学習内容を構成することができます。博物館の各展示室には、郷土について知るための資料が分かりやすく展示されており、来館者は、観覧したり体験することで、沖縄の自然・歴史・文化について理解を深めることができます。さらに、地域についての理解を深めることは、県民にとって将来について考える場となり、郷土に対する自信と誇りを持つことへ、結びつけることも可能です。

イ 学校が利用する場合

- ・学校職員と博物館職員の下見と調整により、双方が連携して教育プログラムを作成することができます。
- ・学習内容によっては、体験を取り入れるなど、支援方法を工夫します。
- ・博物館の資料を学校内で活用する方法として、資料（民具等）貸出しがあります。（学校見学の盛忙期を除く。P100、XIその他4.普及資料貸出参照）
- ・博物館では、情報センターなどで学習内容の研究を共同で行うことができます。

ウ 博物館を学習活動に活用するための手順

(ア) 学習活動計画を立てる

博物館利用の全体計画を立てます。学校の教育課程や行事等を考慮して、博物館をどの段階に利用することが有効かを考えます。

- ・導入で活用する
- ・展開で活用する
- ・まとめとして活用する

※下見・調整の際に、これまでの学校の利用計画を参考にすることができます。

(イ) 日程の調整

- ・博物館でオリエンテーションや体験実習を行うための施設として、実習室（40名）講座室（110名）、講堂（210名）があります。
- ・博物館は、博物館・美術館の複合施設であり、指定管理者（文化の杜共同企業体）は施設を有料で貸出することから施設利用の予約、免除申請書の提出が必要です。
- ・施設の予約・日程調整は情報センター等で行い、施設の下見から学習内容の調整を、博物館教育普及担当とともに行います。
- ・規模の大きな学校にオリエンテーションを行う際は、一度には施設に入りきれないため、2回に分けて入館するなどの工夫が必要です。

● 指定管理者

- 指定管理者とは、「公の施設」の管理運営を、地方公共団体の指定した民間企業やNPO法人など
- でも包括的に委託できるという制度です。（地方自治法第244条の2）博物館・美術館においては、
- 文化の杜（共同企業体）が、施設全体の維持管理や利用料金の設定など、これまで自治体が行っていた業務を行うことになります。

(ウ) 博物館下見、打ち合わせ

- ・下見では学習に必要な展示資料や以下の施設の確認をします。（トイレ、集合場所、常設展示室、

- 実習室、講座室、講堂、屋外展示等)
- ・来館日、来館時間、生徒数、当日の日程、引率者、父母協力者、学習形態等の確認
- ・学習の「めあて」の確認。
- ・学習の展開方法の調整。(民具体験・見学・オリエンテーション・学芸員・視聴覚機器の利用)
- ・過去に博物館を利用した学校の「しおり」等の参考資料閲覧。
- ・特別支援学校への音声資料等の、事前事後学習への協力。
- ・筆記用具と、筆記の際の支え（探検バッグ・ファイル）となるものの確認。
- ・駐車場とバスの入口確認。
- ・雨天時の傘等の対応。
- ・博物館への飲食物持込みは禁止の連絡。（IPMの考え方による。）
- ・その他注意事項の確認。

(工) 実施計画を立てる

- ・博物館からの情報提供をもとに、学校主体で計画案を作成します。
- ・見学の順路や学習時間の配分は、博物館からも案を提供します。
- ・学習形態によっては、グループや個人の調べ学習への応対も考慮します。
- ・必要に応じて、ワークシート等の作成に協力します。
- ・博物館利用のマナーについては、学校でも事前指導できるよう計画してください。
（③学習プログラムの内容・博物館紹介参照）
- ・父母引率には、博物館展示室での配置等の細案を作成してください。
- ・観覧終了時の博物館におけるまとめは、学校の職員で進行してください。（児童生徒挨拶を含む）
- ・博物館のボランティアへは、学習プログラム内容決定後、声かけをします。2週間以上前の募集期間が必要です。（急な要請には対応できません。）

ボランティア

博物館では、学校からの団体観覧をよりきめ細かに支援するために、ボランティアを養成しています。現在は、① 誘導ボランティア ② 展示ガイドボランティア ③ 民具体験サポートボランティアがいます。（詳細は、次項③学習プログラムの内容参照。）

(才) 博物館において学習活動を展開する

- ・来館当日のミーティング（オリエンテーション中）で、時間の変更の有無、スタッフの状況、内容変更の有無等の確認。
- ・児童生徒に充実した活動内容が提供できるように、博物館・指定管理者・ボランティア、教師・父母が連携して支援。
- ・博物館・学校のそれぞれのスタッフが声かけをしながら、学習を展開。
- ・民具体験では、実物に触れる子供たちの感動の場を提供。

(力) 博物館における学習活動を次の学習に生かす

- ・博物館での活動を通して、分かったことや疑問点を確認。
- ・疑問点を見出して、自分なりに調査。
- ・博物館等の社会教育施設の利用を促進。
- ・新聞を作成する事などにより、学習の発表の機会の設定。
- ・次の課題について協議。

② 学習プログラムを組み立てる

- ・学習プログラムとは、学校が団体で博物館を利用する際に、関係する施設・職員、または、学習内容等を組立てた計画です。
- ・学習プログラムは、博物館来館に際しての目標、順路、学習の展開等を、学校の実態に合わせて編成します。
- ・学習プログラムの企画調整は、県職員が行い、当日の運営は、指定管理者が行います。
- ・学習プログラムに必要な施設利用の申請は、学校から指定管理者に対して行います。

- ・学習プログラムの作成は、学校が主体となり、博物館はそれを補助します。
- ・実施は、当日の天候や渋滞等による遅れなどといった学校の状況の変化によって、又は博物館ボランティアスタッフの状況によっては、変更される場合もあります。
- ・学校が博物館を教科単元の時間で活用する場合や、学校行事、サークル活動等さまざまなニーズに応じた学習内容を、学校の職員とともに作成します。
- ・教育普及担当との調整では、過去の計画案や、展示資料の紹介などを行います。
- ・博物館での教員・父母協力者の配置は、博物館と協議しながら決めていきます。
- ・先生方と行う下見調整は、学習プログラムの作成のために実施します。

③ 学習プログラムの内容（学習の流れ）

ア オリエンテーション

- ・はじめ
運営担当の職員（指定管理者）が司会進行をおこないます。

・博物館紹介（映像）

マナーを含めた映像を準備しています。「みゅう爺」と「アム」というキャラクターにより、博物館内における基本的なマナーや施設の紹介、展示室の紹介を、掛け合い言葉により行います。10分の完全版と6分の縮小版があります。（情報センターにて貸し出しが可能です。）

・昔のくらし関連資料（映像）

日本民芸協会が昭和14年ごろに、沖縄調査で撮影した映像を放映できます。『琉球の風物』と『琉球の工芸』という二種類の映像が準備できます。本来は、双方ともに16分ほどの時間の映像であるが、観覧や体験の時間を考慮し、放映を短縮することもできます。

・本時の「ねらい」の確認

事前の下見調整において確認された内容の、「めあて」を司会が読みあげます。博物館での活動を児童・生徒と一緒に声に出して読み合わせて確認をします。

・ボランティア紹介

当日の学習プログラムを補助するボランティアを紹介します。民具体験サポートと展示ガイドは、展示室や実習室での紹介の場合もあります。

イ 博物館ボランティアによる支援

・誘導ボランティア

博物館の総合展示では、通史軸を中心とした基幹動線があります。また、総合展示の周りに配置された部門展示室は、自由動線となっています。博物館の、広くて観覧者の多い展示室の中で、児童生徒を学級別に集団を保ちながら行動する場合に人手が必要となります。誘導ボランティアは、学級の前後で学級担任の補助をします。

・展示ガイドボランティア

展示室において、展示資料の解説をボランティアが行っており、学校側から依頼することができます。現在は、ボランティアの活動数に限りがあるため、全ての要望には応じられないことをご理解ください。また、ワークシートを学校独自に準備する際は、ボランティア側も事前に把握しておく必要があります。必ず前日までに送付してください。

・民具体験サポートボランティア

博物館学習では、民具体験を行っています。現在(H21.4)は、特に4年生の社会科に対応した内容を推進しています。体験内容には、運搬に関する体験、清掃洗濯、着衣等の昔のくらしの体験があります。この体験では、各体験のサポートをボランティアが中心に行います。（教師や父母の引率者も一緒に参加、協力してください。）

ウ 観覧・民具体験のサイクル

観覧や体験ができる場所には、収容人数に限界があります。学校の児童生徒全員に同じ体験をしてもらうために、サイクルで展示観覧と民具体験を行うようにしています。クラスが複数になる体験学習では、20～30分の時間で民具体験を行うクラスと、観覧を先に進めるクラス

を設定しています。グループの構成の仕方は、学校側で作成していただきます。

エまとめ

一日の観覧・民具体験が終了した際に、博物館のロビーや入り口近くのピロティでまとめを行っています。まとめの時間は、基本的に学校の先生に司会をしてもらいながら、進行しています。博物館側からのまとめには、本日の観覧に協力したボランティアのスタッフも一緒に参加して、まとめを行います。オリエンテーションで児童生徒を受け入れた職員が、博物館観覧の「ねらい」を中心に児童生徒に自己評価してもらいながら、博物館での活動をまとめています。

④博物館学習の打ち合わせ票

博物館学習打ち合わせ票			
年 月 日(曜日) 対応者()			
項目	打ち合わせ内容		
来館予定日	年	月	日(曜日)
来館予定時間	AM／PM	：	～ AM／PM ()
学校名			
学年		生徒数	
学級数		電話番号	
引率者			
博物館学習のねらい			
学習内容と配分時間	オリエンテーション：あり・なし() イスなど／学習プログラム：あり・なし ワークシート：あり・なし		
学校からの要望			
ボランティアの要望	誘導 ガード自然 ガード考古 ガード美工 ガード歴史 ガード民俗 ガード		
メモ			

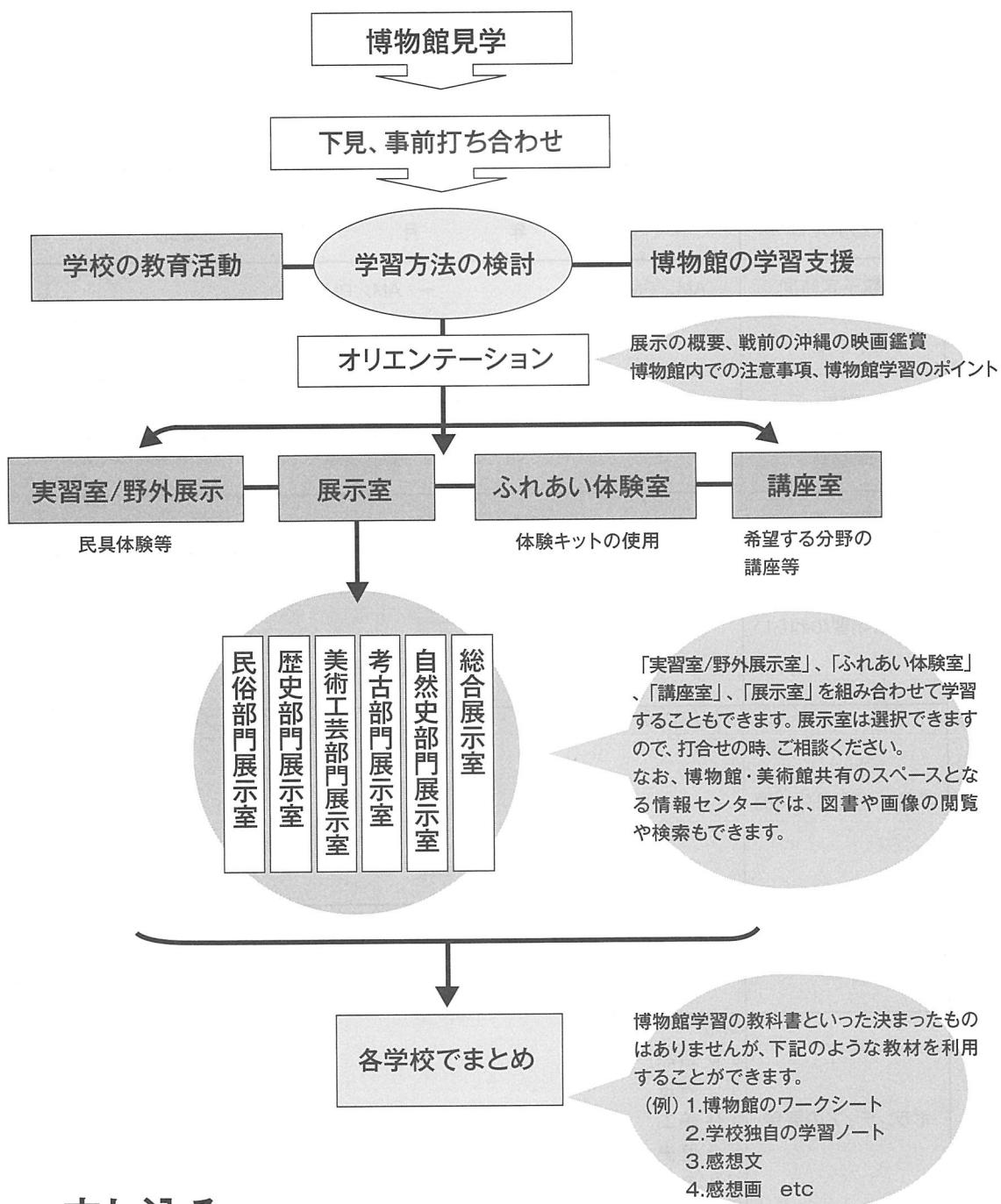
チェック項目： 指定管理者／フリーパス／鉛筆・体験パック／水筒・弁当／最終集合場所／
2.3日前に連絡／ワークシートのFax依頼

(2) 博物館利用について

i 博物館利用のてびき

博物館はすべての方が学習できる「場」です。児童・生徒から成人まで、沖縄に関するさまざまなテーマについて学習あるいは研究できるようにお手伝いをします。グループでも個人でもどうぞご相談ください。

下記のフローチャートは、学校の団体見学を中心に図示したものです。個人の場合は学芸員と話し合いながら行います。



申し込み

- ・電話等でお問い合わせください。入館手続きのしかた、学習の日程、見学コース等調整いたします。
- 他の学校と重なる場合がありますので、事前にお申込みください。
- ・学校団体で授業の一環として学習を実施する場合は、下見と学習法などの事前打合わせをお勧めします。

ii 平成 22 年度 博物館利用団体受入

①ねらい

- ・博物館への学校団体をはじめとする入館者の増加を図る。
- ・博物館における受入計画を前年度から準備し運営を行う。
- ・学校等の団体が、博物館来館を年間計画の中に位置づけることにより、交通機関の活用を含めた教育計画の効率的な活動を行う。

②対象

- ・県内の小中高等学校・特別支援学校
- ・県内大学・専門学校
- ・県内の公民館他

③受入内容

- ・博物館における体験学習や観覧の支援。
- ・学校団体等の指導者との連携事業。
- ・展示資料を郷土について知るための教材や研究材料として活用し、沖縄を知るための教室として利用。
- ・各学齢期の多岐にわたる興味や関心に合った内容を、学校とともに構築。
- ・学校の先生方のための博物館学習やその他の研修会への支援。
- ・特別支援学校が見学するときは、内容によって博物館資料を直接利用する方向で検討。
- ・博物館資料となる実物・複製・模型などを、教材として活用。

④方法

・期間

- ・次年度の利用団体の利用計画申込みは、基本的に本年の 11 月末日までとする。
- ・希望日が集中した場合は、博物館において、受入の日程を調整する。
- ・博物館からの利用許可を本年 12 月中に通知する。
- ・申込み締切以降においても、原則として三ヵ月前までの予約は、他の団体の予約がなければ受け入れ也可能とする。
- ・申込みは、別紙所定の用紙（申込書）にて沖縄県立博物館・美術館に申込む。
- ・郵送の場合

〒900-0006 那覇市おもろまち3丁目1番1号
沖縄県立博物館・美術館館長宛

・団体受付 情報センター TEL098-941-1187 FAX098-941-3530

⑤その他

- ・開館時間 9:00~18:00（入館は17:30まで）
金・土曜日は9:00~20:00（入館は19:30まで）
- ・博物館が利用できない日
 - ・休館日（毎週月曜日） 但し、月曜日が祝日及び振替休日又は慰霊の日の場合は開館し、翌平日を休館とします。
 - ・年末年始（詳細はお問い合わせ下さい。）
- ・博物館の入館料

	小中学生	高校・大学生	一般
常設展示	無料（県内）	250	400
特別・企画展	展示会毎に異なります。		

※団体割引、年間パスポート、美術館料金は別に定められている。

※県内高校生の教育課程における常設展の観覧は、申請により無料となる。

第6号様式 (第14条関係)		沖縄県立博物館・美術館利用許可申請書		平成 年 月 日
沖縄県立博物館・美術館				印
① 団体名 ② 所在地	③Tel ④Fax	⑤ 引率者(代表者) 職・氏名	⑥ 年生 年生 年生 年生 年生 人	申請者 殿
博物館 美術館	⑦ □企画・特別展(別料金) □常設展(県内中学生以下無料) ⑧ □企画・特別展(別料金) □常設展(県内中学生以下無料)	観覧したい展示 (複数選択可)	内訳 小 中 高 合計	電話
下記により申請します				
観覧日時 第一希望 ⑨ 200 年 月 日(曜日) : ~ :	観覧日時 第二希望 ⑩ 200 年 月 日(曜日) : ~ :	観覧日時 第三希望 ⑪ 200 年 月 日(曜日) : ~ :	記	
<p>オリエンテーションの有無 (見学前館の概要等注意 を映像で紹介しまして約10分)</p> <p>□ オリエンテーションを希望する (書式ダウンロード005「施設利用許可申請書を提出して下さい」</p> <p>□ 希望しない</p>				
来館内容 ⑬ □総合的な学習 □修学旅行 □その他	□授業(科) □総合的な学習 □修学旅行 □その他	学級・学年 (学年) (学級) その他	学級・学年単位 (学年) (学級) その他	1利用者 団体名 まとまって来館 (: ~ :) 分散して来館 (: ~ :) ご利用の車種 ご大型バス(台) マイクロバス(台) 乗用車(台)
1利用者 団体名 代表者 印 職業 住所				
2利用目的				
3利用する施設				
4利用する日時及び期間 自 : 到 :				
5予定参加人数				

学校用				
200 年 月 日				
太枠内はれなくご記入ください。該当箇所を○で囲み、必要事項をご記入ください。				
沖縄県立博物館・美術館受付申込書				
200 年 月 日				
① 団体名 ② 所在地	③Tel ④Fax			
⑤ 引率者(代表者) 職・氏名	⑥ 年生 年生 年生 年生 年生 人			
博物館 美術館	⑦ □企画・特別展(別料金) □常設展(県内中学生以下無料) ⑧ □企画・特別展(別料金) □常設展(県内中学生以下無料)			
<p>オリエンテーションの有無 (見学前館の概要等注意 を映像で紹介しまして約10分)</p> <p>□ オリエンテーションを希望する (書式ダウンロード005「施設利用許可申請書を提出して下さい」</p> <p>□ 希望しない</p>				
来館内容 ⑬ □総合的な学習 □修学旅行 □その他	□授業(科) □総合的な学習 □修学旅行 □その他	学級・学年 (学年) (学級) その他	学級・学年単位 (学年) (学級) その他	1利用者 団体名 まとまって来館 (: ~ :) 分散して来館 (: ~ :) ご利用の車種 ご大型バス(台) マイクロバス(台) 乗用車(台)
備考(博物館・美術館への希望や、来館時の課題、学校での事前指導等について)				
<p>※下見見学をされる際は、書式ダウンロード004「観覧料免除申請書(PDFファイル)」を下見当日にご持参下さい。 博物館常設展・美術館常設展の観覧料を免除します。</p> <p>※船運営の都合やボランティアの都合等によりご希望に添えない場合があります。</p> <p>※展示資料保存のため、食べ物の・ペットボトル・カサ・大きな荷物の持ち込みはご遠慮ください。</p> <p>※館内では、カフェスペースを除いて飲食できません。</p> <p>その他の注意点については、別紙団体見学の皆様へをご覧ください。</p>				
<p>〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3-1-1 沖縄県立博物館・美術館 Tel 098-941-1187 Fax 098-941-3530 (担当:情報センター)</p> <p>受付者:() 内容の確認: 月()</p>				

(3) 平成21年度学習プログラム（実践例）

① 総合的な学習

2009/1/22(木) 9時00分～10時30分 (90分)
那覇市立開南小学校なかよし学級 生徒4名
教師 3名 実習室

ア 主題 稲の栽培

イ ねらい

- ①博物館見学を通して、沖縄県の歴史、文化、自然に関する理解と愛情を育てる。
②集団活動を通して、安全に行動できる力を養う。

ウ 目標行動

- ①民具の体験を通して感想や気づいたことをまとめること。

エ 下位行動目標

- ①博物館見学のねらいを確認することができる。
②博物館利用のマナーについて、理解し、実践することができる。
③資料を見たり、触れる体験を行うことができる。
④タッチパネルに触れながら、資料について興味・関心をもつことができる。
⑤ワークシートやメモにより記録を残し、今後の見通しを立てることができる。

G ← ⑤ ← ④ ← ③ ← ② ← ①

オ 観覧順
民俗展示室 → 民具体験

力 観覧展開 (例)

時 (分)	内容	博物館	教師	児童生徒
10	オリエンテーション 担当者あいさつ 本時の目標	目標行動を確認		
30	民俗展示室 展示ガーデン (農・漁具中心)	文化の杜（中村） (大嵩)	展示ガード補助	
	民具体験 「民具体験」 誘導	文化の杜（中村）		
	資料解説 体験ポート	(松川潤) (松川隋) (岸本学芸員)		
40	①千歯 ②脱穀機 ③クルマンボー ④アラゾーキ ⑤ハベーキ ⑥ティール ⑦杵 ⑧ワラサン ⑨着衣	実習室 屋外 屋外 屋外 屋外 屋外 屋外 実習室 実習室		
5	まとめ			



② 社会見学

2009/11/19(木)
浦添市立浦添小学校 5年生
教師（金子）（安里）（西鉢）（嵩川取）
児童 100名 (3 クラス) 講座室使用

1 社会見学のねらい

- ①社会科学習の一環として、校外での見聞を広める。
- ②集団行動のしかたを体験するとともに、学年の仲間と交流を深める。

2 指導目標

博物館や新聞社に展示されている資料を観覧。また、そこで働く人の話を聞き、わかつたことや疑問に思った事をメモし、沖縄の歴史、文化、自然、社会などについて気づいたことを、まとめて発表することができる。

3 目標行動（子供たちと読み合わせ）

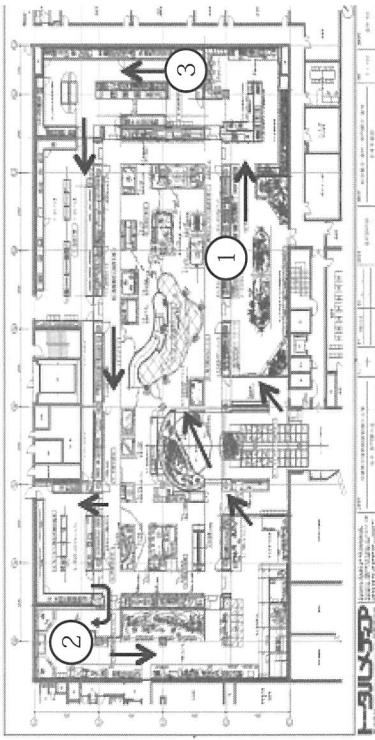
- よく見て、よく聞き、よく学ぶ

4 下位行動

- ①博物館見学のねらいを確認する。
- ②自分なりの目的を持つて観覧する。
- ③博物館の観覧順路を守る。
- ④展示場所により展示分野や内容が違うことを理解する。
- ⑤博物館の利用マナーや礼儀作法を理解し、実践する。
- ⑥観覧して分かったことや感想をメモに書く。

5 観覧順路

1組	シマ → 自然史 → 考古・美工・歴史 → 民俗 → 自由 (山城)	10 15 15 20 10
2組	民俗 → シマ → 自然史 → 考古・美工・歴史 → 民俗 → 自由 (平良)	20 10 15 10 15 10
3組	考古・美工・歴史 → 民俗 → シマ → 自然史 → 民俗 → 自由 (桑江)	15 20 10 15 10 10



6 授業の展開

時	内容	博物館	教師	児童生徒
14時00分～15時30分 (90分)	「オリエンテーション マナービデオ放映 画像の視聴	職員自己紹介	代表者打合せ (副担任の配置等) 児童着席指示	児童生徒 講座室着席
10 -	本時の目標確認 観覧順番の確認 誘導	施設案内画像 博物館観覧の目標確認 博物館の観覧順確認		
		誘導職員紹介	担任学級先導	
		誘導員は、後方支援		
70 -	「学級ごとの観覧 1組 シマ→自然史→考古・美工・歴史→民俗 2組 民俗→シマ→自然史→考古・美工・歴史 3組 考古・美工・歴史→民俗→シマ→自然史 考古・美工・歴史→民俗→シマ→自然史 考古・美工・歴史→民俗→シマ→自然史 シマの自然とくらし 説明 自然史展示室 自然史ガイド (15分) 民俗展示室 民俗ガイド (15分) 民俗展示室 民俗ガイド (15分) 民俗展示室自由観覧 (5分)	展示ガイド 文化の杜 (中村)	黒潮・台風などについて (高嶺) (潮平) 全体的に (大瀬) (大崎) 全体的に	
10	自由観覧			
5	まとめ 集合	学芸員と誘導員集合 点呼		

③ 社会科 昔のくらしとまちづくり

6 授業の展開例

時(分)	内容	博物館	教師	児童生徒
9時30分～11時30分 児童145名(4クラス) 講座室・民家・実習室使用 教師(久高)(新垣)(根間) (吉村)(知念)(真志喜)	オリエンテーション 画像の観察(CD) 「琉球の風物」(昭和14年頃の映像)放映 本時の目標確認 観覧順番の確認 移動	6 6 6 6 5	目標行動を確認 順番指示 担任先導 移動	担任・副担任の配置など 順番確認
11時30分～(120分) 児童6名 引率6名 父母8名	民具体験 2班「民具体験」 体験内容説明(資料とスライド紹介) 25 体験	25	3班による体験(個数人數) 体験順を白板に表示	
(120分～130分) 児童6名 引率6名 父母8名	・運搬：籠による ・着衣 ・洗濯 5 移動	30	・運搬：籠による (真貝)(新崎) (赤沼)(吉見) (瀬底)(鉛丸) 5 移動	父母(田端・岡本・下地)民具体験 父母(藤井・西平・登野城) 父母(玉城・奥平・長山)
13時～(120分) 児童6名 引率6名 父母8名	1班 常設展示の観覧 「シマの自然とくらし」(5分) 地形図(黒潮・台風・ハブなど) 15 自然史展示室 資料確認 5 移動	10 10 15	「シマの自然とくらし」(5分) (文化の杜：中村) 地形図(黒潮・台風・ハブなど)	(文化の杜：川平) 3班による体験(個数人數) 3班による体験(個数人數)
14時～(120分) 児童6名 引率6名 父母8名	①民具を体験し、感想や気づいたことをまとめ。 ②展示されている資料を見て、ワークシートをまとめ、疑問に感じたことをメモする。	30		
15時～(120分) 児童6名 引率6名 父母8名	2班 指導目標 博物館見学と民具体験により、昔から伝わる道具について理解し、実物資料や映像資料等による五感を通じた感受の中から、先人のくらしの様子や生活の知恵について心を揺さぶられ、郷土のことについてさらによく理解する態度を養う。	30		
16時～(120分) 児童6名 引率6名 父母8名	3班 目標行動 ①民具を見学する。 ②展示されている資料を見て、ワークシートをまとめて、疑問に感じたことをメモする。	30		
17時～(120分) 児童6名 引率6名 父母8名	4 下位行動目標 ①博物館見学のねらいを確認することができる。 ②博物館での観覧順を守ることができる。 ③博物館利用のマナーについて、理解し、実践することができる。 ④民具に応じた体験から用途を知ることができる。 ⑤体験で感受したことをまとめることができます。 ⑥タッチパネルに触れながら、資料について興味・関心をもつことができます。 ⑦ワークシートやメモにより記録を残すことができる。	30	⑤←④ G←⑦←⑥←③←②←① ↑ ↗ ↑ ↑ ↘ ↑	司会進行
18時～(120分) 児童6名 引率6名 父母8名	5 体験・観覧順 誘導	30		
19時～(120分) 児童6名 引率6名 父母8名	1班 地理・自然史展示室 → 民俗展示室 → 民具体験 → (1組+4組1/3)(島袋)	30		
20時～(120分) 児童6名 引率6名 父母8名	2班 民具体験 → 地理・自然史展示室 → 民俗展示室 → (2組+4組1/3)(又吉)	30		
21時～(120分) 児童6名 引率6名 父母8名	3班 民俗展示室 → 民具体験 → 地理・自然史展示室 → (3組+4組1/3)(源河)補佐	30		

時間管理(文化：) 地理模型図説明職員が兼務する

④ 社会見学

2009/10/23(金)
うるま市立城前小学校5年生
教師(島袋)(城間)(知念)

1 社会見学のねらい

- ①博物館見学を通して、沖縄県の歴史・文化・自然に関する理解と愛情を育てる。
- ②自分が住んでいる郷土に興味・関心を持ち、分かったことや疑問に感じたことをさら追求し、調べようとする態度を育てる。

2 指導目標

博物館見学により、沖縄県の歴史、文化、自然について理解し、実物資料や映像資料などによる展示資料の觀察の中から、豊かな自然や文化遺産のあることに心懶さぶられ、郷土のことについてさらに追求していくとする態度を養う。

3 目標行動

博物館に展示されている資料を觀察し、ワークシートにまとめ、疑問に感じたことをメモし、沖縄の歴史・文化・自然について気づいたことを記録することができる。

4 下位行動目標

- ①博物館見学のねらいを確認ることができる。
- ②博物館での観覧順を守ることができます。
- ③博物館利用のマナーについて、理解し、実践することができます。
- ④展示場所により分野が違うことを指摘できる。
- ⑤タッチペネルに触れながら、資料について興味・関心をもつことができる。
- ⑥ワークシートやメモにより記録を残すことができる。

$G \leftrightarrow ⑥ \leftrightarrow ⑤ \leftrightarrow ④ \leftrightarrow ③ \leftrightarrow ①$
↓
②

5 観覧順路

1組 地形図	→ 自然史部門室	30	誘導
	→ 民俗部門室	(金城)	
2組 民俗部門室	→ 地形図	10	
	→ 自然史部門室	30	(松野)

6 授業の展開例

時	内容	博物館	教師	児童生徒
10時00分～11時30分 (90分)	児童72名 (2クラス) 引率3名 講座室使用	職員自己紹介 マナービデオ放映	代表者打合せ 児童着席指示	講座室着席
15	画像の観察 本時の目標確認 観覧順番の確認 誘導	施設案内画像 博物館観覧の目標 博物館の観覧順確認 誘導職員紹介	学級担任先導	展示室移動
10	観覧 1組 総合展示の観覧 「シマの自然とくらし」 説明 (10分) (文化の杜：中村)	黒潮・台風など	自然史部門展示室の観覧 展示ガイド (15分) (吉見) (高嶺)	着眼点をアドバイス メモ
30	観察 (10分) 移動 (5分)	全般的に説明	ワークシートへ向かわせる	ワークシート記入
2組 30	展示ガイド (15分) (佐久原) (宮里)	着眼点をアドバイス メモ	ワークシートへ向かわせる	ワークシート記入
5	まとめ 集合	点呼		
1組 2組	民俗展示室 民俗展示室 民俗展示室	自然史展示室 民俗展示室 自然史展示室	民俗展示室 民俗展示室 民俗展示室	まとめ

⑤ 社会見学

6 授業の展開

2008/11/27(木)
糸満市立西崎中学校 2年生
教師 10人
生徒 202名 (6クラス)
講堂使用

1 社会見学のねらい

- ①日頃の教育活動では、学習できない博物館の見学をすることによって、生徒の沖縄の歴史や社会に対する意識を高める。
- ②集団行動を通して、集団の一員としての自覚を高める。
- ③施設の見学を通して、見学のマナーや心得を習得する。

2 指導目標

これまでに学んだ地域の自然、歴史、文化について、実物資料や映像資料等により接する機会を持たせ、その豊かさや希少性、特異性に心を搖さぶられ、郷土のことについてさらに追求していこうとする態度を養う。

3 目標行動

- | |
|--|
| ①公共施設のマナーについて理解し、実際の行動で表現する中から、地域の中に残された、昔のくらしについて指摘できる。 |
| ②展示された実物資料や映像等の資料について指摘できる。 |

4 下位行動目標

- ①博物館見学のねらいを確認することができます。
- ②博物館での観覧順を守ることができます。
- ③博物館利用のマナーについて、理解し、実践することができます。
- ④展示場所により分野展示の内容が違うことを指摘できる。
- ⑤タッパネルに触れながら、資料について興味・関心をもつことができる。
- ⑥ワークシートやメモにより記録を残し、発表することができます。

G ← ⑥ ← ⑤ ← ④ ← ③ ← ①
↓
②

5 学級別順路

時	内容	博物館	教師	児童生徒
6	オリエンテーション 画像	職員自己紹介 施設案内・マナー		講堂移動
15	美術館館マナー 本時の目標確認	() 博物館観覧の目標		
		「タッパネルは自由時間に」を確認		
10	観覧順番の確認 誘導	博物館の観覧順確認 誘導職員紹介	担任学級先導	展示室移動
10	1組の観覧			
10	地形図	黒潮・台風・海水面上下		
10	自然史展示室			
10	考古展示室			
60	美工展示室			
10	歴史展示室			
10	民俗展示室			
		2・3・4・5・6組は観覧順による		
15	自由観覧			
		14時	15時	
1組	5 10 15 20 25 30 35 40 45 50 55 0 5 10 15 20 25 30 35 40 5 10 15 20 25 30 35 40 45 50 55 60 65 70 75 80 85 90 95 100	民衆 地形図 自然史 考古 美工 歴史 民俗	説導 ()	
2組		自然史 考古 美工 歴史 民俗	()	5 民家前集合
3組		地形図 自然史 考古 美工 歴史 民俗	()	
4組		自然史 考古 美工 歴史 民俗	()	
5組		地形図 自然史 考古 美工 歴史 民俗	()	
6組		地形図 自然史 考古 美工 歴史 民俗	()	

⑥ 総合的な学習の時間

2009/10/20(火) 金武町立金武中学校 3 年生 13 時 30 分～15 時 30 分 (120 分) 講師室 生徒名 123 名 (4 クラス) 使用

教師(知念)(仲村)(高江州)(小橋川)
(是志堅)(村吉)(伊藝)(仲間)

1 題主 「郷土の文化と歴史」

- ねらい**

 - ①広い視野を持つてさまざまな文化を理解する。
 - ②地域的な視野にたって課題を発見し追求する。
 - ③身近な地域から追求を広げながら社会を見つめる。
 - ④郷土の文化や歴史に触れ、他を見ることにより改めて郷土の良さを見つめ直す。

指導目標

 - ①生徒が広い視野に立ち課題を発見し追求する意欲を支援する。
 - ②金武町や沖縄県の文化や歴史を学ぶことの大切しさに気づかせ、改めて郷土の良さを理解し、さらに興味・関心を持つことができるよう支援する。
 - ③これまで身についた学習内容を、博物館の資料と関連付け、総合的に捉えて

3 標目導指

- | |
|---|
| ①生徒が広い視野に立ちち課題を発見し追求する意欲を支援する。 |
| ②金武町や沖縄県の文化や歴史を学ぶことの大切さに気づかせ、改めて良さを理解し、さらに興味・関心を持つことができるよう支援する。 |
| ③これまで身につけた学習内容を、博物館の資料と関連付け、総合的にいけるよう支援する。 |
| 目標行動（本時のねらい） |
| 博物館に展示されている資料を観察し、分かったことや疑問に感じたメモし、金武町や沖縄の歴史文化について気ついたことをまとめて、この学習に活用することができる。 |
| 下位行動目標 |
| ①博物館見学のねらいを確認することができる。
②博物館での観覧順を守ることができる。
③博物館利用のマナーについて、理解し、実践することができる。 |

4 目標行動（本時のねらい）

- 博物館に展示されている資料を観察し、分かったことや疑問に感じたことをメモし、金武町や沖縄の歴史文化について気づいたことをまとめて、これから の学習に活用することができます。

5 下位行動目標

- ①博物館見学のねらいを確認することができます。
 - ②博物館での観覧順を守ることができます。
 - ③博物館利用のマナーについて、理解し、実践することができます。
 - ④展示場所により分野展示の内容が違うことを指摘できる。
 - ⑤タッチパネルに触れながら、資料について興味・関心をもつことができます。
 - ⑥ワークシートやメモにより記録を残します。

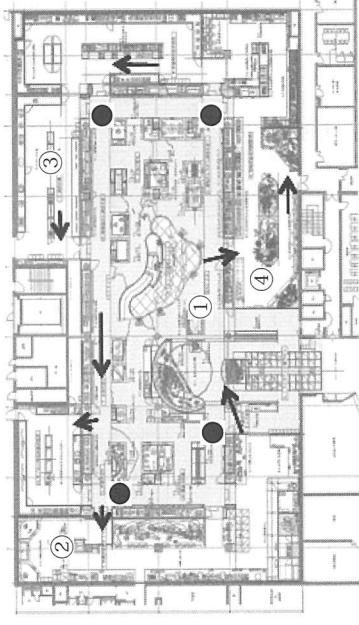
G → (6) → (5) → (4) → (3) → (1) ↴
②

6 學級別順路

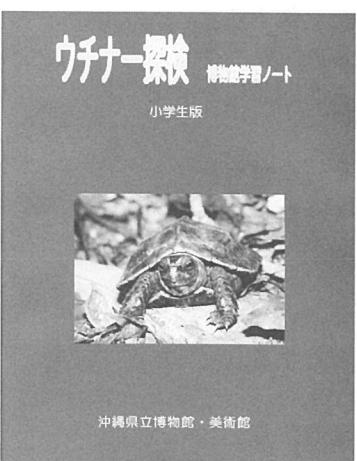
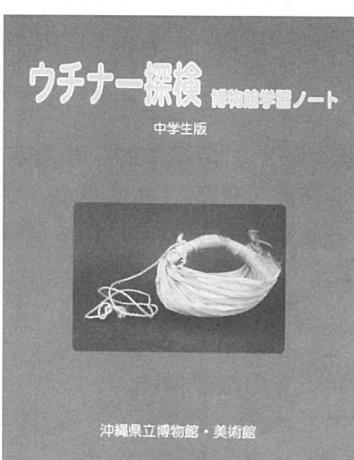
1組	地形図	自然	著古	史	歴史	民俗	歴史	著古	自然	著古	地形図
2組	民俗	地形図	自然	著古	史	歴史	民俗	著古	自然	著古	地形図
3組	歴史	民俗	地形図	自然	著古	史	歴史	民俗	著古	自然	地形図
4組	著古	史	地形図	自然	著古	民俗	歴史	民俗	著古	自然	地形図
	著古	史	地形図	自然	著古	民俗	歴史	民俗	著古	自然	地形図

7 横の展開

時	内容	博物館	教師	児童生徒
6 15	オリエンテーション 博物館紹介 CD 行動目標確認 誘導職員紹介	職員自己紹介 画像放映 誘導 誘導は、後方支援	代表者打合せ（副担任の配置等） 生徒着席指示 担任学級先導	講堂室着席 展示室移動
95	展示室観覧 地形図（シマの自然とくらし）（文化の杜 福島） 自然史（高齢）10分 歴史（移民）新田 民俗（松川）（福村）15分 1組 地形図→自然史→考古→美工→歴史→民俗 2組 民俗→地形図→自然史→考古→美工→歴史 3組 美工→歴史→民俗→地形図→自然史→考古 4組 自然史→考古→美工→歴史→民俗→地形図	時間管理は担任 学級担任の先導	観覧から自由見学への移行は 学級担任で指示	
10	集合（美の庭） ねらいのふり返り			



過去の『博物館学習ノート』



2 博物館学習ノート

(1) 『博物館学習ノート』作成に当たっての基本事項

① これまでの博物館学習ノートについて

小学生のための『博物館学習ノート』	1988年3月	発行
中学生のための『博物館学習ノート』	1989年3月	発行
高校生のための『博物館学習ノート』	1990年3月	発行
『博物館においてよ』－博物館ワークシート－	1992年3月	発行
『発見！発見！大発見 博物館探検コース』	1995年3月	発行
『ウチナー探検 博物館学習ノート－中学生版－』	2008年3月	発行
『ウチナー探検 博物館学習ノート－小学生版－』	2009年3月	発行

② これまでのワークシートに見られる課題

1988年から1990年にかけて、三冊に分けて製作されたノートは、それぞれの校種に合わせて発達段階に応じた形で作られ、分かりやすい。博物館に初めて来た人でも、資料についての大まかな理解が可能になるガイド的な内容となっている。問題の数も少なめで、資料の紹介からはじまり、学習を促す形がとられている。

『博物館においてよ』については、小・中・高を網羅するという方針で作られた。イラストによる資料の紹介が多く取り入れられ、見やすくする工夫がなされている。しかし、1つの頁に設定した問題の数が多い傾向がある。

そのため必要な頁をコピーしてそのまま使えるものが少ない。このシートを活用して来館した学校で、問題の回答に多くの時間を費やし、資料をじっくり見ることができていない場面が多く見られるようになった。

『博物館探検コース』は、試験的に製作されたワークシートである。ページ数も少なく、各分野の代表的な資料を選定し、見ることで解答が導き出されるような問題設定の試みがなされている。

今回の新館において活用される学習ノートには、以上のような状況を踏まえつつ、児童生徒が展示資料に向かっていくような工夫が必要である。

③ 「博物館学習ノート」の基本的な考え方

これまで博物館で作成してきた、学習ノートの課題を考慮し、モノ（博物館資料）から出発してモノの観察をとおして、見えないところまで興味関心を広げられるようなワークシートを作成する。

ア 博物館学習ノートの位置付け

- ・博物館において、調べ学習ができる『博物館学習ノート』とする。
- ・博物館の展示構成を基本とする。
- ・学校の教育課程と関連する項目には、単元名を記載する。
- ・博物館資料の観察・体験を誘導する内容とする。
- ・資料を観察・体験することで答えが導き出せる問題設定をする。
- ・生徒が答えを見出し、更に追求する方向へ導く。
- ・設問数は精選し、生徒に発見のためのゆとりを持たせる。
- ・学習意欲や思考力を高める設問を設定する。

イ 内容について

- ・沖縄の豊かな自然や先人の知恵に結びつく内容とする。
- ・常設展示の各展示室のつながりを考慮する。
- ・学校で用いる表現と博物館での表現の違いを考慮する。

ウ 記述について

- ・設問の意図は適切か。
- ・図や写真で表したほうが良い個所はないか。
- ・強調文字で表したほうがよい個所はないか。
- ・主語や述語、修飾語と被修飾語などの対応は正しいか。
- ・文字用語の統一は取れているか。
- ・誤字、脱字、当て字がないか。
- ・仮名遣い、送り仮名の使い方は正しいか。

エ 役割分担

	博物館	委員
テーマの選定	○	○
資料情報の提供	○	
設問作成	○	○
試案の検討		○
モニタリング	○	○
最終原稿	○	

(2) 『博物館学習ノート』作成実施計画

① 作成計画

- ア 3年計画で、小・中・高の校種別の『博物館学習ノート』(以下「ワークシート」という。)を作成する。
- イ ワークシートは、平成19年度(中学生版刊行済)、平成20年度(小学生版刊行済)、平成21年度(高校生)、の計画で作成を進める。
- ウ 博物館において平成元年から3年にかけて作成されたワークシートと、平成5年の『博物館においてよ』を参考に新版として作成する。
- エ 新館の展示や体験資料の中から、児童・生徒が観察・体感することによって、自ら学ぶよう導くワークシートを作成する。
- オ 県内博物館教育関係者及び高等学校教諭より、総括1名、委員4名の合計5名の委員を委嘱して、博物館職員を含めた作成委員会を発足させる。

② 方針

- ・博物館の展示構成を基本とする。
- ・文章を少なくし、図や写真で視覚に訴えるものにする。
- ・展示全体を見て調べるものと、部分を集中して観察する資料のバランスが取れたものとする。
- ・他の分野との関連性のある資料を紹介し、展示室を総合的に活用する問題も積極的に取り入れる。
- ・生徒が短時間(10分~15分)で、博物館の部門展示を観覧することを考慮する。
- ・展示室で学級(班)がまとまって観察する場面にも対応する内容とする。
- ・先に作成された「中学生版」、「小学生版」と相互に補完するものとする。
- ・ふれあい体験室や体験学習教室と関連を持たせることができる問題も取り入れる。

③ 作成方法

- ア 各分野の常設展示資料の中から学芸員が選択し、内容を決める。
- イ ノートは、全体で60ページを分野別に配分する。(頁の配分は調整することもある)
歴史(14) 考古(8) 自然史(14) 人類(2) 美術工芸(8) 民俗(14)
- ウ 草案ができたら、近隣の学校に使用させて問題点を検討する。(モニタリング)

- エ 各分野を総合歴史、民俗、自然史で班編成し、設問の編集検討を進める。
オ 全体会議は、3回実施し、分野（班）別会議は隨時開催する。

④ 取組計画

- ア 編集委員の依頼（学芸員による）
イ 草案（原稿）提出（学芸員が執筆）
ウ 生徒によるモニタリング
エ 原稿修正、調整
オ 印刷完了
カ 学校への配布

⑤ 『博物館学習ノート』作成委員

1 前田 真之	西原町立西原小学校	元校長
2 富田 志恒	沖縄県立読谷高等学校	教諭
3 仲田 邦彦	沖縄県立南風原高等学校	教諭
4 大城 勝	沖縄県立首里高等学校	教諭
5 瀬長 英太	沖縄県立大平特別支援学校	教諭

総合歴史班

崎原・羽方・藤田・山崎・川平
前田・富田

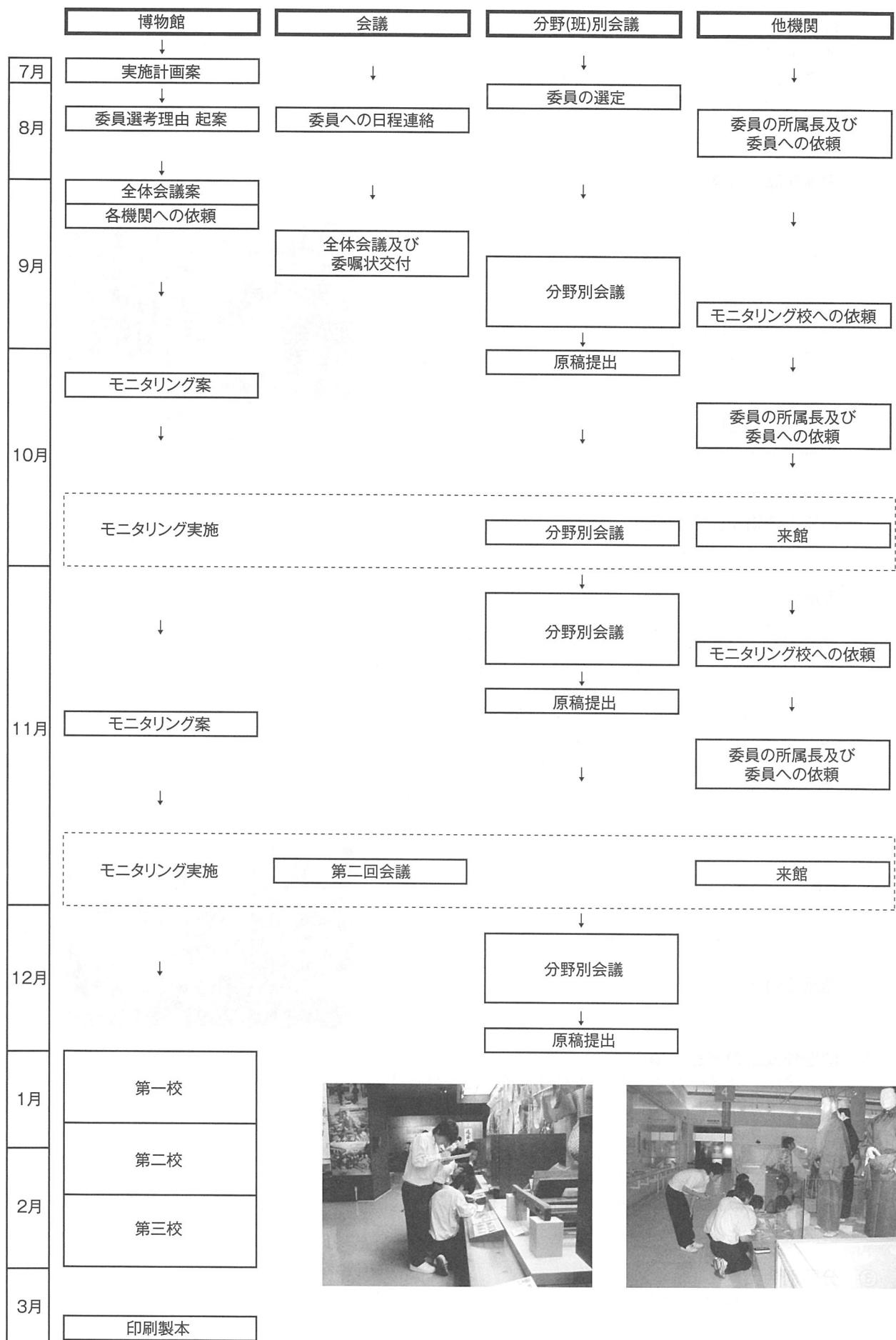
自然史班

田中・仲里・濱口班長
大城

民俗班

岸本・与那嶺
瀬長

⑥ 作成作業工程表



(3) モニタリング

① ねらい

博物館において作成を進めている『博物館学習ノート』(ワークシート)について、生徒の解いた答案を回収し、設問に取組む場面の観察等により、『博物館学習ノート』の内容を深化させるための資料や情報を収集する。

② 実施団体・日時

第一回

日時 平成 21 年 9 月 17 日(木) 11:00 ~ 12:00
沖縄県立首里高等学校 2 年生 33 名

第二回

日時 平成 21 年 10 月 26 日(月)
沖縄県立読谷高等学校 40 名

第三回

日時 平成 21 年 11 月 2 日
沖縄県立南風原高等学校



モニタリングの様子
(読谷高等学校)

③ 場所：博物館総合展示室

④ 方法

- ア 学校の博物館見学のねらいをもとに、モニタリング調査の協力を依頼する。
- イ 学校主体の観覧を行い、後半部においてワークシートのモニタリングを実施する。
- ウ ワークシートは、学級や学級の班に配分し、各分野の全シートが複数班により活用できるようにする。
- エ 一班が、2つのワークシートを活用する。
- オ ワークシートを活用して展開する時間は、30 分で調整する。(1 シート 15 分)
- カ ワークシートは、観覧当日、配布する。
- キ ワークシートは、博物館で準備し、活用後複写し、原本を学校へ送付する。
- ク モニタリング後にアンケートを実施する。

(4) 会議

○ 第一回全体会議 平成 21 年 7 月 30 日 議事録

① 認証交付式



会議写真

② 問題作成上の確認事項

- ・小学校・中学校のノートを基本に高校生用を作成する。
- ・各専門分野があるので、学芸員が基本を押さえ作成する。
- ・モニタリングをとおして、生徒の実態に即したものにする。
- ・歴史分野の中に、平和教育も必ず挿入してほしい。
- ・分かりやすく、学習が楽しくなるようなノートの作成にする。
- ・全体会での共通理解を各分野で生かし作成していく。

③ 分野別会議

- ・各分野の中身の検討と、今後の各分野での会議の日程の調整。

○ 第二回博物館学習ノート全体会議

開催日 2009年11月17日（火）16:00～17:00
会場：博物館実習室

●モニタリングから

- ・出来る子と出来ない子の差はあるが、少し難しい部分もあっていいのではないか。また、事前学習が必要と感じた。
- ・見て書いて欲しいところをすぐに答えを探す傾向が見られた。
- ・自然分野では、問題にレベルをつけないことで確認している。
- ・ワークシートを作成する際も、絵や図がないと理解しづらいだろう。



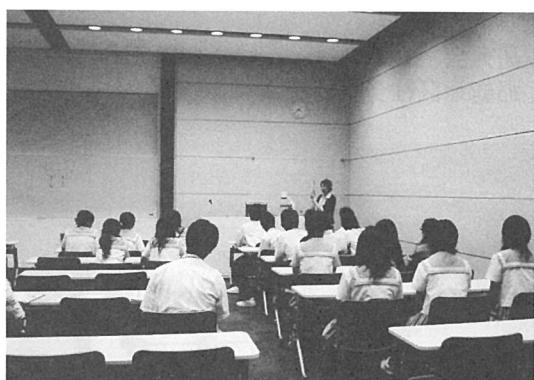
モニタリングの様子
(南風原高等学校)

●ワークシート全体について

- ・下見の際に、博物館ではどういった学習が出来るのか、ワークシートを利用する場合も含めて、見学内容のアドバイスをしていった方がいいだろう。
- ・どういった形で博物館学習をとる事が可能か。
総合学習が2時間あるのでこの時間での利用や、少数人数での利用なら可能だろう。
- ・生物では、博物館学習は1～2月頃で授業としては1時間程度しかないと必修の項をとる形にした。生徒達で選択して、見学させ学校で持ち帰ってまとめるのも可能ではないか。
- ・那覇国際高校は、2年連続で博物館を利用している。事前に先生から申請があり、クーポン的なもので出席をとる形にしている。
- ・ワークシートを各学校へ配布しているが、知らない先生も多い。どうしたらいいのか。
学校によっては、届いた資料の扱いはバラバラなので、教務、研究主任などが持つように博物館から発送する際に、一文入れて送付してはどうか。
校長会、教頭会で紹介していった方が良い。
- ・ワークシートの活用などのチラシを作成し配布していった方がよい。



モニタリングの様子
(首里高等学校)



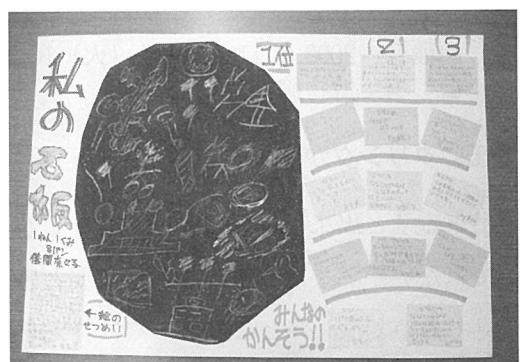
モニタリングについての説明
(読谷高等学校)

3 出前授業

今年度より、博物館と学校が連携して、出前授業を開きました。那覇市内の中学校の美術の授業に考古の学芸資料を用いて資料を観賞し、発想を膨らませ、豊かな表現力を養うための取り組みを行いました。

①那覇市立上山中学校

中学校の美術の授業に線刻石板を用い、授業の導入を羽方学芸員（考古担当）が行いました。



私の石版（作品）



授業の様子



線刻石版を観察

4 職場研修受入

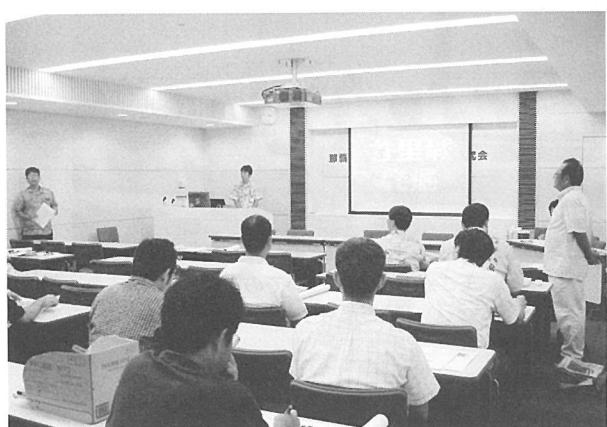
学校の校内研修をはじめとする職場の研修を受け入れました。博物館の教育普及と関連の強い団体に関しては、ミニ講座及び学校受入の概要の説明をしました。学校連携事業の中での学校団体観賞については、博物館を利用して学ぶ、学習プログラムを組み立てるなど、学習プログラムの流れを説明しました。また、フリーパスやIPMなどの博物館が取り組んでいる内容の周知を図りました。

① 学校職員研修

名護市立稻田小学校

② 研究会

那覇地区社会科研究会

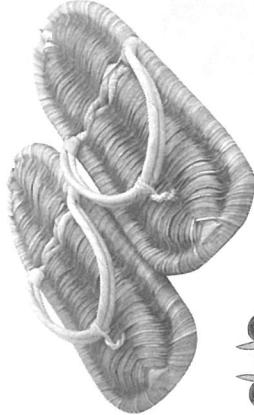


講座の様子 1. (社会科研究会)



講座の様子 2. (名護市立稻田小学校)

アサシン葉サバをつくろう



2009年
4月26日(日)
・アダン葉の下準備
5月10日(日)
・編み込み
6月14日(日)
・編み込み・仕上げ

9:00～12:00 (3日間)

申込みは、
4月12日(日)
までよ♪

沖縄の民具の一つである
サバ(ぞうり)を、アダ
ン葉で作っていきます。
全作業工程を体験してみ
よう！！



講 師：上運天研成（おもちゃの会ノキオ会長）

会 場：博物館・美術館 博物館実習室

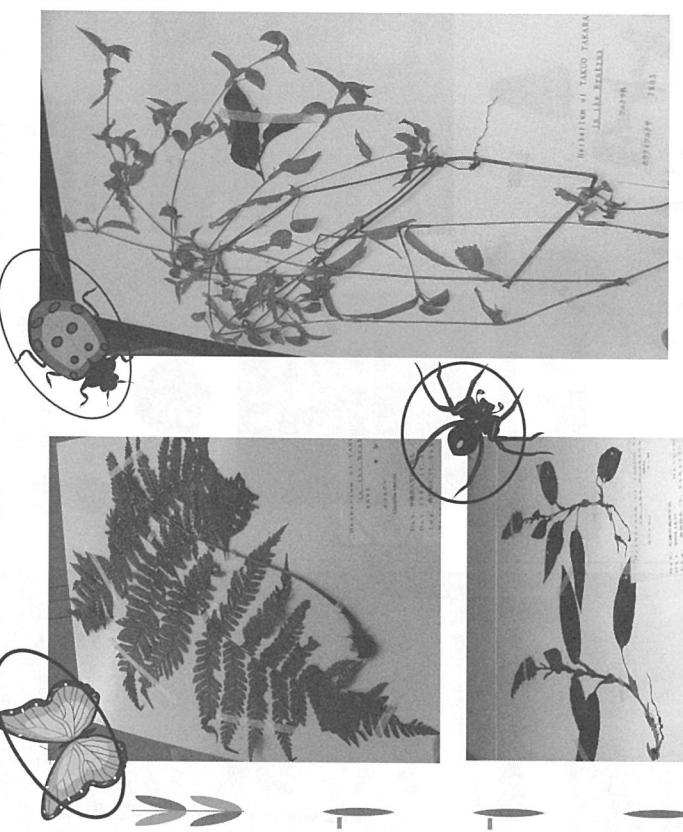
定 員：20名 (小学生3年生以上～大人)
※ 大人のみの参加も可

※ 応募者多數の場合は、抽選となり、当選者
にのみ連絡いたします。

参 加 費：500円

お問い合わせ：沖縄県立博物館・美術館 tel098-941-8200 (中村)
開館時間：9:00～18:00(金曜日・土曜日は20:00まで) 休館日：毎週月曜日(月曜日が祝日の際はよく火曜日)

植物標本をつくろう



講師 日越 國昭 新城 和治

平成 21 年 7 月 26 日 (日)・8 月 16 日 (日)

午前 9 時～15 時 16 日午前 9 時～12 時

場所：浦添城址公園 沖縄県立博物館・美術館実習室

お問い合わせ：沖縄県立博物館・美術館

Tel 941-8200 Fax 941-2392 (中村)

定員 20 名

平成21年度 第5回博物館体験学習教室

チビガネリでつくりの懐きやか面作り

講師 本田 伸明
(陶芸家)

関連イベント 「琉球使節・江戸へ行く
~琉球慶賀使・謝恩使一行2,000キロの旅絵巻~」

博物館体験学習教室 4

行列図絵巻をつくろう

講師 當間 巧(表具師)
関連イベント 「琉球使節・江戸へ行く
~琉球慶賀使・謝恩使一行2,000キロの旅絵巻~」

講師 前田 賢二
(書道家)

博物館の開館イベントとして
マイ行な絵巻物をつくって
みませんか

日時：10月11日（日）・11月8日（日） 9：00～12：00
定員 20名（小5年以下） 場所 博物館実習室
申込締め切り 9月27日 参加費 1,000円

お問い合わせ：沖縄県立博物館・美術館 TEL：098-941-8200（窓口：中井）
開館時間：9：00～18：00（金曜日・土曜日は20：00まで）休館日：毎週月曜日
（月曜日が祝日の時は、翌平日）

会場：沖縄県立美術館・博物館 定員 30名
TEL：098-941-8200 FAX：098-941-2392（中井）

第3回博物館体験学習講座

印をつくろう・②

講師 前田 賢二
(書道家)

書や絵画に使われる印の種類や使い方
を学び、博物館の展示されているもの
を参考に影ります。

○日時 第1回 8月9日（日） 9：00～12：00 連続出席可能な方に限る
第2回 9月13日（日） 9：00～12：00
○対象 小学校高学年以上～大人（小学生の場合は保護者同伴） ○参加費 1,000円
○申込締め切り 7月31日（金） ○定員 20名（複数名の場合は地図の上、当選者が記述）
○連絡先 TEL：098-941-8200（窓口：中井）
○主催 沖縄県立博物館・美術館
9：00～18：00（金曜日・土曜日は20：00まで）
休館日：毎週月曜日（月曜日が祝日の時は、翌平日）

III 体験学習教室

1 博物館体験学習教室実施要項

(1) 主旨・目的

沖縄の歴史や文化及び自然と結びついた体験的な活動をすることによって、郷土の文化や伝統に关心を持たせ、先人の知恵等を学ぶ。

(2) 内容

博物館の各分野（自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗）の展示内容と関連した体験的な活動を通して、県民が有意義に楽しく学ぶことが出来るよう企画する。

定員	期日	題	講師名	内容	定員
1	09.4.26	アダン葉サバをつくろう	上運天研成 おもちゃの会ピノキオ会長	沖縄の民具の一つであるサバ（草履）を、アダン葉でつくる体験をする。	20
	09.5.10				
	09.6.14				
2	09.7.26	植物標本をつくろう	新城和治 元琉球大学教授 日越 國昭 恩納村立博物館館長	博物館近隣の公園における植物の採集と、採集した資料を標本にする方法を体験する。	20
	09.8.16				
3	09.8.9 09.9.13	印をつくろうⅡ	前田 賢二 書道家	書や絵画に使われる印の、使い方を学び、制作する。	30
4	09.10.11 09.11.8	行列図絵巻をつくろう	當間 巧 表具士（石川堂）	特別展の関連イベントとして、行列図絵巻の作製体験をする。	30
5	09.12.13 10.1.10	手びねりでつくる焼物	本田伸明 沖縄クチャ 赤土造形	博物館の陶器資料を参考にしながら、シーサー作りを体験する。	30

(3) 実施日と場所

実施日：毎月1回、第3日曜日

午前9時～12時までの3時間

場 所：特に指定がない場合は、博物館実習室（1F）

(4) 受講方法

※1ヶ月前までに広報し、2週間前までに募集をかける。応募者多数の場合は抽選する。

（公平を期すため、館長による抽選。）

※抽選の場合、当選者には、すぐに当選の通知連絡を行う。

(5) 体験学習教室に係る役割

i 前日まで

- | | |
|---------------------|-------------------|
| ① 事業起案及び講師依頼 | 博物館（教育普及担当） |
| ② マスコミ各社への受講生募集依頼 | 指定管理者 |
| ③ 受講生受け付け | 指定管理者 |
| ④ 講師打ち合わせ | 博物館（教育普及担当） |
| ⑤ 説明資料作成 | 博物館（教育普及担当） |
| ⑥ 材料・用具等の諸準備 | 指定管理者・博物館（教育普及担当） |
| ⑦ ボランティア事前学習・準備作業調整 | 友の会・博物館（教育普及担当） |

ii 当日運営

- | | |
|----------------|-------------------|
| ① 受け付け及び材料費の徴収 | 指定管理者 |
| ② 開講式 司会 | 指定管理者 |
| ③ 講師紹介 | 博物館（教育普及担当） |
| ④ 運営責任者あいさつ | 指定管理者 |
| ⑤ 講座の進行 | 指定管理者・博物館（教育普及担当） |
| ⑥ 材料等の準備及び配布 | 指定管理者 |
| ⑦ 記念撮影 | 指定管理者 |
| ⑧ 映像撮影 | 指定管理者 |
| ⑨ 報償費支払い事務 | 指定管理者 |

2 体験学習教室活動資料

博物館体験学習教室 1

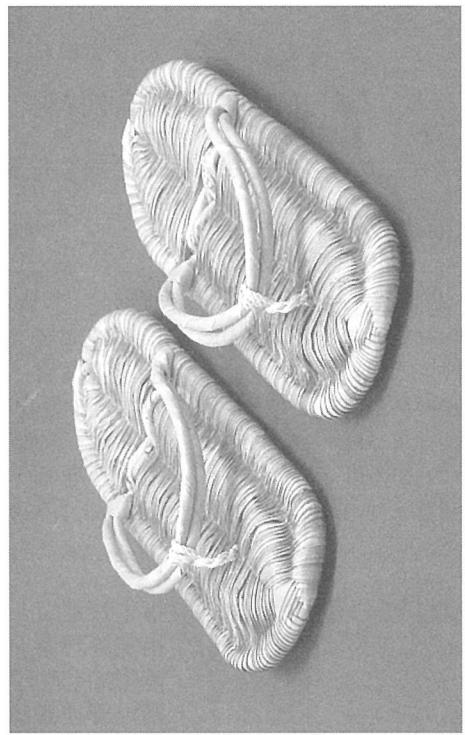
平成21年度

講師紹介
上運天 研成先生

博物館体験学習教室

第1回講座

アダン葉サバをつくる



平成21年度博物館体験学習教室の第一回目に当たる今回は、沖縄の昔ながらの民具の1つであるアダン葉サバを作ります。サバは、草履のことで、沖縄の海岸に多く自生しているアダンの葉を素材にします。

今回の講師である上運天氏は、沖縄県立博物館で昨年は運廻作りの際にもご協力いたしました。上運天氏は、幼少のころから実際に制作し、使用されてきたと聞いています。実用のアダン葉サバの制作技術を今回の体験学習教室でご教授願いたいと思います。今回の体験学習に先立ち、実際に使用したことのある方で、アダン葉サバを作ることができるのは、なかなか見つかりませんでした。このサバ作りも伝統的な技術ではあります。上運天氏からのご指導はとても貴重なものとなるものと思われます。

今回の体験学習教室の中で、自然の材料を生かしながら、豊かな知恵を働かせてきた昔ながらの「民具」にも興味を持つていただけたら嬉しく思います。さらに博物館のふれあい体験室や、展示資料とも結びつけながら、郷土の自然や歴史、伝統文化を学ぶきっかけとなることを願っています。

期日 平成21年4月26日(日)・5月10日(日)・6月14日(日)

時間 午前 9:00～12:00

場所 沖縄県立博物館 実習室

日程	受け付け	9:00 ~ 9:15
	開講式及び諸連絡	9:15 ~ 9:30
	講座	9:30 ~ 11:30
	後片づけ	11:30 ~ 11:45
	閉講式	11:45 ~ 12:00

博物館 体験学習教室 第1回講座

「アダン葉サバをつくろう」実施計画

1 目的

博物館体験学習教室は、子どもを中心とした県民に対し、体験を通して郷土の自然や歴史の中で育ってきた知恵、伝統文化について理解を深めるための機会を提供する。

2 日 時

平成21年4月26日(日)・5月10日(日)・6月14日(月) 9:00 ~ 12:00

3 対象者

親子・一般

4 募集人員

20名(多数の場合には抽選)

5 日 程

9:00 ~ 9:15
受付

6 講師

始めの言葉・司会(文化の杜:中村)

講師紹介・教育普及担当(上原)

終わりの言葉・司会

7 後片づけ

8 後片づけ

始めの言葉・司会(文化の杜:中村)

講師によるまとめ

記念撮影

終わりの言葉・司会

9 上運天

10 後割分担

11 後割分担

12 後割分担

13 後割分担

14 後割分担

15 後割分担

16 後割分担

17 後割分担

18 後割分担

19 後割分担

20 後割分担

21 後割分担

22 後割分担

23 後割分担

24 後割分担

25 後割分担

26 後割分担

27 後割分担

28 後割分担

29 後割分担

30 後割分担

31 後割分担

32 後割分担

33 後割分担

34 後割分担

35 後割分担

36 後割分担

37 後割分担

38 後割分担

製作手順

① アダンの収集

海岸に自生している
公園のアダンは許可が必要
若すぎる葉も古い葉も良くない、中央から5・6枚目当たりから採集する。
だけのない種類は、耐久性がない。

② アダン葉の仕込み

採集して3日ほど間をおいて少し乾燥させる
アダン葉を二つに裂く
採集したての葉は、二つに裂きにくい。

③ 芯紐組

四本に分かれた内側二本を使う
整形具を当てて台木に針先をつけ
アダン葉を内側に引くように裂く。

④ 葉を平たくする

⑤ そのまま乾燥をさせると葉が反り返るので、整形具を使って延ばす。

⑥ 講師によるまとめ

⑦ 記念撮影

⑧ 終わりの言葉・司会

⑨ 上原

⑩ 文化の杜

⑪ 文化の杜

⑫ 文化の杜

⑬ 文化の杜

⑭ 文化の杜

⑮ 文化の杜

⑯ 文化の杜

⑰ 文化の杜

⑱ 文化の杜

⑲ 文化の杜

⑳ 文化の杜

㉑ 文化の杜

㉒ 文化の杜

㉓ 文化の杜

㉔ 文化の杜

㉕ 文化の杜

㉖ 文化の杜

㉗ 文化の杜

㉘ 文化の杜

㉙ 文化の杜

㉚ 文化の杜

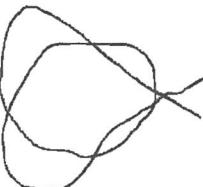
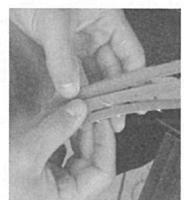
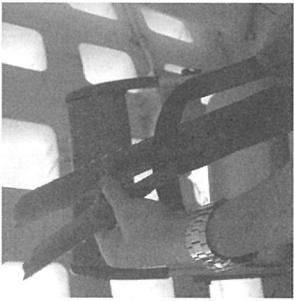
㉛ 文化の杜

㉜ 文化の杜

㉝ 文化の杜

㉞ 文化の杜

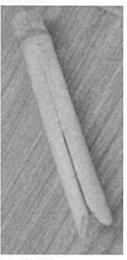
㉟ 文化の杜



四本に分かれた内側二本を使う。

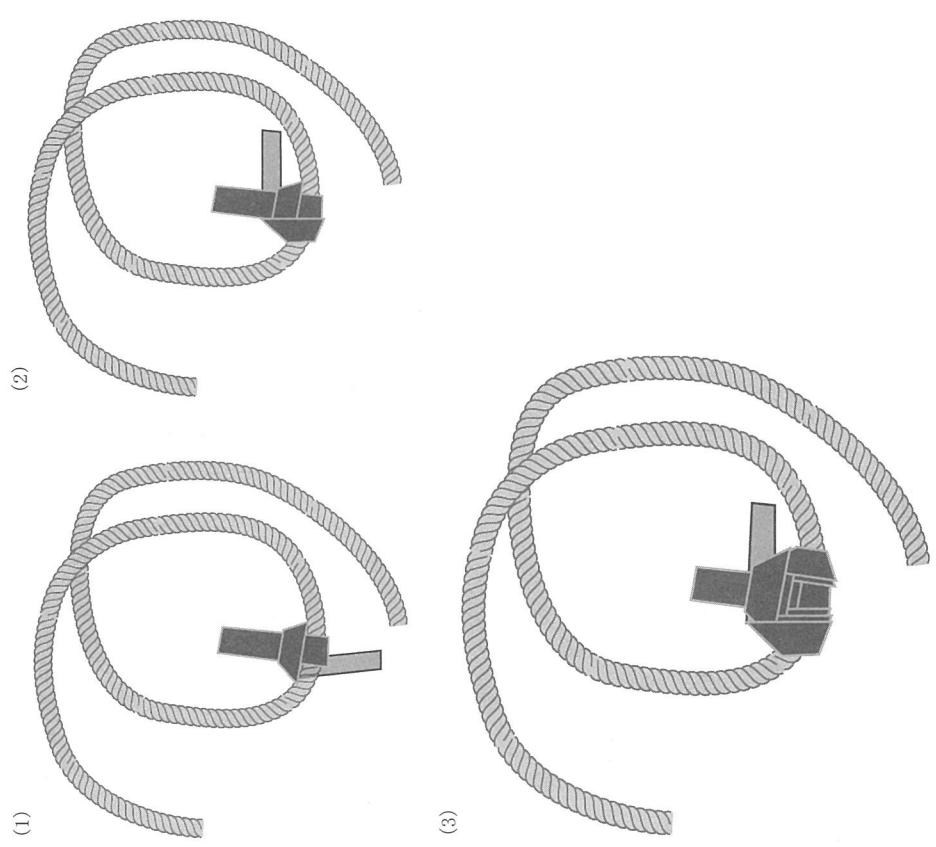
整形具を当てて台木に針先をつけ
アダン葉を内側に引くように裂く。

葉を平たくする
そのまま乾燥をさせると葉が反り返るので、整形具を使って延ばす。



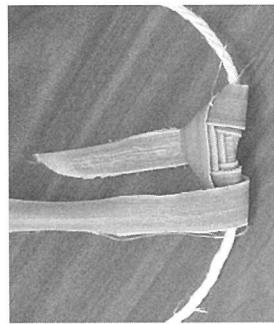
㉟ 文化の杜

- ④ アダン葉の組み出し
- i 組み始めの段階は大きく三つの段階がある
- i 組み始め
- ii 両端紐の合流
- iii 四本の芯紐通し(本組)
- 1 組み始め
- 紐の下から裏返しの葉を7cmほど出し、折り返した
葉は、左側の下向きに巻き戻つて左側に出た
葉の横から巻き戻つて左側に出てくる。
右に出た葉を、手前に折り返し下方向に巻き上げ、
右に出でくるようにする。
さらにもう一度葉を、初めて出した葉の上横から巻く
ようにして、左下へ持っていく。
(組み始めのスタートに戻る)
同様な作業を三回繰り返す。

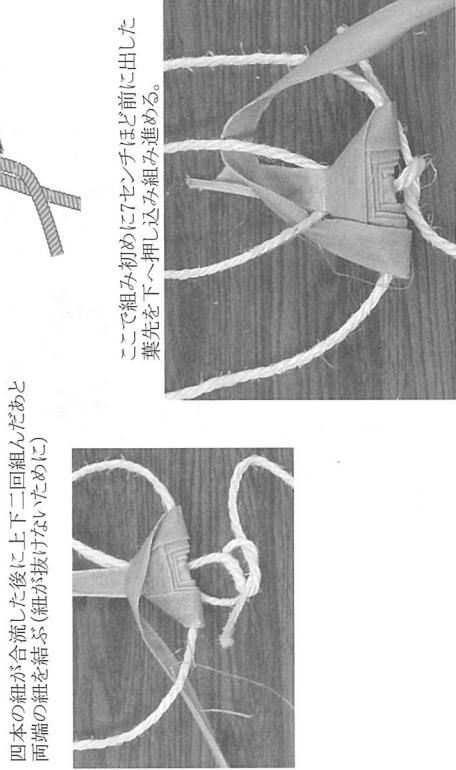


ii 両端紐の合流
組み始めと同様な組み方を進めながら、
両端紐を合流させて組み進める。

組み始めの図

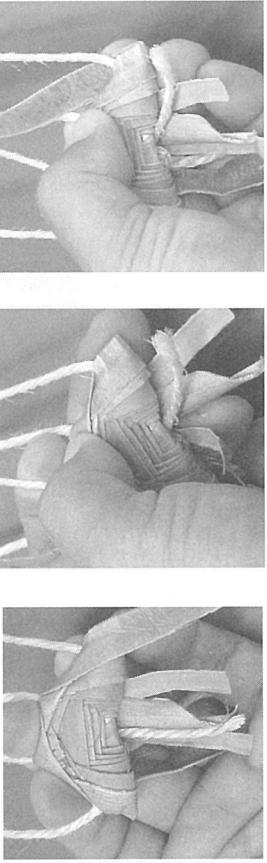


正面から
両端紐の合流
四本の芯紐通し(本組)

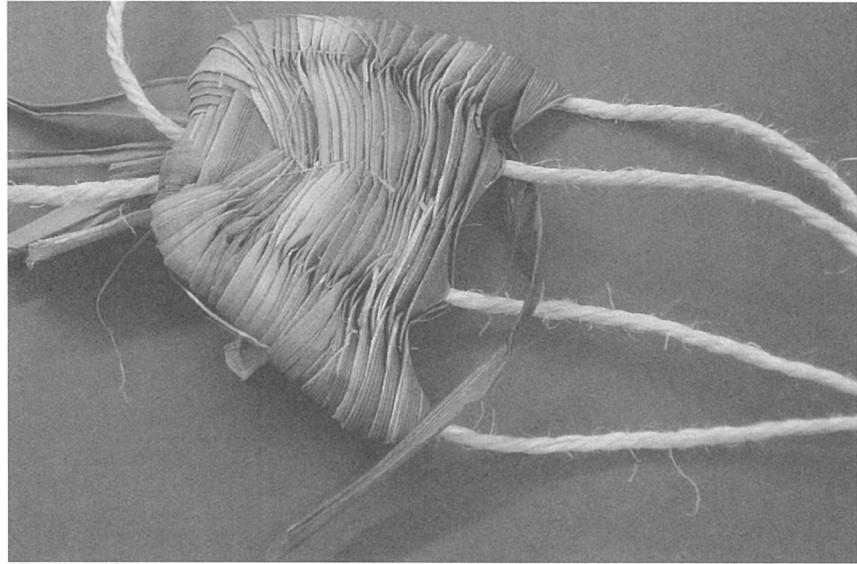
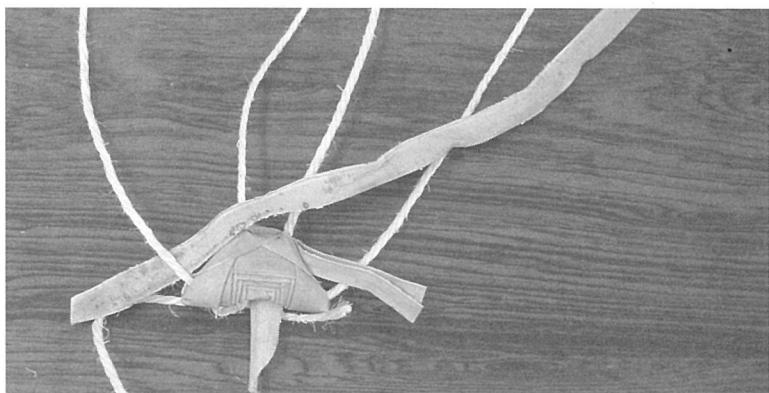


iii 四本の芯紐通し(本組)

この後組み方は、基本的には同じように進めています。
本体の幅を狭くする際には、ひもを強くひきながら組み進める。
特に両端を回り込まざる時、強く(しっかりと)組むこと、ゆるみが少なくなる。
※始め緩くすると、あとでの修正は難しい。



一枚の葉が終了するときには、10センチほどかぶせるようにして、継ぎ足していく。



緒のつけ方と仕上げは、実際の講座の中で…

自由メモ

植物標本をつくろう

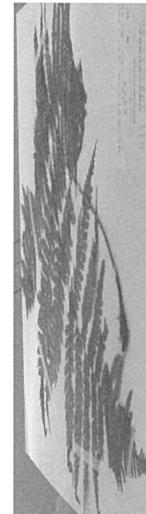
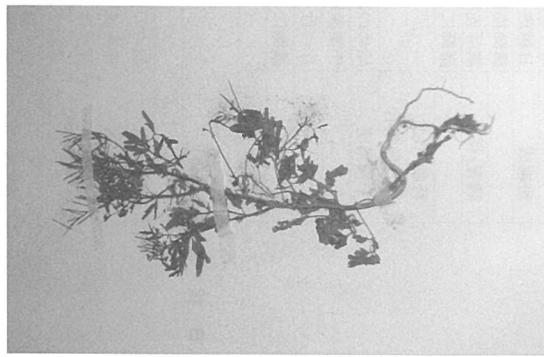
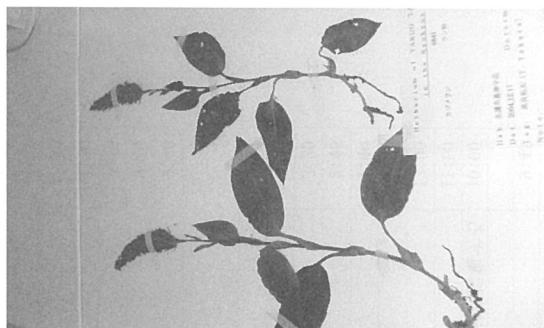


博物館体験学習教室「植物標本をつくろう」の講師を紹介します。新城和治（しんじょうかずはる）先生です。先生は、植物分野の専門家で琉球大学教授として、理科教育や植物学を指導されてこられました。沖縄の多くの地域で野外調査を実施されており、琉球の自然史にとてもくわしい先生です。文化財保護への貢献により2001年度沖縄の県文化功労者として表彰されています。新城先生には、館の屋外展示として末吉の森の植物を植え付けする際に、何がよいか選んでいただきました。博物館の庭の植物も後で必ず観察してください。



もうお一人は日越国昭（ひごくにあき）先生です。先生は、沖縄立博物館の自然史担当の学芸員と、植物や天然記念物を担当する職員として、多くの野外調査にかかわってこられました。また、石川少年自然の家では、所長としてお勤めになり、たくさんの児童生徒に沖縄の自然に親しんでもらうためいろいろ取り組んでこられました。現在は恩納村博物館長をなされている標本をはじめ、末吉公園の植物標本を製作されております。先生の標本を展示室でも見て下さい。

今回の「植物標本をつくろう」という講座では、身近な沖縄の植物に興味をもつことと、標本作りを通して、整理や保存の方法を学ぶことを目的としています。公園を管理している事務所にお願いして採集が出来るようになります。今回採集させていただく植物はすべて生命あるもので、最小限必要な範囲で採集してください。また、危険なものとして注意していただきたいことが三つあります。ひとつは、毒ヘビのハブです。二つめは、「かぶれる」植物です。三つ目は、口に入れではない植物です。それぞれ講師の先生をはじめとする職員の注意を守って活動してください。今回の体験学習教室の中で、沖縄の自然に興味を持つていただけたら嬉しいと思います。さらに博物館のふれあい体験室や、展示資料とも結びつけながら、郷土の自然を学ぶきっかけとなることを願っています。



- ① 1日目 7月26日（日） 9：00～12：00 13：30～16：00
② 2日目 8月16日（日） 9：00～12：00

日時

- ① 1日目 午前・・・浦添大公園 午後・・・博物館実習室
② 2日目 博物館実習室

場所

博物館体験学習教室第2回講座

「植物標本をつくろう」実施計画

1 目的 (1)身近な植物の観察とその採集を通して、郷土の自然に対する興味関心を持つ。
(2)採集した植物を研究するための標本作りと整理・保存の方法を体験する。

2 日時 (1)平成21年7月26日(日) 9:00~16:00
(2)平成21年8月16日(日) 9:00~12:00

3 講師 新城和治先生(元琉球大教授) 日越国昭先生(恩納村立博物館館長)

4 対象者 小学校3年生以上の親子

5 募集人員 20名(多數の場合は抽選)

6 日程 1 (7月26日)

受付	9:00
開講式	9:15
標本製作	始めの言葉
	講師紹介
班編成	日課班と新規班に分ける
調査・採集	講師先導のもと調査をしながら採集する
	講師によるまとめ
移動・昼食	10:00 11:50 12:00
博物館集合	1:30
午後講座	1:40
	作業説明及び作業
片づけ	2:45
	3:20
講師によるまとめ	3:30
初回日程終了	3:35

日程 2 (8月16日)

受付	9:00
開講式	始めの言葉
標本製作	作業説明及び作業
片づけ	11:30
	講師によるまとめ
記念撮影	11:30
運営者まとめ	11:45
終了	11:55

7 準備

- 博物館で準備するもの 受講生が準備するもの
 - ・救急箱
 - ・長袖の上着
 - ・帽子(つば付)
 - ・帽子(つばなし)
 - ・運動靴
 - ・運動靴
 - ・水筒
 - ・ビニール袋
 - ・ビニールひも
 - ・雨具
 - ・筆記用具
 - ・新聞紙
 - ・セロハンテープ
- ※あると便利
 - ・虫眼鏡
 - ・カメラ
 - ・図鑑(ボクサツダイヤ)
- 草の場合は根からていねいに採集し、土を落とします。
- 樹木の場合は、はさみ紙の大きさ(新聞紙の1/4)を考慮して枝を切って袋に入れます。
- シダ植物の場合は、小さなビニールに入れて採集袋に入れます。
- ごわれやすい花や果実の場合は、小さなビニールに入れて採集袋に入れます。
- では両方必ず採集します。また、地中にある地下茎まで採集するようにします。
- 採集した植物は、できるだけ早く標本にします。
- ※採集袋はしつかり閉めて、植物がしおれないようにします。

植物標本づくり

植物の標本は、生きているそのままの状態のものはつくれないので、多くの場合乾燥させてつくります。乾燥させて適切な保管をすれば100年にわたって観察に使うことができます。標本づくりでは、植物が生きているときには立体的だったものを平たくして保存します。そういうことで、取り扱いや観察をしやすくし、まだ効率よく収納することができます。

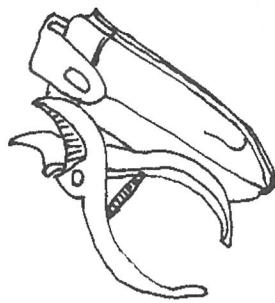
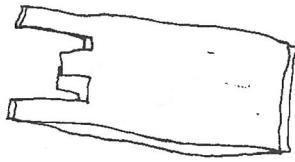
I. 植物のおし葉標本

植物のおし葉標本作りは、1. 採集する、2. おし葉をつくる、3. 合紙に貼る、の3段階からなります。

1. 植物を採集する

(1) 用意するもの

- ①せん定ばさみ:木の枝を切りたり、太い根や茎を半分に分けたりするのに使います。
- ②採集袋:採集した植物を入れるために、大きなビニールを準備します。



(2) 植物の採り方

- ①標本はたくさん生えている同じ種類の中から、選んで採集します。
- ②植物の名前を調べるために花や果実が必要です。
- ※どの場合も果実、花だけ、葉だけという採り方はしません。
- ③草の場合は根からていねいに採集し、土を落とします。
- ④樹木の場合は、はさみ紙の大きさ(新聞紙の1/4)を考慮して枝を切って袋に入れます。
- ⑤シダ植物の場合は、胞子のうぐんのついた葉を、胞子葉と普通葉が別になっているものでは両方必ず採集します。また、地中にある地下茎まで採集するようにします。
- ⑥採集した植物は、できるだけ早く標本にします。
- ※採集袋はしつかり閉めて、植物がしおれないようにします。

2. おし葉をつくる

(1) 用意するもの

①押し板：ダンボールを使います。参考例をもとに自分で作成してください。

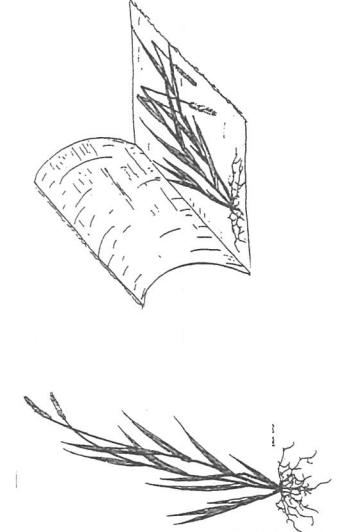
②はさみ紙：古新聞を使います。

③ひも：ひも・ビニールひも・ゴムひもなどを使います。



(2) はさみ紙にはさむ（古新聞）

①一枚のはさみ紙には一種類のみとします。小さい種類の植物なら大中小いっしょにはさむことができます。

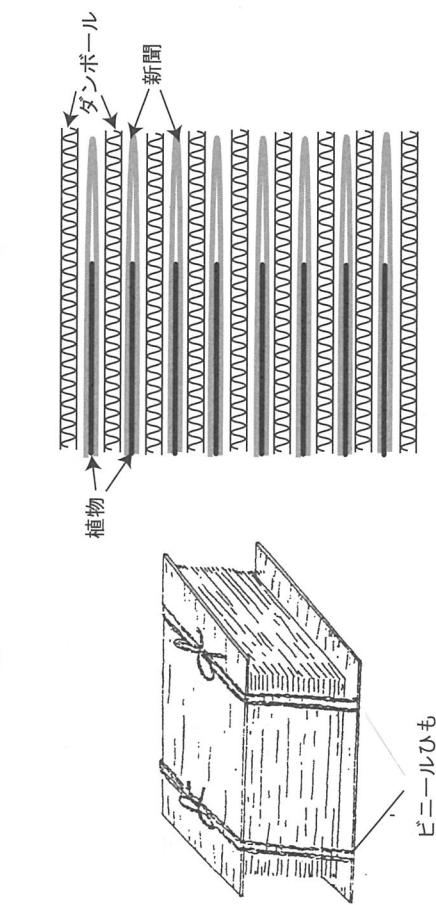


⑤太い茎や根は、半分にさくと早くかわきます。

※茎の太いものや大きな実がある場合は、そこに標本が集まりやすいので、別の新聞紙で高さを調整します。

⑥押し板とはさみ紙を交互にして、ビニールひもでしばります。

⑦最後にダンボールの上に重しを置きます。（重しは、厚い本やブロックなどが適しています。）



(3) はさみ紙を取り替える

①一晩おくと植物の水分がはさみ紙に移って紙が湿ってくるので、紙を取り替えます。

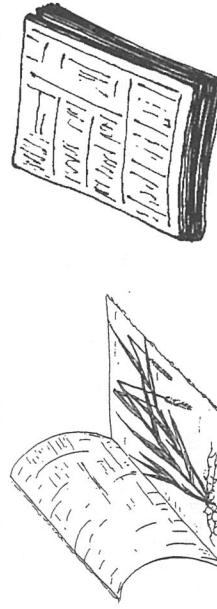
②葉の折れいるところがあれば、整えて新しいはさみ紙でおさえます。

③次の講座までの間、とりかえ作業を続けて下さい。

※最初の2週間は、毎日はさみ紙を取り替えます。

※取り換えををおこたると、植物にカビが発生しますので注意しましょう。

※種類によっては、乾くと変色します。（失敗と思つて捨ててしまわないようにします。）



②紙からみ出す植物は、V字やW字の形に折り曲げてはさみます。

※特に大きなものは植物を分割して、記号をつけて保存することができます。

③茎の中空洞となっているものは、斜めに切ったり、数センチ縦に切つてはさみます。

④はさんだ植物は、葉の折れている部分をのばし、葉の裏表が観察できるようになります。

Ⅴ 標本の整理
ある植物がどこに生育していたかは、正確な情報が記されたラベルのある標本が根拠となります。そのため、標本には必ず正確なラベルをつけるようにします。

3. 台紙に貼り付ける

(1) 用意するもの

- ①標本台紙：A3判程度の、でこぼこの少ない紙（ケント紙など）を使います。
- ②ラベル：縦10cm横12cm程度の紙に、採集場所・採集年月日・採集者氏名、その他事項を「ラベルの書き方」の注意に従って記入します。
- ③のり紙：ふつうの上質紙に、水で濃くといたアラビアゴムを筆で塗つて乾かしたものを使います。今回は、アラビックヤマトという糊を使用します。

1. ラベルの書き方

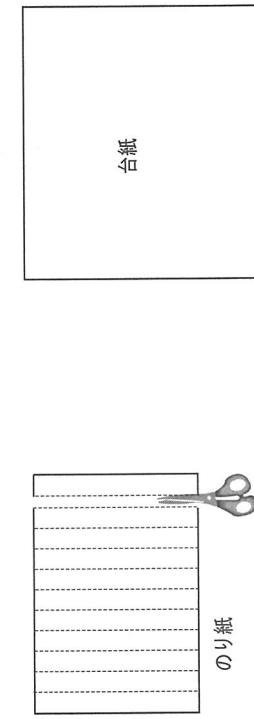
(1) ラベルに必ず記入する基本項目は、採集年月日・採集場所・採集者の三つです。

※基本項目が記入されていないと、標本の学術的な価値がなくなります。

(2) ラベルには基本項目のほかに、和名、科名、学名、標本番号などを記入します。

和名	科名	年	月	日
採集年	採集地	浦添大公園		
採集者	標本番号			
備考				

- ④糸と針：茎や枝が太い場合の固定用に、木綿糸を二重にして使用します。
- ⑤ピンセット：のり紙で細い枝などを貼る時に、補助的に使用します。
- ⑥ペラフィン紙：乾燥して落ちた花や果実を包みます。



(3) 採集年月日は西暦で記入します。

(4) 採集地は、できるだけくわしく記入します。

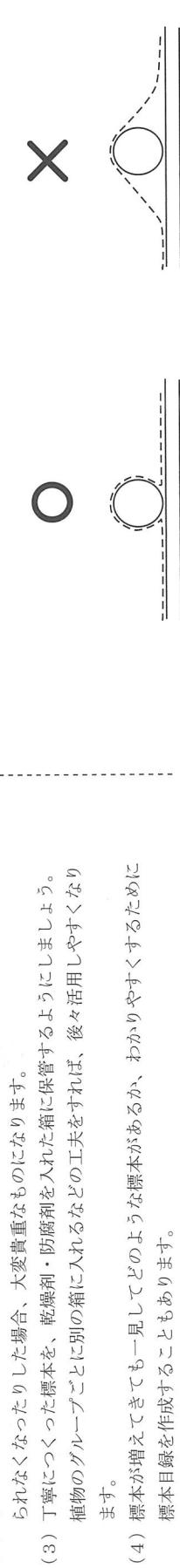
- (5) 標本番号は、古いものから順に数字で示すか、科ごとにまとめて整理する方法もあります。植物のグループ（例えば「種子植物」「シダ植物」など）ごとに記号をつけ、記号と番号の組み合わせにすることがあります。

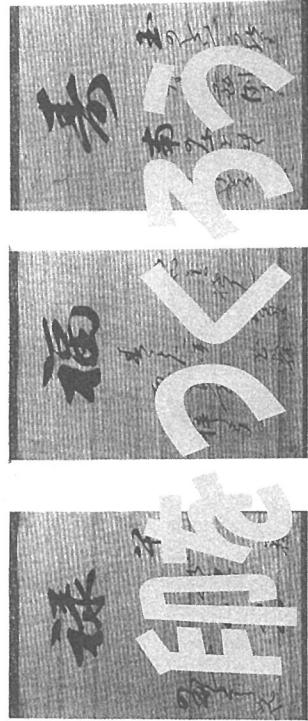
※複数の標本に同じ番号をつけてはいけません。

(6) 備考は、方言名・花の色・在来か外来、などを記入します。

- 2. 標本の整理・保管
- (1) 標本は、永久に保存できるようになります。
- (2) 標本は、大切に保管すればいつまでもその価値を失いません。むしろその植物が見られなくなったりした場合、大変貴重なものになります。
- (3) 丁寧につくった標本を、乾燥剤・防腐剤を入れた箱に保管するようにします。
- (4) 標本が増えてても一見してどのような標本があるか、わかりやすくするために標本目録を作成することもあります。

- ①ラベルを台紙の右下すみに貼ります。
- ②乾いたおし葉をのせ、ピンセットなどを使いながら、要所をのり紙で止めます。
- ※のり紙が浮かないよう注意しましょう。（下図参照）
- ③太い枝や茎は、糸と針を使って固定します。
- ④乾燥させている間に落ちた花や果実は、パラフィン紙に包んで台紙に貼ります。
- ※ちいさな葉が大量に落ちてしまったら、封筒に入れて台紙に貼ります。





平成21年度第三回博物館体験学習教室「印をつくろう」の講師を紹介します。今回の「印をつくろう」では、沖縄の印の歴史をふまえ宜湾朝保(1823～1876)「福・禄・壽」をもとに、その中の一字を選び印を制作します。

前田先生は、書の分野でも印を制作する篆刻の分野で、活躍されています。皆さんが存知の「沖展」では会員と審査員としても活動し、準会員賞2回、沖展賞など14回の入賞をされています。また、県外の「読売書法会」や「西部朝日書道展」、「蘭亭書道展」他において役員として携わりながら多くの入賞を果たしており、篆刻を通して文化の普及に大きく貢献されています。

今回の博物館体験学習教室では、印についての理解を、体験学習の中から深めることにより、県立博物館に展示されている実物資料やふれあい体験室に展示されている「印かんてなあに？」に興味を持つて頂きたいと考えております。さらに、印を通して沖縄の歴史・文化に关心を深めて頂けたらうれしく思います。

日時：8月9日（日）・9月13日（日）

9:00～12:00

場所：博物館美習室

博物館体験学習教室第3回講座 「印をつくろう」実施計画

1 目的

- (1) 印の制作を通して、沖縄の歴史、文化に興味を持つ。
(2) 印の歴史や文字等の基本的な知識技能を身につける。

2 日時

- (1) 平成21年8月9日(日) 9:00~12:00
(2) 平成21年9月13日(日) 9:00~12:00

3 講師

前田 賢二(雅号 翁牛) 先生 (書家)

4 対象者

小学校高学年以上～一般

5 募集人員
20名(多数の場合は抽選)

6 程 1 (8月9日)		受付	9:00
開講式	始めの言葉 司会	上原	9:15
講師紹介			
講師挨拶			
作業説明	作業説明	文化の杜	
時間配分			
転写	途中経過 I 字形を調整	文化の杜	
	途中経過 II 影りはじめ	文化の杜	
	本日のまとめ		
	片づけ指示		

日程 2 (9月13日)

受付	9:00
開講式	始めの言葉 司会
影りの確認	講師
押印	
修正影り	
仕上げ	
終了	運営者まとめ 11:55

7 準備

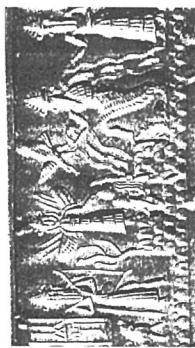
博物館で準備するもの

- ・印材(青田石)
- ・篆書辞典
- ・印刀
- ・印台
- ・サンドペーパー
- ・ブラシ
- ・筆
- ・印矩(いんく)
- ・墨・朱墨
- ・印泥(朱肉)
- ・鏡
- ・硯

「印の起源」

篆刻は大変古い歴史を持つと共に、伝統書道では新しい分野の芸術でもある。篆刻と呼ばれるようにするには自分で書いた文字を自分で刻すことから始まる明時代からである。

石印材に文字を刻す篆刻の歴史は古く、紀元前3500年～2350年頃に活躍したメソポタミアのシュメール文化まで遡る。中国に印の文化が伝わるのは、紀元前403～前221年の東周時代の戦国期になる。シュメール文化で生まれた印が、中国に到達するまで実際に2500年以上もの長い時間が必要としている。今の急速な文化の時代では考えられないような時間の流れである。



中国では漢時代に印制が確立した。印に使用される文字はあくまでも篆書である。これは南北朝時代まで続いた。

文化の発達により紙が普及し始め、印の使用法も大きく変化した。隋の時代である。紙は漢時代に発明されたが、南北朝時代までは高価なため、公文書等は木簡を使用していた。隋代になると経済の発達が紙の代価を安価にし、広く普及することになった。

文化経済が大きく変遷する中で印も大きく変化せざるを得なかった。しかし、戦国時代から印製造に従事した人は単に町のハンコ屋さんではなく、古代から近世に至るまで国民の多数が文盲の時代、文字が書けるだけでなく、美的に表現し、銅などの鋳造技術を有していた治印家は、高い文化人であると同時に先端技術の所有者でもあった。

形を変え明代に始まる篆刻は、古い歴史を持つとともに新しい歴史の出発点に立つ、美を競う世界最小の芸術といえる。

「中国の印章」

古代中国でも陶器類や牛馬は大切な財産だった。盗難を防ぐために陶器は形成時に押し、牛馬は烙印を押し盗難などを防ぐように工夫した。

印章として方形や円形の枠取りの中に文字を刻んだ（陰文・陽文）最古の例としては、殷墟から出土した殷鉢（いんじ）があり、皇帝（天子）のみが使うことができるものであった。

盛んに使われるようになったのは、春秋戦国時代からとされている。戦乱の中で階級をあらわしたり、命令を伝えたり、褒章（ほうしょう）を与えるときに、木や竹に封印する際に使われた。



「秦・漢」

秦の始皇帝の時代には印章制度（印制）が整い、印章は辞令の証としての役割を持つようになる。皇帝の用いる印を璽とし、官吏や一般用は印と呼ぶようになった。これに加え漢代には將軍の印を章と呼ぶようになる。印章の材質やサイズ・形、鉢式などで階級や役職を表した。このとき印文に小篆を用いることが正式となり、漢代になつてもこの制度は踏襲され、繆篆（摹印篆）といわれる印章用の篆書が登場した。現代に至っても印章に篆書を用いるのが一般的なのはこの慣習が続いているからである。またこの頃鳥蟲書といわれる鳥や虫、魚などをモチーフにした独特の書体も用いられている。材質は皇帝のみが玉でその他は位順に金銀銅の金属印であった。玉は鑄で刻され、金属印は鋳造（鋸印）された。戦場などで役職を任命するような時間的余裕がない場合には、金属に直接彫り込み作成（鑿印）されたが、これを「急就章」と呼んだ。



「印の使命」

印を使用する目的は、信を保証し、機密を守り、器物の所有を主張することにあった。紙が後漢時代に蔡伦により発明される遙か以前から使用されて存在していた。文書は内容の機密を保持するため結縛し粘土で封をした。これが封泥と称され、今も中国の各地古墳から出土を見されている。

文官や武官の任命も紙がなかったので、印を授与する印綬によって行われた。

「編集】六朝・隋・唐

裴松之の三国志注に楊利と宗養という印工の名前が確認できる。この二人は専門職とはいえ、自分で刻して鋳造したことから名前が確認できる最初の篆刻家である。

六朝時代には小篆の他に懸針篆と呼ばれる風変わりな書体も用いられた。また北齊の文献に紙に朱印で捺印したという最も古い記録がみられる。

隋が中国を統一するといよいよ紙の使用が一般的となり、印章は封泥から紙に捺して使うようになった。このため印文は陽刻が主流となりサイズも大きくなる。引き続き唐代になると楷書・行書が浸透したことや國際化が進んだことで印文に隸書や楷書・異民族の文字（西夏文字・女真文字・西藏文字）が刻されることもある。そのほとんどはやはり篆書を用いた。この唐代になってはじめて印章を美術的に論じた文献が散見されはじめ、次第に印章に藝術性が求められるようになる。



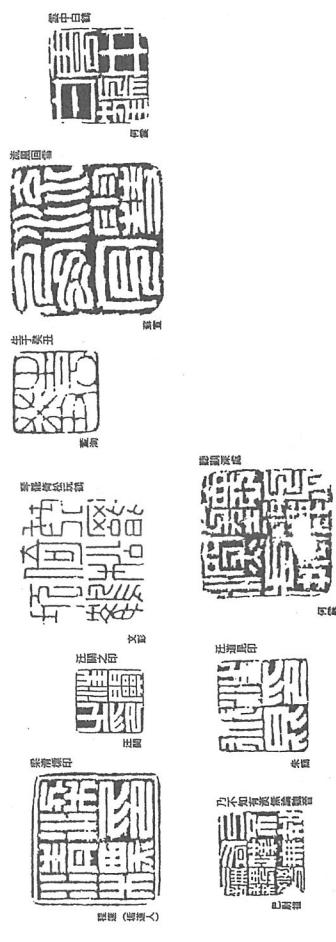
[編集] 宋・元

宋代になると不正を防ぐ目的で官印には九畳篆と呼ばれる独特のくねくねと折り曲がる書体が用いられ、清朝まで続いた。しかし、この九畳篆は美術性に乏しく雅を好む文人・書家などからは一切顧みられることはなかった。元代には支配民族であるモンゴル人などが漢字を知らないことから花押印が多く用いられる。このような中で文人の余技としての篆刻は、北宋の米芾が開祖とされる。米芾以前は文人自身が字入れしたとしても刻んだのは専門の職人であった。印材が象牙・犀角・水晶・玉など硬い材質①であつたためである。米芾は自著『書史』や『画史』の中で治印（印章の作成）について論じており、その印象が粗削りで拙劣である点などから、自ら印材を刻んだ最初の文人と推定される。宋代から盛んとなつた文人画は詩・書・画に印章を加えた総合芸術となっており、文人画家である米芾の革新的な試みから200年近く経過した元末によく趙孟頫・吾丘衍が登場する。書家・画家として有名な趙孟頫は、「円朱文」と呼ばれる小篆を用いた柔軟な印を好み、後世に影響を与えた。また吾丘衍の「三十五举」（『学古編』）は最初に著された篆刻理論書として後進に尊重された。彼らは上古の正しい印法への復古を説いて、唐代から継承される九畳篆の陋習を是正した。しかし、趙・吾は自ら印を刻むことはしなかった。彼らと交流のあった錢選はその印影が拙劣であることから自刻したものとされる。

[編集] 明・清

明代中期の文彭・何震の二人はもともと傑出した篆刻家であり「文何」と称され尊敬を集めた。文彭は篆刻に生涯を傾け、漢印の研究を行ってその作風にとり入れ篆刻の発展に尽くした。それまで職人に頼つて象牙などに刻させていたが偶然手に入れた凍石（石印材）に自ら刻した後は、二度と他の印材は用いなかつたという。この逸話がほかの文人にも伝わり、石印による篆刻が一気に広まつたとされる。文彭の弟子の何震は徽派（新安印派）の祖として知られ、その一派に多くの篆刻家を輩出した。蘇宣・梁袞・汪闊・朱簡・程邃・巴慰祖などである。徽派は黄山地方（安徽省歙県）を拠点に清代中期まで盛んに各地に拡がつた。漢印の正統な作風を基礎に新鮮味を加えた作風であった。

一方、18世紀になると杭州に丁敬を開祖として浙派（西泠印派）が興る。徽派と同じく漢印を基礎としていたが、旧習から脱却し素朴な力強さを特色とした。黃易・蒋仁・奚岡・陳豫鐘・陳鴻壽・趙之琛・錢松など優れた篆刻家が育ち、西冷八家と呼ばれた。清末期に鄧石如が沈滯する篆刻に革新を行ない鄧派（新徽派・後徽派）の祖となつた。繆篆を用いるという旧弊を打破し保守的な復古主義を刷新した。吳熙載、その後に徐三庚・趙之謙・黃子陵などの弟子が育ち、このうち趙之謙は鄧派と浙派を総合して新浙派（趙派）を打ち立て優れた功績をあげた。このほか、清末には吳昌碩・齐白石など次々と優れた篆刻家が現れている。



元末の王冕は花乳石（青田石の一種）という柔らかい石を印材に用いた。これはひとつ発明であり、明代に文人の間に篆刻芸術が広まる最大の功績となつた。王冕も漢印から学び自己の風格を持った印を作成した。

「印の形式」

印に刻す内容は主に次のものがある。

(1) 姓名印・・・姓名を刻した印

姓と名を刻したものである。本来書画用としては作者が特定できるように、姓名を入れたものを用いる。姓名印は落款の習慣から白文が普通である。

(2) 雅号印・・・本名以外の呼び名（別号）を刻した印

本名以外の呼び名を号という。号には人が呼ぶ際本名を言うのを避けるために使う「人号」と、自らが名乗る「自号」があり、篆刻で印に刻すのはもっぱら「自号」であり、書画篆刻という「雅号」はこれにあたる。

(3) 鑑藏印・・・観賞・収蔵の経緯を後世に残すための印

家蔵の品や觀賞した証として押す印である。通常は書籍や書画に使用する。押す紙面への配慮のため、外郭と文字線を極力細くした朱文の印や小印が普通である。

種類：収蔵印・觀賞印・永宝印・習得・見過印

(4) 成語印・・・詩句・吉語・規戒（いましめ）の語・成語等を刻した印

古くは、戦国時代より既に見られるが、吉語の類、四季風流、鑑識、間適と、あらゆる言葉が刻す対象とされる。特に、石印材に刻すことになつてからは、姓名、雅号、堂号、印藏印などと同様に、語句成語を印面に盛り込むことが広まり、書画を引き立てた。この成語印の盛行が、所有して押印することで自己の信を示す「はんこ」を発展させ、自らの心情を成語に託してプリントして表

現する「篆刻」という芸術分野を確立した。

(5) 住址印・・・住所を刻した印

古い例としては、家居印として自らが住んでいる地名を入れているものがあるが、現在の日本では、はがき・封筒等に使用する例が通例となつていて。

(6) 書簡印・・・印の本来の用途に近い印

古代は紙が無く、木や竹製の簡に文字を書き縄でつなげたものを丸めて紐で縛り、結び目を泥で押さえ、その上から印章を型押して封をしていた。これを封泥といいます。こうすることにより、誰の所有かを明確にし、容易に開封できない



印に刻す内容は主に次のものがある。

現在でも、重要な書類や書簡を入れた封筒の綴じ目に「縫」と入った縫円形の印を押すのは、そのなりかもしれない。

(7) 肖形印・・・人間・動物等の画像を刻した印

肖形印には図象のみのものと、図象と文字を刻したものがある。すでに戦国期の遺品があるが、どのように使用したかは定かではない。

(8) その他・雑形印・大和古印等がある「印の形式」印に刻す内容は主に次のものがある。



ツクリベのシリンドラー・シール

アビルエ・ショーテー王の兄弟と召使

高さ3.8cm 直径2.1cm 円筒印

支配者(キンガーナーム)のシリンドラー・シール

ショーメール第三王朝(B.C.2050年)

高さ5.4cm 直径3.2cm 円筒印



跡完白



萬押



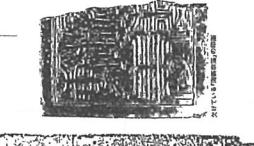
朱押



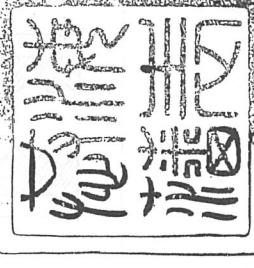
「おおむき」



徐三庚



「おおむき」



「おおむき」



雲岱



雲岱



雲岱



萬押

萬押



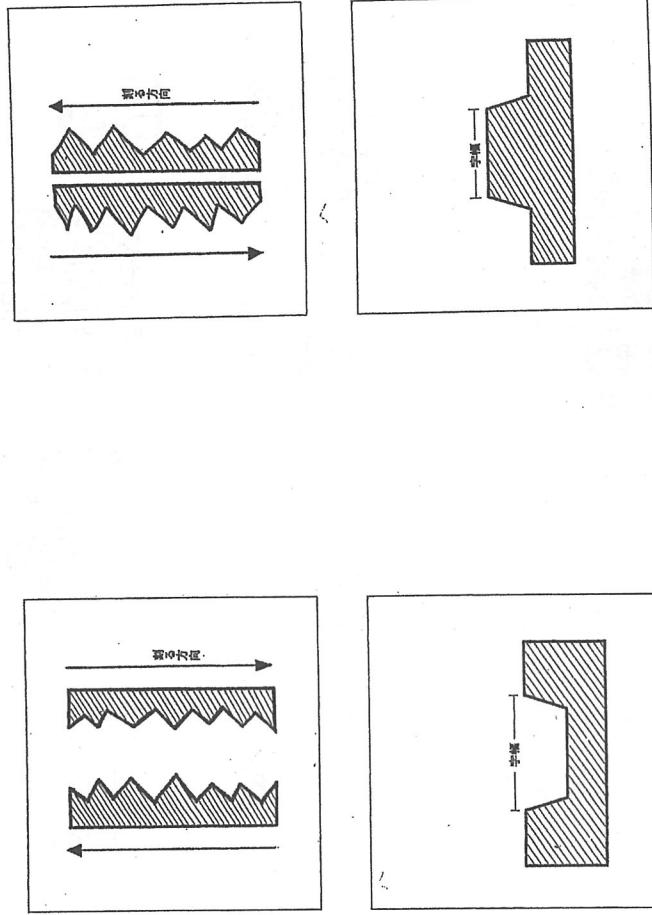
萬押

萬押

(5) 住址印・・・住所を刻した印

〈資料3〉

印の刻法



〈資料2〉

篆刻に必要な用具

1. 印刀・・・・・・印を刻る刀（鉄筆）
2. 印材・・・・・・印を刻る材料（石印材、木、竹根、陶磁など）
3. 筆・・・・・・小筆（印稿づくり、布字=字入れし）
4. 墨・・・・・・圓形のもの（墨　朱墨）
5. 砚・・・・・・二面硯など
6. 印泥・・・・・・書画、篆刻用の朱肉
7. 印床・・・・・・印材を固定する台
8. 印鑿・・・・・・印を擦して印影を保存する紙
9. 印矩・・・・・・印を擦す際に位置を決める
10. 印模・・・・・・印を擦す際の下敷き（ガラス板、ゴム板など）
11. 耐水ペーパー・・・印面を整えたり、印材を磨く
#200 #400 #800 #1500
12. 手鏡・・・・・・印稿を見ながら印面に逆字を書き入れる
13. ブラシ・・・・・・印面の粉をはらう
14. ガラス板・・・・印面を平らにする
15. ポロ布・・・・印面の汚れを拭き取る
16. ハガキ・・・・・・印稿をつくる
17. 字典・・・・・・篆刻字典 篆刻字林 漢字大字典など
辞典・・・・・・四文字熟語辞典など

篆刻の手順

1. 印面の調整・・・・耐水ペーパーを使い印面を平らにする
2. 遷文・・・・・・姓名 雅号 熟語など題材を決める
3. 檢字・・・・・・文字の形、意味を字典で調べる
4. 印稿の作成・・・・印の設計図（白文印　朱文印　朱白相間印）
5. 布字・・・・・・印面に逆に字入れをする
6. 刻印・・・・・・印刀で刻りこむ
7. 鈴印・・・・・・印泥をつけて紙に捺す
8. 楠刀・・・・・・印影を見て刻り残しの除去、補正など
9. 側款・・・・・・印の側面（左側）に作者名、製作年月日などを刻る

※額装・印譜集などで印影を鑑賞する

〈資料4〉

「祿」 ①さいわい ②よい ③やい (扶持)・官吏の俸給
(角川―新字源より)

検字表

甲骨	金文	篆文	小篆	印篆
祿	祿	祿	祿	祿

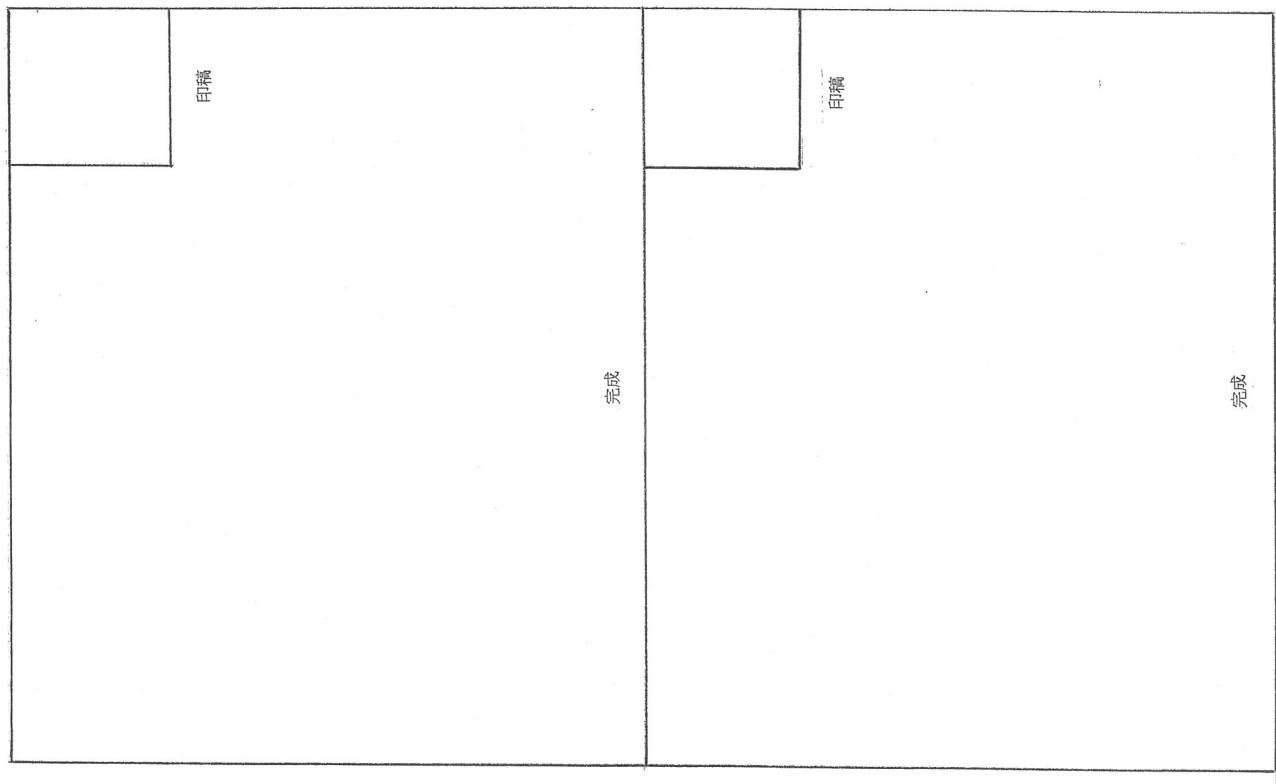
朱文	白文

「福」 ①神から授かる助け ②さいわい ③しあわせ ④祭りの時に神に供える酒肉
(角川―新字源より)

検字表

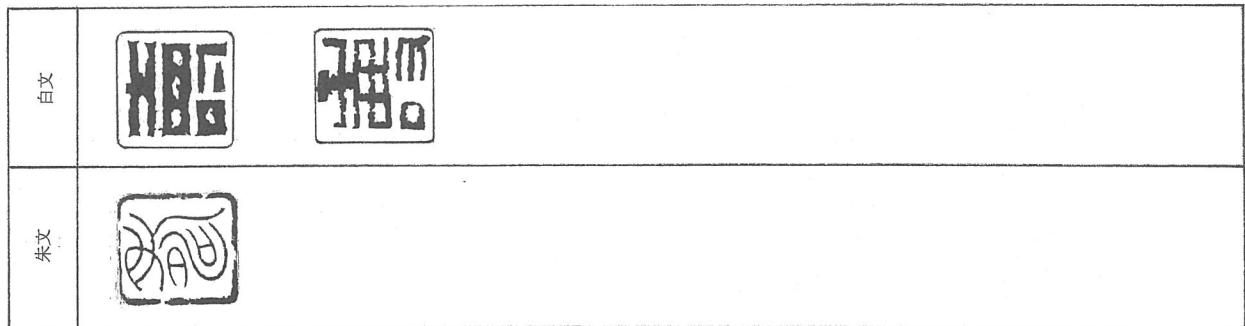
甲骨	金文	篆文	小篆	印篆
福	福	福	福	福

朱文	白文



「壽」 ①ひさしい ②長生きする ③トトロウガル ④トトロウ・長命を祝う
(角川一新字源より)

检字表	甲骨	金文	篆文	小篆	印篆
火	火	火	火	火	火



〈資料5〉

	11. 喜久川紗映		6. 宮平敏子
	17. 水野さよみ		12. 喜久川京香
	18. 辻本淑子		13. 吉浜博子
	19. 普天間典子		14. 新里幸枝
	13. 吉浜		10. 上原成美
			5. 仲西あさみ

参考印（筆牛刻）



安
壽



安
壽

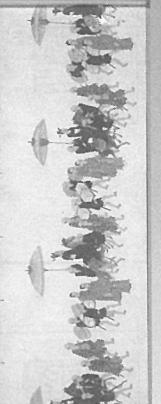
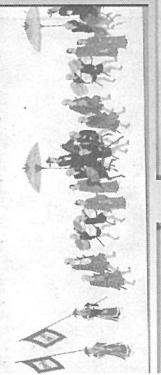


	参考印（筆牛刻）
	11. 喜久川紗映
	12. 喜久川京香

行列図絵巻をつくろう

講師 當間 巧（表具師）

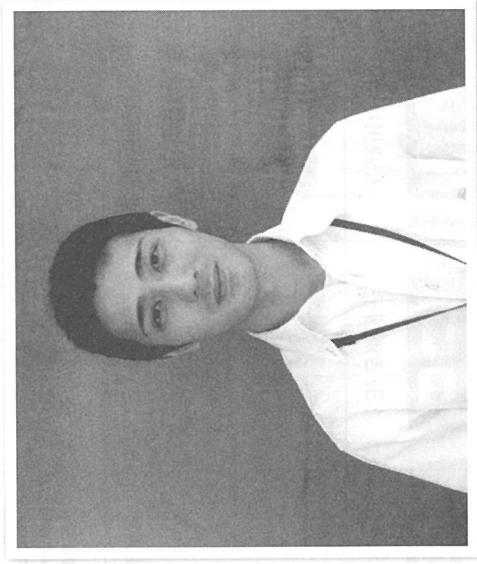
開連イベント 「琉球使節、江戸へ行く
～琉球慶賀使・謝恩使一行 2,000キロの旅絵巻～」



日 時： 10月11日（日）・11月8日（日）

場 所 博物館実習室

講師紹介
當間巧先生



平成21年度博物館体験学習教室の第4回目に当たる今回は、「江戸上り行列図」の絵巻物を作製します。絵巻物は横長の紙を水平方向につないで大きな画面を作り、情景や物語などを連続して表現したものといいます。沖縄に絵巻物がいつから使われるようになったかは、よく分かっていませんが、博物館に残っているものでは、『江戸上り行列図絵巻』が代表的なものとして紹介されています。

講師である當間氏は、うるま市のご出身で、博物館や公文書館などで皆の資料を修理・修復する表具師として活躍されています。古文書等の修理・修復の技術を京都で学ばれ、現在は自らの工房で伝統的な技術による本格的な修理・修復を手掛けられています。

博物館における近年の修理では、常設展示室に展示されている『球陽』や『琉球国惣絵図』があります。今回は、當間氏からのご指導により、紙を横方向に順次つないで、水平方向に長い紙面を作り、終端に巻き軸をつけ、収納時には軸を中心とした表丁形式の「巻子装」と呼ばれる巻物を作ります。

今回の体験学習教室の中で、沖縄の絵巻物にも興味を持つていただけたら嬉しく思います。さらに博物館のふれあい体験室や、展示資料とも結びつけながら、郷土の歴史、伝統文化を学ぶきっかけとなることを願っています。

行列図絵巻をつくろう

図書形態の1つ。巻子本（かんすばん・けんすばん）ともい

う。

概要

折本や冊子形態の書物が現れる以前の図書装丁であり、その歴史は長く、洋の東西を問わず見られる形態である。英語では「scroll」というが、これはescrow(捺印証本)roll(巻いたもの)からの連想による語であり、単にrollだけでも巻物を意味する。材質には紙のほか、パピルスや羊皮紙などが使われ、複数枚をのり付けして片端に木や竹などで作った芯(軸)を付け、巻いていくことで携帯、保管がしやすいようにした(なお、日本の場合は紐をほどいて端から読んでいくことから「冊子」と異なり、文書は紐をほぐして端から読んでも構いません)。しかし、「折本」や「冊子」が主流となっていました。しかしながら、そのあとも絵巻物や経文などとして長く利用されてきた。現在は新刊本が巻物で発刊されるということはないが、「巻数」「全巻」などの言葉にその名残をとどめている。

歴史

東洋で紙が制作される前(紀元前)、文字は竹簡・木簡として細い竹片や木片に書かれ、紐で編まれて巻かれて保存されていた。その後、紙が発明され、記録用材として使用されるようになつても、その形式が残り、巻かれて保存された。閲覧性の向上のため、その巻物を折つたり、分割するなどして、今日の書籍の形態となつた。掛軸も絵を記した巻物の一種と見ることができる。

日本の巻物の事例

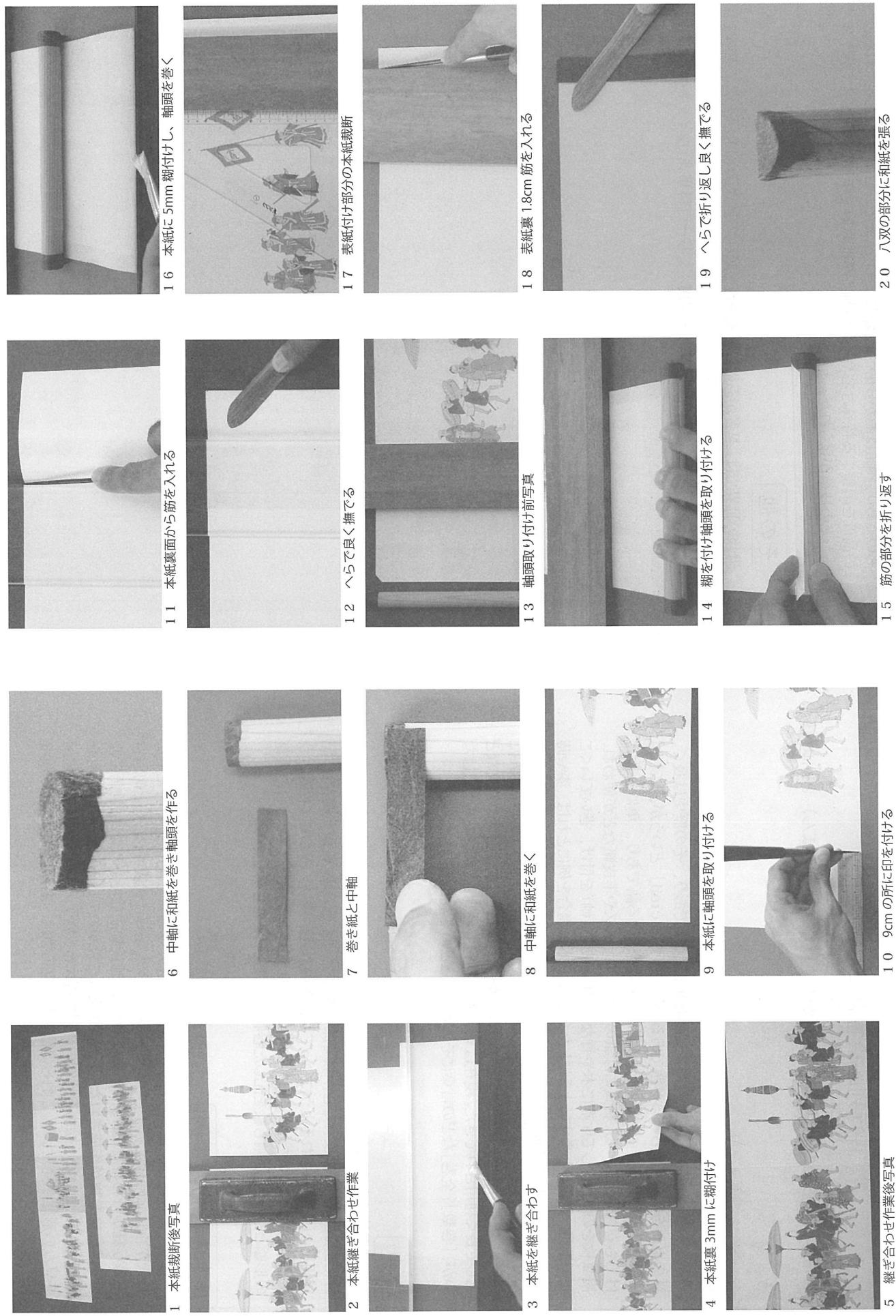
日本では巻物は記録媒体としての利用以外に、写本にも使用され、特に平安時代から鎌倉時代にかけて写経が流行し、平安・鎌倉時代に代表されるなど何万巻もの写経が行われた。また、平安時代から『源氏物語絵巻』のように物語に絵をつけた絵巻物が作成された(文と絵が交互に書かれていることから、これを『交互絵巻』という)。絵画を時間の経過で捉えるという、当時では世界に類例を見ない形態が発生した。これらの絵巻物を見る際は、右から左にかけて観る

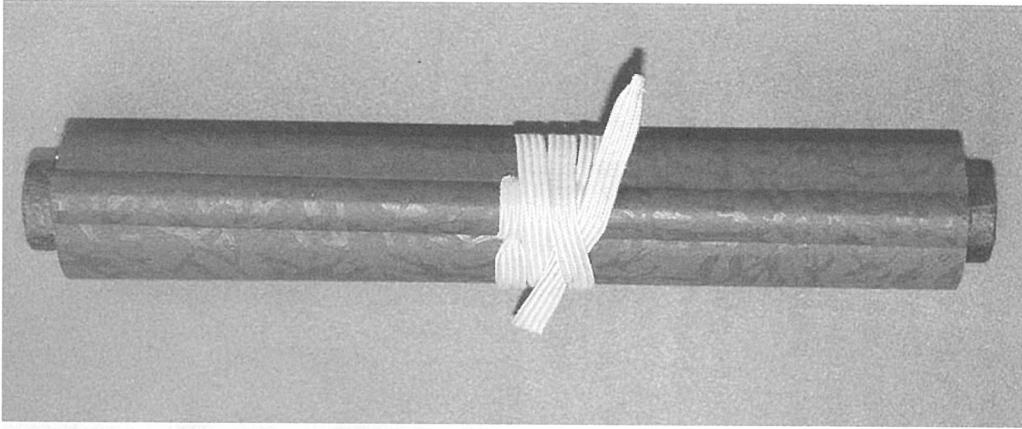
ものであり、物語は右から左へと展開していく。また、「合わせ軸」と呼ばれる芯の高低を調整する特殊な芯や本文の前に厚紙や絹で作った縛を加えて装丁するなどの技術が見られた。

その他

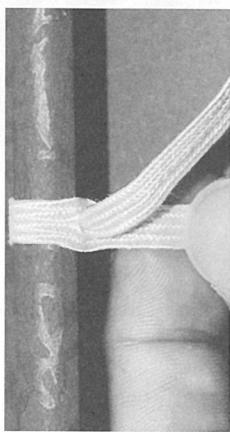
講談の世界では、忍者が忍術の奥義を書き記して残したり、口にくわえて忍術を駆使するという描写がさかんになされている。

参考・引用：フリー百科事典「ウイキペディア」

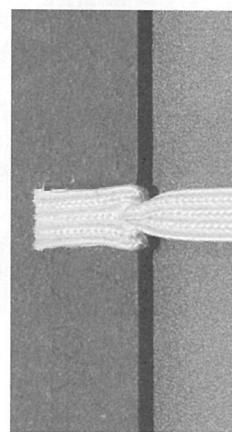




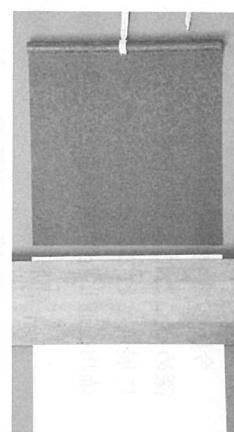
36



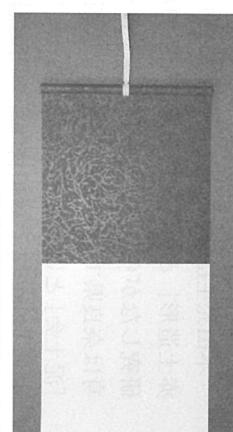
31 穴に紐を通す



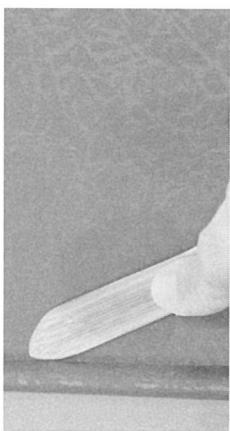
32 表紙裏・紐折り返し糊付けする



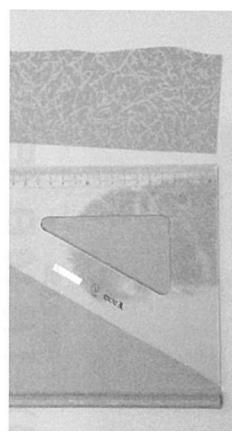
33 本紙と表紙を縫合わす



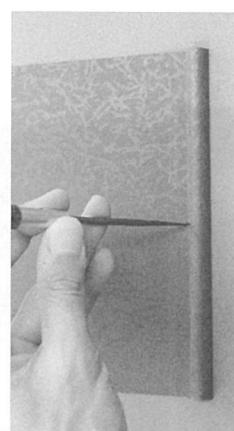
34 表紙取り付け後写真



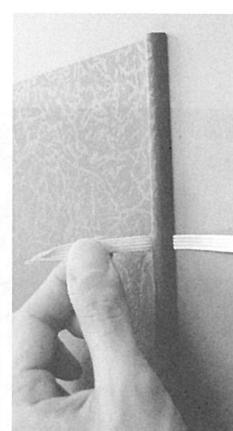
26 ヘラで良く撫でる



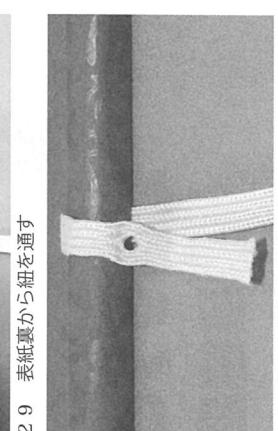
27 18cm部分直角に裁断する



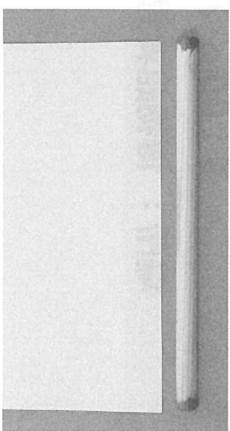
28 紐穴を開ける



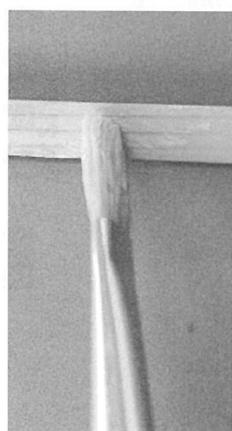
29 表紙裏から紐を通して



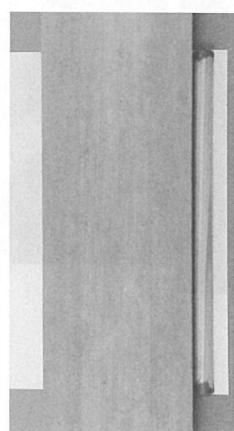
30 通した紐に穴を開ける



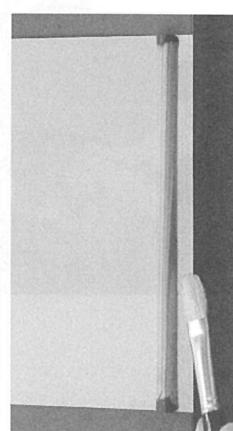
21 八双取り付け前写真



22 八双に糊を付ける



23 糊付け後表紙に取り付ける



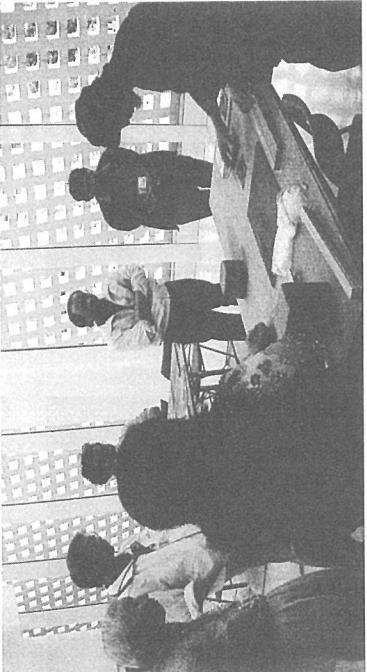
24 表紙の紙の部分に糊を付ける



25 八双を巻き込むように取り付ける

第5回体験学習講座

手びねりでつくる焼物 ～面シーサーをつくろう～



日時：平成21年12月13日（日）・平成22年1月10日（日）
9:00～12:00

場所：博物館実習室



講師紹介
本田伸明

平成21年度 第5回博物館体験学習教室『手びねりでつくる焼物』の講師を紹介します。

今回の教室では、博物館に収蔵されている資料を参考にして、面シーサーを作ります。沖縄の陶器の中でも焼締といわれる焼物を二日間で2点仕上げる内容を準備してあります。

本田先生は、陶芸の分野で活躍されています。現在のお務めは、「沖縄クチャ・赤土造形」というところで、伝統的な沖縄の瓦や陶磁器を、大学などと共に研究しながら、焼窯の製作販売や技術の伝承などをしています。先生の出身は奈良県で、沖縄県立芸術大学美術工芸学部で、焼物について学ばれました。「泥土会」という自分たちのグループで定期的に作品の展示会も行っています。また、2003年には旧博物館の陶磁器を、新しい博物館に移動するための資料整理の作業員として参加していただきました。

今回の博物館体験学習教室では、陶器についての理解を、体験学習の中から深めることにより、博物館に展示されている実物資料や「ふれあい体験室」に展示されている陶器に興味を持つて頂きたいと考えております。さらに、焼物を通して沖縄の歴史・文化に关心を深めて頂けたらうれしく思います。

個展：昨年4月リウボウ美術サロン 現在同サロンで開催中



沖縄の焼き物

沖縄の焼き物は6700年前に生まれ、長い土器の後17世紀に窯を使つて本格的な陶器生産が各地で始まつた。沖縄では12世紀から海外陶磁器の輸入が始まり、東アジア屈指の焼き物の集積地でもあつた。

また、人々の生活により密着した実用器として独自の生活様式や宗教儀礼のなかで使われ、独特的味わいのあるものとして今日に至つている。

沖縄の焼き物の種類

荒焼（あらやち）

水甕、泡盛の酒甕の大型のものが多い。または泥釉・マンガン釉のみを掛けた炉器。焼成温度は1120°Cで、釉薬をかけない。または泥釉・マンガン釉のみを掛けた炉器。焼成温度は1120°Cで、陶土には沖縄本島南部のクチャ（泥岩）や赤土の島尻マージ、黒土のジャーガルなどが使われた。

上焼（じょうやち）

施釉した陶器で焼成温度は1200°C。赤土の上に白土で化粧するのが特徴で、施釉法や加飾法または上絵付などがあつて変化に富んでいる。

陶土には名護市の古我知・喜瀬、恩納村の安富祖、前兼久、山田、読谷村喜名の粘土が使われていたが、近年は恩納村の喜瀬武原、名護市為又などの粘土も使われている。

近世琉球の焼き物

1 喜名焼・知花焼 本島中部の喜名や知花で焼かれた。器種が多く、深い光沢をもつつ壺が特徴的。喜名焼と知花焼は類似しており、喜名焼と系統を同じくする集団が知花で作陶していたと考えられる。知花で焼物がつくられていたことは「球陽」など琉球王府編纂の歴史書に書かれている。「球陽」によれば、知花で作陶していた陶工たちが那覇牧志村に移住、その技術が壺屋焼に継承された。

2 古我知焼

良質の土を産する沖縄本島の小窯。ユニークな「布拭き」の技法をもつ。18世紀を通して生産され、19世紀前半には廃業した。古我知焼では白土・赤土・灰褐色などが使用されたが、大型の壺は白土で大型の壺まで形成する。古我知焼の大窯は、白土で形をつくり、鉄釉で表面を拭いて施釉する「布拭き」が行われた。布拭きは沖縄の焼き物では古我知焼にしか見られない技法で、荒々しくスピード感のある施釉跡が特徴である。

3 湿田焼

那覇の泉崎で瓦を中心とした生産。技術導入を重ね、壺屋焼の母体となつた。文献では沖縄窯業史の大革命は湧田焼で起こつている。最大の技術革新は施釉陶器を作る技術の確立である。現在の那覇市中心部の泉崎周辺で操業され、当時は瓦を中心にして灰色・無釉の瓦質土器を作つていた。1616年に朝鮮人陶工・一六ら3人が薩摩から招聘され陶器製作の技術指導を行い、さらに平田典通・中村渠致元といった上級陶工が中国・薩摩へ留学して技術革新をもたらしたものとされるている。

湧田焼は、中国・朝鮮・薩摩さらには東南アジアの技術をとりいれながら生産技術を確立し、その後の壺屋焼に技術を引き継いだといえる。1682年湧田焼は知花・宝口の窯場とともに牧志村に統合され壺屋焼の母体となる。

4 壺屋焼

王府が各窯場を統合して開始。上焼と荒焼の専門陶工が幅広い層に向けた多様な焼物を生産した。1682年先行する知花・湧田・宝口の各窯場を王府が那覇牧志に統合して操業が開始された。18世紀半ばには連房式登り窯の技術が沖縄に伝えられ、湧田で確立した施釉の技術がさらに発展した。新たな技術導入により、模様をつける加飾の技法や器の種類も急速に増えた。また、白化粧や赤絵の技法をとりいれた。戦前は青い酸化コバルトの使用や魚文など、大らかは近代の「壺屋焼」が確立した。終戦後は、他に先駆けて復興し、美術工芸としての作家性が高まり、現在は、読谷村などへの窯の移転も進んでいる。

5 八重山焼

18世紀王府技術者の指導で始まった。実験的な日本最南端の焼物である。1724年に湧田窯で陶器生産の中心的役割を担つていた技術館僚・中村渠致元が八重山諸島石垣島の王府出張所の求めにより派遣され、島内陶業の育成のため技術指導にあたつた。それ以後石垣島で作られた焼物を八重山焼と総称している。無釉陶器の壺は、やや首が長くなで肩で時期的に考へても喜名・知花焼後期、または初期壺屋焼と同じ技法が導入されたと考えられる。表面はつやがないものが多く、とくに重いのが特徴である。壺・鉢・擂鉢など生活必需品はほとんど作られていた。

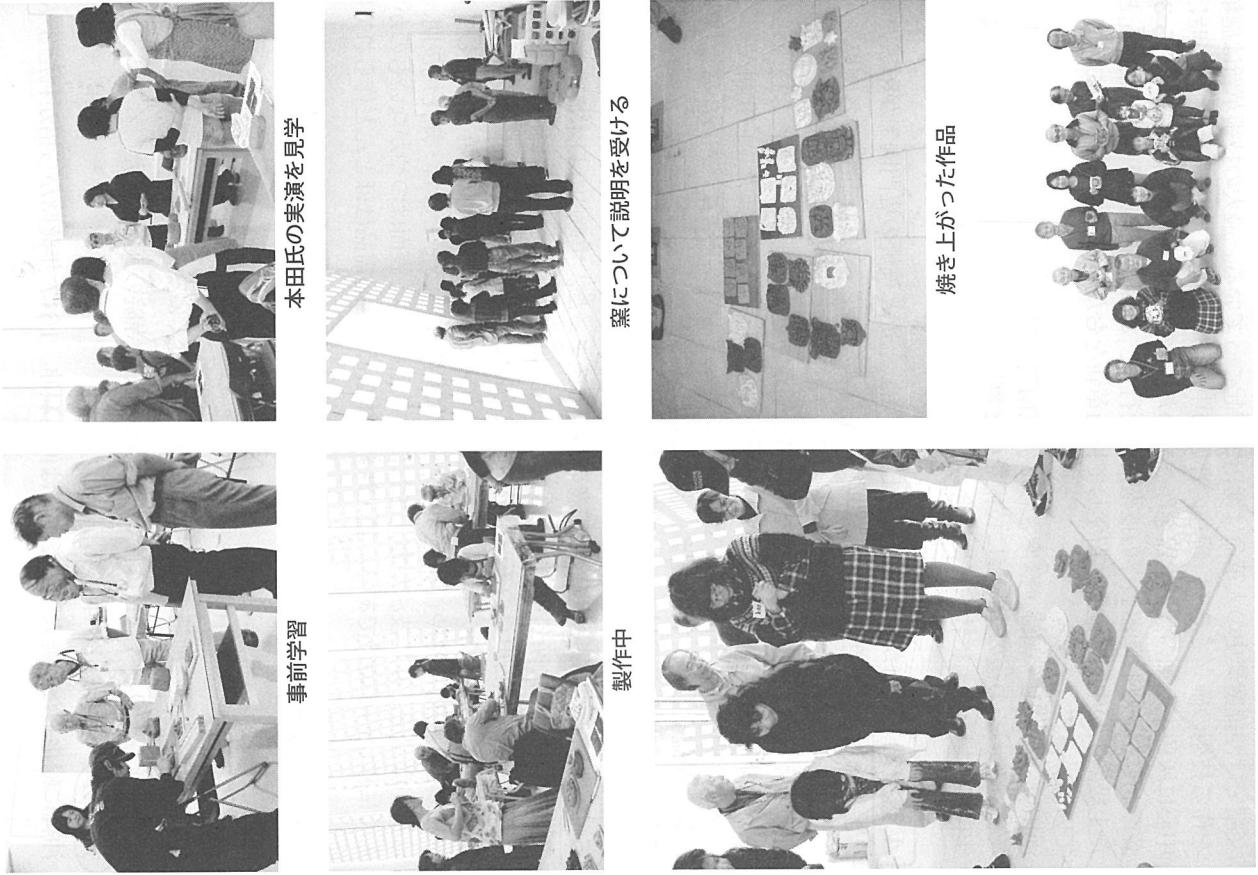
歴史上の陶工

渡嘉敷三良（わたがしふみよ）

（？～1604年）
中国から帰化した沖縄最初の瓦師。真玉橋の近くに窯を築いたといわれる。子孫も代々瓦をつくり、4代目は首里城正殿や多くの寺院の瓦を焼いた。

張献功（ぢょうせんこう）

（？～1638年）
沖縄に帰化した朝鮮人陶工で和名は仲地麗伸。1617年薩摩から招かれた3人の朝



鮮人陶工のうちの一人で、一六ともいう。那覇市の中田村に住居を与えられ、朝鮮式陶法を沖縄の人々に教えた。うわぐすりを用いる上焼は、張獻功ら3人の陶工を招いたのに始まるといわれる。

平田典通（1641～1722）

若い頃から彫刻や陶器に才能を発揮した。1670年その技術を高く評価された彼は王名を受けて中国に渡り、中国の陶法を学んで帰国した。赤絵の技術は彼によって中国からもたらされた。又、1682年には童頭がわらを焼いて首里城正殿の屋根を飾っている。

仲村渠致元（1696～1754）

陶工の家系に生まれる。子どもたちから陶器をつくる。1724年王命により八重山に陶法を伝え、1730年には薩摩へ派遣されて陶法を学んでいる。

成形法

- ①口クロ成形：蹴口クロ口を使用、左回転で成形を行うが、現在は電動式口クロも使用されている。
- ②押型成形：抱瓶や小物獣子置物
- ③型おこし成形：沖縄独自の厨子甕
- ④ひねり成形：ひも状にした練土を積み上げながら成形する。荒焼きではウシチキーという独自の成形法がみられる。

沖縄の陶器はバラエティーに富み、ユニークである。荒焼きの力強さ、上焼きの明るさ、自由躍達、花瓶、抱瓶、厨子甕等の豊かな造形美は長い歴史と伝統、気候風土に育まれ発展してきた独自の陶器である。

参考・引用文献

- 沖縄の伝統工芸（沖縄文化社）
- 沖縄の工芸（沖縄県立博物館）
- 沖縄の美（沖縄県立博物館）・他

仕上がった作品を手に記念撮影

展示

3 活動の状況

①「アダン葉サバをつくろう」

日時	講座名など（目的）	場所	参加者（県職員：県、指定管理者：指、ボランティア：ボ）
2009.3.19	事前学習 アダン葉採集	糸満市 ビビーチ	ボ 大濱、照屋、吉見、県 岸本敬、赤嶺、宮平
糸満市漁港近くの現在建設中のリゾートホテル「ビビーチ」の敷地内の防風林地区のアダンの葉の採集に行く。事前に赤嶺が連絡をし、許可を得ている。下葉を刈るのであれば問題ないこと。			
2009.3.22	事前学習 アダン葉下ごしらえ	実習室屋外	上運天氏、ボ 喜屋武禮子、安座間、我那覇、又吉、源河、北川、県 岸本敬、赤嶺、宮平
先日、採集してきた葉を割く作業を行う。約13mm間隔に配置された刃の角材を用いて、葉を割く。刃の間隔は10mmでも15mmでもいいが、今回は13mmを使用。棘をカットするのにピーラーが適しているということだったので、急遽買い求めて使用した。やはり、棘を先にカットした方が、その後の作業としてはやり易い。刃の幅は葉の幅から考えると、もう少し狭くてもいいかもしれない。（1枚の葉からとれる本数が幅が広いと少なくなってしまうため、採集する葉の量が多くなってしまう。）割いた葉をしごくところまでを習い、学習会は終了。割いた日から毎朝夕に1本4回ずつしごく作業が必要。各自必要分を持ち帰り、来週までに準備してくることとなる。			
2009.3.29	事前学習 編み込み	博物館実習室	上運天氏、ボ 安座間、我那覇、又吉、源河、北川、県 岸本敬、赤嶺、宮平
各自持ち帰ってしごいてきた葉を使い、編み始める。芯となる紐は、約150cmほど取る。最初のカーブの立ち上がりまでを編むのが難しい。つづら折りに入る頃からは、左手はサバの下から紐の間に一本ずつ指を入れ、手前に抑えながら編み込んでいく。この左手は重要。この時、中央にくる2本の紐が交差していなくてはならない。（最後の絞りが出来なくなる。）編み込みを覚えるのがやっとである。仕上げの鼻緒の学習会を持つことを確認して、学習会を終了。次回までに、各自自宅で編み込んでいく。			
2009.4.11	事前学習 編み込み・仕上げ	博物館実習室	上運天氏、ボ 普天間、安座間、県 上原、宮平
シーミーに入ったこともあり、参加者が少なかった。ある程度編み込んでいたので、鼻緒を作るところから始める。鼻緒として使う長さの2倍の長さの紐を2本準備し、その紐に葉を螺旋状に巻く。2本の鼻緒にしてもよいし、1本にしてもよい。これを葉と同じ様につづら折りで編み込み、鼻緒の必要分を取り、また編み込んでいく。2本鼻緒を付ける場合も同様。鼻緒の根元の下から上へ葉を差し込み、中央部へ編み込む。端の部分は紐に2回ほど巻き、つづら折りで反対側へ行き、そこでまた、紐を2回ほど巻く。本体の残りは、足のサイズに合わせて、編み込んでいく。鼻緒の紐を編み込んだ後のつづら折りが幅狭になってしまう傾向があるので、気をつけなければならない。最後に、つま先の芯紐の仮止めを解き、強く1本ずつ引き絞めていく。芯紐が交差していないと引き締められないので注意。あとは、真結びで留める。鼻緒を止める紐をサバに片方通し、鼻緒を挟み、紐をねじり、サバに穴をあけ、裏へ通す。（穴は少し前後にずらす）裏に出た紐は、最初に7cmほど残していた葉を挟み真結びで結ぶ。 反省： 最初に紐の交差と、7cmほど葉を出す意味を説明していたほうがいいだろう。開催に向けて、道具の準備が必要か。			
2009.4.24	材料採集	糸満市の海岸（南部林業事務所許可済）	ボ 宮里定典、佐久原、照屋、生方、県 岸本敬、岸本弘人、上原、宮平、指 中村、喜納
午前9時に集合し、公用車2台に分かれて糸満へ向かった。途中、宮里さんと合流し、採集場所へ（10時少し過ぎ）。すぐに作業に取り掛かった。風の当たる所のためか、手前の葉は切れていたりと状態は良くない。しかし、奥の方には葉幅のあるものもある。2時間ほど作業をし、10分ほど休憩を入れ、切り取った葉を集めて終了。ハイエースの荷台に後部座席のシートの高さほど採集。おそらく、当日分ぎりぎりだろう。足りないようであれば、後日、再採集の必要あり。			
2009.4.26	1日目 9:00～12:00 下ごしらえ	博物館実習室	上運天氏、ボ 安座間、我那覇、普天間、松川郁子、知念和枝、県 上原、宮平、指 中村
天気が不安定で小雨も降るため、会場を正面入口側の広場に移して行った。参加者16名（2組4名キャンセル）。最初に諸注意をし、作業の工程を近くで見てもらった。使用する葉は、一人両足で80本位を目安に作った。参加者の中には、おりがみ教室を開けるような資格を持っている方もいた。また、今回抽選にもれたため、見学だけという方が2名来ていたが、その2人は布草履を教えている方のようだった。			

日時	講座名など（目的）	場所	参加者（県職員：県、指定管理者：指、ボランティア：ボ）
2009.5.10	2日目 9:00～12:00 編み込み	博物館実習室	上運天氏、 安 安座間、我那霸、普天間、松川郁子、知念和枝、 上 上原、宮平、 中 中村
2日目からは、実習室での作業に入る。12名の参加。参加された方は、皆ちゃんと葉をしごいて来ており、すぐに編み込みに入れた。やはり、最初は四苦八苦しながら編み込んでいたが、時間が終わる頃には、きれいに約1/3ほど編み込んでいる方もいた。全体的に、編み直しをする方が少なく、先生からは皆上手だということだった。途中、体操も入れて柔軟し、12時10分前には片付けに入った。最後に先生から話があり、各自持ち帰って、緒を付ける位置まで次回までに編み込んでくることが課題として出された。数名かに、芯糸をひっかける用具を貸し出した。また、我那霸さんは要望があったので、見本として作製途中までのサバを貸し出した。			
2009.6.14	3日目 9:00～12:00 編み込み・仕上げ	博物館実習室	上運天氏、 我 我那霸、普天間、 上 上原、宮平、 中 中村
11名が参加して行われた。片方は最後まで仕上げることが出来た！難しいが、出来ないことはないと感じた。回を追うごとに参加者が減ることについては、来年度は2回にするなど検討が必要。しかし、IPM関係上、今後の開催については検討が必要かもしれない。又、サポートする我々も作り方を分からないと、教えることも出来ないので、今後、研修会が必要と考えられる。一組の親子は後半から参加したため、仕上げることが出来なかった。後日博物館へ習いに来ること。			



アダン葉の採集①



アダン葉採集②暑い最中でした



ヒーラーによるアダン葉のトゲの処理



先生発案の押さえ伐で編みこむ



細かい処理の指導です

②「植物標本をつくろう」

日時	講座名など（目的）	場所	参加者（県職員：県、指定管理者：指、ボランティア：ボ）
2009.6.11	観察・採集地下見	浦添大公園	-
雨のため延期 → 6/22 pm14:30			
2009.6.22	観察・採集地下見	浦添大公園	新城氏、日越氏、 高 高嶺、波平、 上 上原、宮平、 中 中村
14:30に博物館駐車場で集合し、浦添大公園へ向かう。公園事務所にて、パンフレットをもらう。7/26の朝は早めに駐車場を開けてもらえるよう依頼した。駐車場利用車数が分かり次第、連絡すること。公園利用申請書も受け取る。道を渡り、川沿いを上流の方へ歩きながら、植物を見ていった。スタートして、折り返しの当山の石畳まで約1時間かかっている。今日より多少時間がかかるとしても、7/26も同コースで可能かと思われる。2グループに分かれるので、途中コースを逆回りにすることも必要か！見学路にはトイレもないため、最初で入っておく必要がある。また、飲み物も必要があれば、最初で自動販売機で購入した方がよいだろう。新城先生から、草葉の手入れが入っているので、当日の採集は、その高さまでがよいだろうとのアドバイスを受けた。蚊が多いので、虫よけスプレーは必要だろう。			

日時	講座名など（目的）	場所	参加者（県職員：県、指定管理者：指、ボランティア：ボ）
2009.7.26	1日目 9:00～16:00 観察・採集	博物館実習室・新都心公園	新城氏、日越氏、 ボ 高嶺、 県 上原、宮平、 指 福島、中村
9時から約40名（親子18組）が参加して行われた。観察、標本採集を浦添大公園で行う予定だったが、開始頃から雨が降り始め、急遽会場を博物館実習室に移動しての開催となった。			
参加者は、実習室で講師の新城和治氏、日越国昭氏から植物標本の作り方や注意点などを細かく説明を受けた。採集する際には、葉だけでなく、花や実、できるなら根も採集した方がいいとのこと。また、採集した植物は新聞紙で挟み、上から本などの重しで押さえ、毎日新聞紙を毎日交換することできれいに仕上がる。			
説明後は、博物館屋外展示の植栽（末吉の森：末吉公園の沖縄在来種）、隣接の新都心公園の植物観察を2班に分かれて行った。残念ながら採集は出来なかったが、標本採集の仕方やコツなどを教えていただいた。			
第2回目の講座の際には、各自で採集・押さえしてきた標本の名前の確認と標本の仕上げをしていく。			
今回、参加費（台紙含）を500円として台紙5枚位を予定していたが、参加者から、20枚位用意して欲しいとの要望があり、500円追加で台紙を用意し、次回支払いということで確認をした。来年以降に開催する際には、参加費を1000円位として開催した方がいいのかもしれない。			
2009.8.16	2日目 標本づくり (仕上げ)	博物館実習室	新城氏、日越氏、 ボ 高嶺、 県 上原、宮平、 指 中村、渡慶次、 福島
40名（18組）が参加。1日目は雨のため植物採集は出来なかったため、各自で採集・押し葉をしての2日目となった。			
最初に、講師の新城先生、日越先生からの説明の後、標本づくりに入った。まずは、名前探しを植物図鑑や、先生に聞きながら、それぞれの植物の名前を一枚一枚ラベルに記入し、台紙に標本と一緒に張り付けていった。採集した植物は綺麗に葉を広げ、何であるかが分かりやすいようにのり紙で丁寧に張り付けていく。大きい植物を採集した方は、台紙に綺麗に張るのに四苦八苦していたが、講座の終了の頃には、それぞれ20枚位の標本を仕上げることが出来た。参加者の殆どの方が採集や、押し葉の仕方が上手だったようで、葉の緑や花の黄色やピンクの色が残っていて、とても綺麗な標本に仕上がっていった。最後に先生から「この標本づくりで覚えた植物の名前は忘れないと思うので、普段の生活中でも植物観察などを楽しんでください。」とお話をあった。毎日の様に目にする植物だが、知ってる様で知らない事もまだまだ沢山ある。この講座を機に植物や環境などについて関心を持つてもらえたらしいなと感じた。			
講座の最後は、各自自慢の一枚を持って、記念撮影。今回の講座は、1日に雨のため採集が出来ず心配だったが、2日目に殆どの方が参加していたので、大成功といえるだろう。3組のキャンセルがあった。			



公園内の植物の説明



ていねいに台紙に貼ります



良い作品ですよ

③ 印をつくろうⅡ

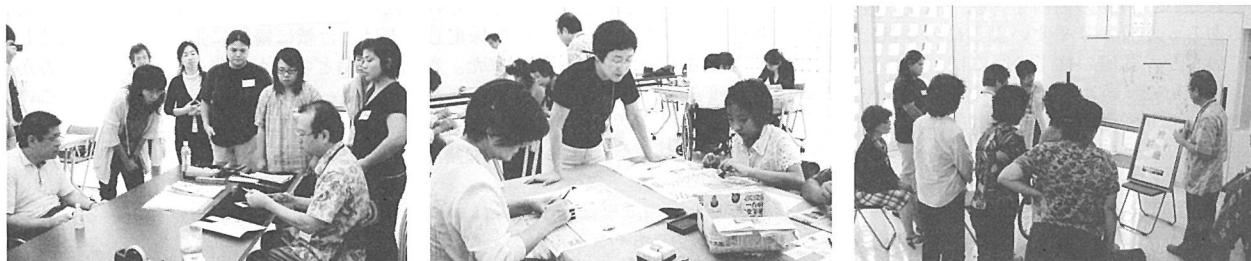
日時	講座名など（目的）	場所	参加者（県職員：県、指定管理者：指、ボランティア：ボ）
2009.7.13	事前調整 13:00～14:00	学芸員研究室	前田氏、 ボ 上原、宮平
今回の体験学習の内容を「福・禄・寿」にする。八分印（2.5cm角の印材）を使用し、一字印を作成する事などを確認し、購入材料の確認、事前学習（8月2日9:00～）について調整した。また、上原が作成した配布資料を前田氏に確認してもらう。次回調整を7月27日13:00～とした。その際に、配布資料の確認を行う。調整後、前田氏から、「丸正」に注文しているので（セル価格可）、受け取りに来てくださいとの連絡あり。			
10:30～12:00 実習室は別のイベントで使用中のため、博物館ボランティア室で行った。事前学習と、下準備を行った。印材の上下をやすりでこすり、綺麗に面を整えたところで、片面に朱墨を塗った。その後、事前学習として文字の転写を行い、少し彫ると所までを行った。皆上手に転写が出来た。来週までに1字彫ってくる宿題をもらう。			
2009.8.2	事前学習	博物館ボランティア室	前田氏、 ボ 我那覇、水野、辻本淑子、真貝、 県 上原、 宮平

日時	講座名など（目的）	場所	参加者（県職員：県、指定管理者：指、ボランティア：ボ）
2009.8.9	1日目 9:00～12:00 彫り	博物館実習室	前田氏、 ボ 我那覇、水野、辻本淑子、普天間、 県 上原、宮平、 指 中村、渡慶次、福島

参加者は15名で、内2名が小学生。開始のあいさつの後、上原が講師紹介を行い、講師の前田氏による印の説明の後、作業に入った。事前にボランティアがした準備下印材に自分の選んだ文字を転写し、前田氏のアドバイスを受けながら彫っていった。作業途中、何度か作業の手を止めてもらい、先生の周りに集合し、作業の手順や気をつける所を見本を見せてもらしながら進めた。10時から彫り進め、2～3名ほど、彫る段階で直しがあったり、印材が割れてしまった方もいたが、順調に進めることができた。11時からは、印の裏面に朱墨をぬり、別の文字を転写していった。今回転写した2文字を来月までに彫り、講師のチェックを受けて手直しをして仕上げる。

2009.9.13	2日目 9:00～12:00 彫り・仕上げ	博物館実習室	前田氏、 ボ 我那覇、水野、 県 上原、宮平、 指 中村、福島
-----------	--------------------------	--------	--

8名参加。最初に、印泥を印につける所から指導を受け、彫ってきた印を紙に押し、各自前田氏に修正箇所をチェックしてもらった。殆どの方が2種類彫って来ていたが、皆丁寧に彫って来ていたので、大幅な修正のある方はいなかった。彫っていくと、線が太くなったり、細かくなったりと、なかなか難しいが、それぞれその人なりの文字になるようだ。参加者は8名と初回より出席者は少なかったが、殆どの方が2種類の印を仕上げることが出来た。最後に、全員の印を押した用紙を見ながら、先生を囲んで反省会をした。また、印の押される意味や、見方なども教えていただいた。今年の年賀ハガキに自分で作った印を押す楽しみが出来たのではないか。この講座を機に印に興味関心を持ってもらえたのではないかでしょうか。



まず先生のお手本をみます

各自で印材に文字の転写をします

先生の作品から学びます

④ 行列図絵巻をつくろう

日時	講座名など（目的）	場所	参加者（県職員：県、指定管理者：指、ボランティア：ボ）
2009.8.12	事前調整	学芸員研究室	當間氏、 県 上原、宮平

今回作成する資料の確認と、今後の日程について確認を行った。作成する資料は、秋の展示会と関連のある『江戸上り行列図』の一場面を切り取った形で作成する。また、サイズは幅20cm前後で長さを2m位とする。プリンターの関係上、2m位までしか対応できないため。係る費用については、見本として18日位まで宮平が當間氏に印刷した資料を渡し、8月中に當間氏が試作品を作成し費用を出していく。一部、色を抜き、ぬり絵が出来るようにすることも考えたが、時間的に難しいだろうということで、色つきを印刷し、表紙、尾紙、軸を作成していくことで確認した。次回、當間氏の来館の時に表紙になる紙を持ってきてもらい、どれを使うかを決める。

2009.9.27	事前学習	博物館実習室	當間氏、 ボ 辻本淳二、宮里佐代子、 県 上原、宮平、 指 中村
-----------	------	--------	---

1時過ぎから開始し、4時半前には終了した。本紙をカットし、張り合わせ、軸を付けていく。その後、表紙付けに入り、八双を取り付けて仕上げていった。予想より早く進むことが出来たが、当日は20名を相手にするので妥当な時間配分だろう。また、当日は特別展示室内の巻物を見学後、作業に入る。巻きものだけを見学するということで、無料入館の許可も得ている。30分位、挨拶、説明、巻き物見学をした後、実際に作っていくことになるだろう。

2009.10.11	1日目 9:00～12:00 本紙張り合わせ～軸の取り付け	博物館実習室	當間氏、 ボ 辻本淳二、宮里佐代子、 県 上原、宮平、 指 中村
------------	----------------------------------	--------	---

あいさつの後、最初に特別展「琉球使節、江戸へ行く！」の実物の絵巻物を10分程度見学した。講座は、當間氏の周りに集まって、作り方を見た後、作業に入るというやり方で行った。2枚の本紙を張り合わせ、軸の取り付けまでを行った。次回講座までは、館で預かり、11月に表紙をつけ、仕上げる。小学生2名、中学生1名も参加があったので、嬉しかった！また、巻き物の巻き方などを教えていただいた。

日時	講座名など（目的）	場所	参加者（県職員：県、指定管理者：指、ボランティア：ボ）
2009.11.8	2日目 9:00～12:00 表紙付け・仕上げ	博物館実習室	當間氏、ボ 宮里佐代子、県 宮平、指 中村、福島、渡部
19名参加。欠席者1人はボランティアのため、材料をもらい、今後個人的に渡すこととした。作業自体は、スムーズに進み、予定時間より30分早く終了することが出来た。今回は、表紙付けの作業を行った。まず、2種類の和紙から表紙を選んでもらい、八双の取り付け、紐付け、本紙との張り合わせを行った。また、巻き物の巻き方や紐の巻き方を習った。最後に集合写真を書いて終了した。			



ていねいな作業に全員集中



細かい部分をていねいに



巻き物の巻き方の講習です

⑤ 手びねりでつくる焼物

日時	講座名など（目的）	場所	参加者（県職員：県、指定管理者：指、ボランティア：ボ）
2009.12.1	事前学習 10:00～12:00	博物館実習室	本田氏、ボ 松野、我那覇、辻本淳二、西田明彦、神山、県 上原、宮平、指 中村

講師の本田氏から簡単な説明を受け、作り方の実演を見た後に、実際に作っていった。土の板に大きな輪郭を書き、丸くした土団子を乗せていく。大体輪郭が出来た後に、ヘラなどで接着させながら模様などを書いて行った。1時間余りで作成することが出来た。教室当日は、もう少し時間がかかると思うが、良い位の時間配分になるだろう。当日は、本人に板を切り、土板を作るところもやってもらう。1人1kgの土でつくる。時間があれば残り土でもう一つ作成しても可！

2009.12.13	1日目 9:00～12:00 制作	博物館実習室	本田氏、ボ 松野、我那覇、辻本淳二、西田明彦、神山、県 上原、宮平、指 中村
------------	----------------------	--------	--

親子2組を含む11組15名が参加しての講座となった。

まず、本田氏が制作する時のポイントなどを話しながら作り方を実演し、その後、各自制作していった。最初は、どのようなシーサーを作ろうかと迷いながら時間がかかっていた参加者も、どんどんイメージが湧いてきたようだった。作る手の動きもスムーズになり、かわいい顔のシーサー、怖い顔のシーサー、いろんな表情のシーサーが仕上がった。

今回の講座では、赤土と白土の二種類の土で二つの面シーサーを制作。今後、博物館の方で焼き上げ、2日目に色付けをする。この日に、仕上げる事の出来なかった4名は、後日作品をもってくることになった。小道具と板を貸出。

2010.1.5 ～2010.1.8	本焼き	博物館実習室外の陶器用電気窯	上原、宮平
-----------------------	-----	----------------	-------

本焼き。パターン4で本焼き焼成。（パターン4：6時間で500度、それから8時間で1230度まで上げ、1時間ネラシ）作品サイズが大きく、一度の焼成で出来るか心配だったが、なんとか入った。中央監視と、警備へ連絡。

2010.1.1	2日目 9:00～12:00 色塗り・仕上げ	博物館実習室	本田氏、ボ 松野、我那覇、辻本淳二、西田明彦、神山、県 上原、宮平、指 中村
----------	---------------------------	--------	--

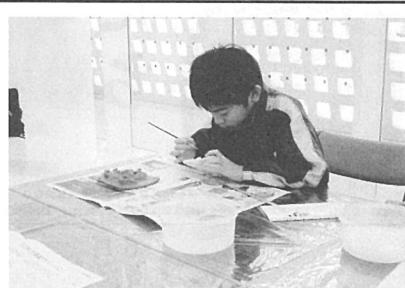
10組13名が参加。最初のあいさつの後、本田氏から焼物を焼く窯の種類などの簡単な説明があり、場所を実習室そとの窯の前に移動し、さらに電気窯について説明があった。5日に火入れした窯を開けると、参加者から歓喜の声が上がり、焼きあがった作品のある窯の中を皆しげしげと覗き込んでいた。本田氏が窯から作品を取りだし、皆の前に置き広げられると、様々な顔の面シーサーを見ながら話す声が弾んできた。各自作品を持って部屋に入ると、次は色塗りについて講師から簡単な説明を受け、作業に取り掛かった。思い思いに描かれていくシーサー達。1時間半後頃には、個性的な面シーサーが仕上がった。普段から目にすることもあるシーサーだが、今回は面シーサーをつくった。



先生が作ったシーサーから鑑賞



しっかりつけ根を押さえますよ



僕の力作

第384回 博物館文化講座
博物館特別展「琉球の江戸上り旅絵巻」(仮称) ブレイベント タンゴ波佐みゆ

「薩摩の琉球侵攻 400年を考える」

平成21年 5月9日(土) 13:30~18:30

1部 シンポジウム
主催: 沖縄県立博物館・美術館
共催: 株式会社メディア・エクスプレス代表取締役
基調報告 (13:30~14:50)
上原英典 (岡山大学特任教授)
「島津氏の琉球侵攻~もうひとつの慶長の役~」
報告 (15:00~17:00)
植村義之 (早稲田大学文学部院教員)
「徳川幕府の對明政策と琉球侵攻」
弓削政己 (東京歴史研究会)
「薩摩藩支配下、奄美諸島と琉球の關係」
吉澤千恵樹 (神戸女子大学教授)
「女性史からみた琉球・薩摩」
高見賀吉 (筑波大学教授)
「薩摩の琉球侵攻と琉球史像」
2部 ハネルティスカッジョン (17:20~)
主催: 普見山耕行 (筑波大学教授)
アーティスト: 三浦雅喜・鶴屋義之・弓削政己・吉澤千恵樹・高見賀吉
会場: 沖縄県立博物館・美術館
3階講堂 及び 1階博物館講座室 (映像放映) 他
定員: 300名 (当日先着順)
お問い合わせ: 沖縄県立博物館・美術館 TEL: 098-941-8200
主催: 沖縄県立博物館・美術館 共催: 株式会社メディア・エクスプレス

入場無料

5月表

沖縄県立博物館・美術館
博物館特別展
「琉球使節の江戸上り旅絵巻」(仮称)

会期: 平成21年10月6日(火)~11月29日(日)
会場: 博物館特別・企画展示室 主催: 沖縄県立博物館・美術館

琉球は、1609年の薩摩による琉球侵攻を契機として、徳川将軍や琉球国王の代替わりに江戸へ赴く、琉球使節の派遣を行っていました。琉球使節たちは、片道約2,000kmにおよぶ旅で、中国との外交を背景とした独自性と教養や文化の高さを大きくアピールした交際関係を築きました。

本展示会では、琉球の荷舟・舟丁との外交や九州から江戸にまたがる地域との広く深い結びつきを示し、琉球の外交と各地への見聞を広げる機会とすることを目的としています。

展示会連携企画
特別展示会開催講座
会場: 博物館・美術館 講堂(3階) 定員: 210名 事前申し込み不要
●10月17日(土) 14:00~16:00
●11月21日(日) 14:00~17:00 [詳細は調整中]

体験学習教室
会場: 博物館・美術館 講堂(3階) 定員: 30名(予定) 事前申し込み必要(1ヶ月前より開始)
●10月11日(日)・11月8日(日) ※2回連続講座
9:00~12:00(2時間とも)
「行列図絵巻をつくろう」
講師: 萩間巧(表具師)

沖縄県立博物館・美術館
沖縄県那覇市おもろまち3-1-1
TEL: 098-941-8200 (代表)
Fax: 098-941-2392
URL: <http://www.museums.pref.okinawa.jp>

5月裏

第385回 博物館文化講座

三線と沖縄の人たち

沖縄の伝統楽器を代表する三線の歴史や形、三線と沖縄の人たちとの関わり等について、分かりやすくお話しします。

2009年 6月20日(土)
午後2時~4時
(開場: 午後1時30分~)

講師: 大城 學
(株)国立劇場あきなわ演習委員会講師
定員: 210名
※入場無料、当日先着順となります。
会場: 沖縄県立博物館・美術館 講堂(3階)

お問い合わせ: 沖縄県立博物館・美術館 Tel: 098-941-8200 (代表)
開館時間 9:00~18:00(金曜日・土曜日は20:00まで) 休館日: 毎週月曜日(月曜日が祝日の時は、翌平日)

6月

第386回 博物館文化講座

古琉球期の 仏教の変遷

2009年 7月11日(土)
午前10時~12時
(開場: 午前9時30分~)

講師: 知名定寛(神戸女子大学教授)
定員: 210名(当日先着順)
会場: 沖縄県立博物館・美術館 講堂(3階)

沖縄への仏教伝来から、第一尚氏・第二尚氏・尚真王朝までの仏教と王府の仏教政策の変遷について、紐解いていきます。

入場無料
お問い合わせ: 沖縄県立博物館・美術館 Tel: 098-941-8200 (代表)
開館時間 9:00~18:00(金曜日・土曜日は20:00まで) 休館日: 毎週月曜日(月曜日が祝日の時は、翌平日)

7月

南極の人と自然

2009年
8月22日(土)
午後2時～4時30分
(開場：午後1時30分～)

「我が國の南極観測50年」

渡辺 興亜（国立極地研究所名誉教授・南極OB会副会長）

「前人未到のドーム頂上を目指して」

奥平 文雄（元南極地域特別隊隊員）

日本の南極観測が始まって、50年余り。極地に関する様々な事柄が分かってきています。講座では、南極において実際に観測隊として活動された渡辺氏、奥平氏から観測成果、体験談などを講演していただきます。

会場：沖縄県立博物館・美術館 講堂(3階)
定員：210名
料金：無料。当日先着順となります。

お問い合わせ 沖縄県立博物館・美術館 Tel: 098-941-8200(代表)
開館時間 9:00～18:00(金曜日・土曜日は20:00まで) 休館日：毎週月曜日(月曜日が祝日の時は、翌平日)

8月表



8月裏

港川人を訪ねて2

2009年
9月12日(土) 午後1時～5時

申込み：8/11～8/30
事前申込割引(電話・来館)

1万8000年前、この沖縄に住んでいた港川人。世界的にも有名な、私たちの先人を見てみよう！

コースの最後に、港川人に続く古骨の発見を目指して行っている発掘現場もご案内します。

見学地八重瀬町立歴史民俗資料館 港川フィッシャー遺跡 ガンガラーの谷

武益洞(ガンガラーの洞)

講師
高橋 巧(ガンガラーの発掘調査員)
新里 尚美(八重瀬町教育委員会
社会教育課 主査)

定員

40名
(小学生3年生以上、参加費。
小学生は保護者同伴。)
※ 許多条件の場合は、追加となります。
※ 会場内、会場外には、30-40名で六方
字を構成いたします。

参加費

1,500円(バス代・保護料込)
※バス代の割合より、運賃は含まれません。
※保護者の方は、必ずお申込み下さい。
※会場内、会場外にて構成いたします。

お問い合わせ 沖縄県立博物館・美術館 Tel: 098-941-8200(窓口：中村)
開館時間 9:00～18:00(金曜日・土曜日は20:00まで) 休館日：毎週月曜日(月曜日が祝日の時は、翌平日)

9月

平成21年度 沖縄県立博物館・美術館 博物館特別展
『琉球使節、江戸へ行く！～琉球慶賀使・謝恩使一行2,000キロの旅団卷～』開催講座

講演会 10月17日(土) 14:00～16:00
『琉球使節の変遷と対日本関係
～届母・偏見から「御取り合い」へ～』
講師：豊見山一和(琉球大学教授)

江戸幕府に派遣された琉球使節の見方をめぐる変遷
以来の喜び(中国衣装を強制されたなど)の誤解や、使節の
秀え方に付し、又はや給番物などの月詫みが送から引き
き出された新たな琉球使節像による。

シンポジウム 10月1日(土) 14:00～17:00
『琉球使節のすがたを求めて』
江戸へ派遣されることに対する琉球使節の懸念と各地との交渉や、慶祝に向けられた大和の民衆・知識人のまなざし、
江戸時代末期の使節に対する意象から明治維新以降の種々の変遷を示し、琉球使節の変じたした役割とその背景を探り、
その具体的なすがたを浮かび上がらせていく。

パネリスト
小野 まさ子(真和志高等学校教諭)
横山 勝(ノートルダム福島女子大学教授)
深澤 秋人(沖縄県立大学・琉球大学・
沖縄キリスト教短期大学非常勤講師)

プログラム
第1部：報告(25分)
小野 まさ子「琉球使節の旅と交流」
横山 勝「琉球使節へのまなざし・大和からの視点」
深澤 秋人「琉球使節と幕末・維新」
～休憩(20分)～
第2部：パネルディスカッション(80分)

主催：沖縄県立博物館・美術館
tel 098-941-8200(窓口：中村)
開館時間：9:00～18:00(金曜日・土曜日は20:00まで)
休館日：毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は、翌平日)

10・11月

■ ■ ■ 第391回 博物館文化講座 ■ ■ ■

身近な自然 ～石を観よう～

12月19日(土)
14:00～16:00

少博物館・美術館・集合・駅前。

講師 加藤 祐三 (琉球大学名誉教授)

何億年、何万年前の岩石が、私たちの周りにある事を知っていますか？

今回の博物館講座では、博物館周辺の建物等に利用されている岩石を観察しながら歩きます。
窓外と身の周りにあるものなんですよ♪

（左）石敢當

定員 30名 (中学生以上、参加費)

お問い合わせ 沖縄県立博物館・美術館 Tel: 098-941-8200 (中村)

開館時間 9:00～18:00 (金曜日・土曜日は20:00まで) 休館日：毎週月曜日 (月曜日が祝日の時は、翌平日)
お正月は1月1日から開館します。(12月28日(月)～31日(木)臨時休館、1月1日(金)～2日(土)9:00～18:00、4日(月)休館、5日(火)以降通常開館)

参加費 50円 (保護料)

申込み〆切: 12/5 (土)

事前申込制 (電話・来館)

お問い合わせ 沖縄県立博物館・美術館 Tel: 098-941-8200 (代表)

開館時間 9:00～18:00 (金曜日・土曜日は20:00まで) 休館日：毎週月曜日 (月曜日が祝日の時は、翌平日)
お正月は1月1日から開館します。(12月28日(月)～31日(木)臨時休館、1月1日(金)～3日(日)9:00～18:00、4日(月)休館、5日(火)以降通常開館)

■ ■ ■ 第392回 博物館文化講座 ■ ■ ■

殷元良の山水画 ～東アジアの絵画の視点から～

いんげんりょう

十八世紀に宫廷藝術として活躍した殷元良の山水画について、中国山水画の流れなどに触れつつ、講演していただきます。

2010年
1月16日(土)
午後2時～4時 (開場: 午後1時30分～)

講師：渡 信幸 (東京国立博物館名譽館員・書員研究員)

定員: 210名 入館無料。当日先着順となります。

会場: 沖縄県立博物館・美術館 講堂(3階)

12月

1月

■ ■ ■ 第393回 博物館文化講座 ■ ■ ■

サンゴ礁の保全と活用

(企画展「造礁サンゴ～楽園をつくった偉大な建築家～」関連講演会)

今、沖縄のサンゴ礁は危機に瀕しています。私たちに何ができるか、
サンゴ礁の保全と活用について皆で考えてみましょう。

2010年2月20日(土) 14時～16時

入場無料(210名定員、当日先着)

講師: 西平守孝(海洋博公園管理財団参与・東北大名誉教授)

お問い合わせ 沖縄県立博物館・美術館 Tel 098 941 8200(代表)

開館時間 9:00～18:00(金曜日・土曜日は20:00まで)

休館日／毎週月曜日 (月曜日が祝日の時は、翌平日)

沖縄県立博物館・美術館 企画展
「造礁サンゴ～楽園をつくった偉大な建築家～」
2010年2月5日(金)～3月14日(日)
会場: 沖縄県立博物館・美術館 3階博物館企画展示室

2月

■ ■ ■ 第394回 博物館文化講座 ■ ■ ■

グスク巡り ～中城城跡・勝連城跡～

世界遺産にも登録されている琉球王国時代の代表的なグスク、
中城城跡・勝連城跡を見学します。

2010年
3月20日(土)
午後1時～5時 (集合・解散: 県立博物館・美術館駐車場)

講師: 當眞 則一 (沖縄考古学会会長)

定員: 40名 (小3以上、小学生は父母同伴)

お問い合わせ 沖縄県立博物館・美術館 Tel: 098-941-8200 (代表)

開館時間 9:00～18:00 (金曜日・土曜日は20:00まで) 休館日：毎週月曜日 (月曜日が祝日の時は、翌平日)

見学地: 中城城跡・勝連城跡・勝連城跡休憩所

お問い合わせ 沖縄県立博物館・美術館 Tel: 098-941-8200 (代表)

開館時間 9:00～18:00 (金曜日・土曜日は20:00まで) 休館日：毎週月曜日 (月曜日が祝日の時は、翌平日)

会場期間は、2/19(金)～3/5(金) ジャヨ!

（右）キャラクターのイラスト

3月

IV 博物館文化講座

1 博物館文化講座実施要項

(1) 主旨・目的

博物館の展示内容に関する沖縄の自然・歴史・文化等について、広い視点から分かりやすく楽しく、有意義な学習ができるよう、文化講座を開催する。これを開催することにより、沖縄の自然・歴史・文化に対する県民の意識の向上を図ることを目的とする。

(2) 内容

当博物館の展示内容と関連する自然史・人類・考古・歴史・美術工芸・民俗の各分野についての講演、展示品の解説、実技指導、現地研修などを通して、県民各層が分かりやすく有意義に学習できるよう企画されている。

(3) 実施日と場所

実施日：毎月1回、第3土曜日 午後2時～4時までの2時間

※野外観察(第388回、第391回、第394回)については、別途日程を設定する。

場 所：特に指定がない場合は、講堂（3F）

(4) 受講方法

当日の来館参加という形をとり、基本的に予約受付はしない。

※講堂の収容人数（210名）の定員とする。

回数	期日	演題	講師名	内容	定員
384	5月9日	薩摩の琉球侵攻400年を考える	土原兼善（岡山大学特任教授）、紙屋敦之（早稲田大学文学学術院教授）、弓削政己（奄美郷土研究会）、真栄平房昭（神戸女子学院大学教授）、高良倉吉（琉球大学教授）、豊見山和行（コーディネーター・琉球大学教授）	特別展関連シンポジウム	210
385	6月20日	三線と沖縄の人々たち	大城學（（財）国立劇場おきなわ調査養成課長）	博物館収蔵の三線を中心に解説	210
386	7月11日	古琉球期の仏教の変遷	知名定寛（神戸女子大学教授）	沖縄の仏教史についての解説	210
387	8月22日	南極の人と自然	渡辺興亜（国立極地研究所名誉教授・南極OB会副会長）	極地について	210
388	9月12日	港川人を訪ねてⅡ	高橋巧（ガンガラーの谷担当課長）、新里尚美（八重瀬町教育委員会）	ガンガラーの谷を中心現地解説	40
389	10月17日	琉球使節の変遷と対日本関係	豊見山和行（琉球大学教授）	特別展関連講座	210
390	11月21日	琉球使節のすがたを求めて	横山學（ノートルダム清心女子大学教授）、深澤秋人（沖縄国際大学・琉球大学・沖縄キリスト教短期大学非常勤講師）	特別展関連シンポジウム	210
391	12月19日	身近な自然	加藤裕三（琉球大学名誉教授）	近郊の建築物の岩石を解説	40
392	1月16日	殷元良の山水画	濱信幸（東京国立博物館名誉館員・客員研究員）	山水画についての解説	210
393	2月20日	サンゴ礁の保全と活用	西平守孝（海洋博公園管理財団参与・東北大学名誉教授）	企画展関連講座	210
394	3月20日	グスク巡り	當眞嗣一（沖縄考古学会副会長）	中部のグスクを現地解説	40

2 文化講座の実施状況

第384回博物館文化講座「薩摩の琉球侵攻400年を考える」

日時 2009/5/9 13:30～18:30 参加者 540名
講師 上原兼善（岡山大学特任教授）、紙屋敦之（早稲田大学文学学術院教授）、弓削政己（奄美郷土研究会）、真栄平房昭（神戸女学院大学教授）、高良倉吉（琉球大学教授）、豊見山和行（琉球大学教授）
場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂
共催 榎樹書林、株式会社メディア・エクスプレス

今年度最初になる博物館文化講座は、10月6日～11月29日に開催する博物館特別展「琉球使節、江戸へ行く！～琉球慶賀使・謝恩使一行2000キロの旅絵巻～」のプレイベントで、4会場を設けるなど、大盛況の中、長時間にわたっても関わらず、多くの参加者がおり関心の高さを伺わせました。第1部シンポジウムでの上原兼善氏の基調報告「島津氏の琉球侵攻－もう一つの薩長の役－」の後、紙屋敦之氏の「徳川幕府の対明政策と琉球侵攻」、弓削政己氏の「薩摩藩支配下、奄美諸島と琉球の関係」、真栄平房昭氏の「女性史からみた琉球・薩摩」、高良倉吉氏の「薩摩の琉球侵攻と琉球史像」の各報告がありました。第2部のパネルディスカッションでは、豊見山和行氏の進行のもと、薩摩による琉球侵攻という出来事が様々な立場から討議がなされました。今後の展望として、より詳細な研究によった議論を深めていく必要性や沖縄と鹿児島・奄美との交流を持続的に進めていくこと、「小国」琉球の生き方をヒントに現在の沖縄を捉えられる可能性などの活発な意見が交わされました。多くの参加者が琉球王国の歴史に対して興味以上の何かを期待している様子が伺え、秋の特別展の開催が待たれます。



熱心に聞きいる聴衆



シンポジウムの講師の方々



たくさんの参観者があった

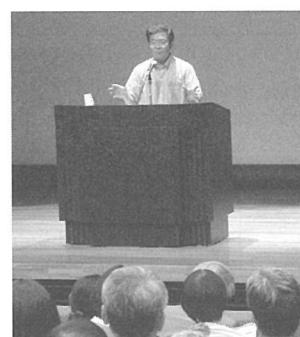
第385回博物館文化講座「三線と沖縄の人たち」

日時 2009/6/20 14:00～16:00 参加者 105名
講師 大城 學（財：国立劇場おきなわ調査養成課課長）
場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

第385回博物館文化講座は「三線と沖縄の人たち」と題して、国立劇場おきなわ調査養成課課長大城學氏をお招きして行されました。三線は14世紀から15世紀初めにかけて中国から伝来したとされており、永禄年間に琉球より大阪の堺に渡来し、本土でも流行した歴史があります。三線は沖縄の人々の暮らしの中にしっかりと根付いており、単に楽器だけではなく沖縄の人たちの心の支え、信仰的な存在としての興味深い事例がたくさん紹介され、「名器」とされる「盛嶋開鐘」「志多伯開鐘」などの事例も紹介されました。音のみでなく、これほどにたくさんの三線にまつわる話が多いことは県民の喜怒哀樂に深く根づいているためで、改めて三線の魅力に触れた思いがしました。折しも「匠の技！又吉章盛の世界・三味線百丁展」（実行委員会主催）が開催されており、講話のなかでも紹介されていた「ウズラミ」と呼ばれるリュウキュウコクタン（クルチ）の最高級品と称される棹が、講話終了後に会場を訪れる観衆の目を惹いていました。



熱心に聞きいる参加者



大城氏



大城氏

第386回博物館文化講座 「古琉球期の仏教の変遷」

日時 2009/7/11 14:00～16:00 参加者 195名
講師 知名 定寛（神戸女子大学教授）
場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

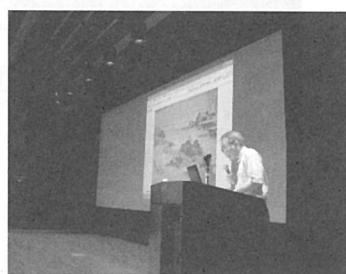
第386回博物館文化講座は「古琉球期の仏教の変遷」と題して、神戸女子大学教授知名定寛氏をお招きして行されました。講座には多くの参加者が詰めかけ、県民の方々の仏教に対する関心の高さが伺えました。今回は知名氏の著作『琉球仏教史の研究』から論点を絞り、古琉球期の仏教についての説明がありました。多くの資料から琉球の人々が仏をあがめ、たくさんの僧侶が行き交い、各家々には仏像が並んでおり、多くの寺の建立や特に尚泰久王は各寺に23の梵鐘を寄進した古琉球期の様子について解説がありました。

尚巴志政権は、仏教的世界に染まらず関わりはそれほど強くないが、第一尚氏は室町幕府との交流の中で仏教の必然性があり、禅宗の僧が外交的な役割を果たし政治に関与したのではと推測されています。1530年尚清王の代に国王の側にいた鶴翁という僧は、王に意見を言うなど政治と仏教の深い結びつきがありました。しかし、寺の多くは中山王国の首里・那覇のみに集中して建立されており、庶民にはほとんど布教しておらず権力を掌握するために仏教を必要としたのではと述べられました。沖縄の仏教は、歴史の中から忘却されており研究も停滞している、それは仏教史を研究する人が少ないためで、分かっていないことが多いとの報告がありました。

研究史家が増え、文献の研究が進むと歴史像のマイナスイメージが払拭され、新たな展開ができるのではないかというお話に会場から温かな拍手が送られました。



詰めかけた観衆



知名氏



説明する知名氏

第387回博物館文化講座 「南極の人と自然」

日時 2009/8/22 14:00～16:00 参加者 66名
講師 渡辺興亜（国立極地研究所名誉教授・南極OB会副会長） 奥平文雄（元南極地域観測隊隊員）
場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

第387回博物館文化講座は「南極の人と自然」と題して、国立極地研究所名誉教授渡辺興亜氏、元南極地域観測隊隊員奥平文雄氏をお招きして行されました。渡辺氏は第11次、第15次の越冬隊員、第29次・第35次では観測隊長として、奥平氏は第13次・26次越冬隊隊員として南極へ行かれた貴重な体験を持った方々です。お二人の南極の貴重な写真資料をもとに、南極の観測船、基地やオーロラ、ペンギン等のスライドを見ながら、我が国の南極観測の50年の歩みを解説いただきました。南極観測船「宗谷」、探検観測「ふじ」、南極の新しい時代の開拓「しらせ」、本格観測の展開への変遷について、また「内陸調査」のエンダービラント雪氷計画・地学計画の概要と「ドームふじ深層掘削計画」への発展などについて、詳細な説明がありました。さらに地学分野の成果として、の16,000個に及ぶ隕石の大量発見の成果等、大変興味深い報告がありました。

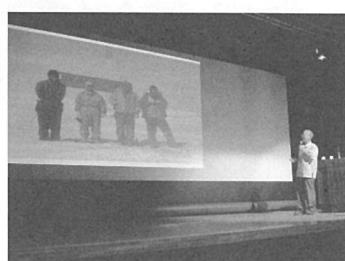
沖縄出身の奥平氏からは、氷河学を学んだいきさつや、前人未踏のドーム頂上を目指すまでに至る体験と、ドリルによるボーリングの苦闘や、20mピットの手堀りの様子など興味深い講話がありました。休憩時間には、南極の氷も披露され、しばし南極に思いを馳せるなど専門家ののみならず一般の方々にも満足のいく講演でした。



会場の様子、渡辺氏



南極の氷に触れる



説明する奥平氏

第388回博物館文化講座「港川人を訪ねてⅡ」

日時 2009/9/12 13:00 ~ 17:00 参加者 40名

講師 新里尚美（八重瀬町教育委員会）・高橋 巧（ガンガラーの谷担当課長）

場所 八重瀬町立具志頭歴史民俗資料館 港川フィッシャー遺跡 ガンガラーの谷

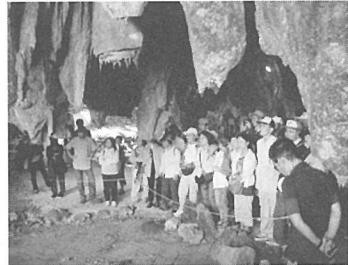
第388回文化講座「港川人を訪ねてⅡ」は、参加者40名で13時に博物館からバスで八重瀬町立具志頭歴史民俗資料館観覧→港川フィッシャー遺跡見学→ガンガラーの谷探検と、帰館まで4時間の充実した内容で開催しました。行きのバスの中では、藤田専門員・山崎専門員の説明と「人類の誕生と進化の歩み」のDVD観賞で、多くの説明があり、質問も多く出て関心の高さが窺えました。八重瀬町立具志頭歴史民俗資料館では、新里尚美氏（八重瀬町教育委員会）から港川人発見者、大山盛保氏についての解説があり、その後各自で観覧しました。港川フィッシャー遺跡も多くの方が初めてとのことで感動し、発掘者の大山盛保氏の偉業に感心する様子が見られました。最後に訪れたガンガラーの谷探検では、鍾乳洞の不思議な空間と高橋巧氏（ガンガラーの谷）の巧妙な語り口に、全員が古代にしばしタイムスリップしました。11月には藤田専門員・山崎専門員等による武芸洞遺跡の発掘が再開されるとのことで、ますます目が離せなくなりそうです。参加者の多くも関心を寄せ、楽しみにしている様子が伺えました。



ガンガラーの谷



武芸洞の様子①



武芸洞の様子②

第389回博物館文化講座

「琉球使節の変遷と対日本関係—屈辱・偏見から「御取り合い（ウトウイエ）へー」

日時 2009/10/17 14:00 ~ 16:00 参加者 160名

講師 豊見山 和行（琉球大学教授）

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

第389回文化講座「琉球使節の変遷と対日本関係」は、琉球大学教授豊見山和行氏をお招きして行われました。本講座は、博物館特別展「琉球使節、江戸へ行く！」の関連講座として行われました。従来の「江戸上り」は歴史用語自体に問題性があるという指摘から始まり、王国時代の公的表現では「江戸立」といい、琉球と江戸幕府、琉球と薩摩藩島津氏との関係は区別すべきであるという説明がなされました。従来の「異国風の装束を強制され云々」は長いこと通念として定着してきたが、1610年の徳川家康と対面した尚寧王の場合や、1709年堀興昌達書、江戸立絵図等から検証し、「唐・大和の御取り合い」という戦略で当時の人々は自意識を持ち、屈辱的な隸属ではなかったということであった。使節団の江戸立は琉球国の誇りにあふれ、あでやかな行列はひときわ江戸の人々の脳裏に焼きついた様が想像され、参加者も熱心に耳を傾けていました。当日は定刻前から開場を待つ方々が多く、講演後には質問も出され、関心の高さが伺える講演となりました。



会場の様子



豊見山氏



解説する豊見山氏

第390回博物館文化講座「琉球使節のすがたをもとめて」

日時 2009/11/21 14:00～17:00 参加者 180名

講師 横山學（ノートルダム清心女子大学）

深澤秋人（沖縄国際大学・琉球大学・沖縄キリスト教短期大学非常勤講師）

場所 沖縄県立博物館・美術館講堂

第390回文化講座「琉球使節のすがたを求めて」は、第1部にノートルダム清心女子大学教授の横山學氏の「琉球使節へのまなざし～大和からの視点～」、大学非常勤講師深澤秋人氏の「琉球使節と幕末維新」の講話が行われました。横山氏からは、琉球使節を当時の幕府・文人・庶民・送った琉球国の立場などの視点から捉え、資料をもとに説明がなされました。又その中でハワイ大学の宝玲文庫のフランク・ホーレーの琉球コレクションの紹介もありました。深澤氏は最後の琉球使節である維新慶賀使の克明な記録から、「王政御一新」の祝儀とご機嫌伺いのための「賀表」が「冊封の詔」により、尚泰が琉球藩主とされ華族に列せられたいきさつには仕掛けがあったのではと説明がなされました。第2部は、崎原恭子学芸員の司会でお2人の対談がアンケートに答える形で行われました。最後に、特別展「琉球使節、江戸へ行く！」展の中に展示されている貴重な資料の紹介等もなされ、参加者も満足した様子で盛況のうちに終えました。



横山氏



深澤氏



対談の様子

第391回博物館文化講座「身近な自然～石を観よう～」

日時 2009/12/19 14:00～16:00 参加者 22名

講師 加藤 裕三（琉球大学名誉教授）

場所 沖縄県立博物館・美術館周辺

第391回文化講座「身近な自然～石を観よう～」は、琉球大学名誉教授加藤祐三氏をお招きして開催されました。博物館屋外展示場にある民家に集合し、屋外展示場にある石灯籠の素材である溶結凝灰岩の解説がありました。その後、博物館周辺での建造物の外壁などに使用されている岩石を直接観察しながら、わかりやすく説明していただきました。花崗岩や斑レイ岩は、マグマが地下深所で固まってできた岩石で、産出量が多く見た目も美しいため建築材などに多く使用されているそうです。また、石敢當に使用されるニービや沖縄県に代表される数十万年前に形成された琉球石灰岩や、セメントの原料となる1～2億年前に形成された本部石灰岩などについてもわかりやすく話を聞いていただきました。特に、地球年齢という壮大なタイムスケールのなかで想像をめぐらせ、岩石の寿命に対して、人間の寿命がいかに短いかなどの話題も取り上げていました。

風が強く吹く、寒い中での屋外観察となりましたが、質問も多く飛び出し内容の濃い観察会となりました。また、こんなに身近に多くの岩石が使用されているなど、参加者にとっては多くの発見があり、貴重な体験をすることができました。



館内の岩石を見る



博物館周辺の岩石



加藤氏の説明

第392回博物館文化講座「殷元良の山水画～東アジアの絵画の視点から～」

日時 2009/1/16 14:00～16:00 参加者 66名

講師 湊 信幸（東京国立博物館名誉館員、客員研究員）

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

第392回博物館文化講座は、「殷元良（いんげんりょう）の山水画～東アジアの絵画の視点から～」と題して、東京国立博物館名誉館員の湊信幸氏をお招きして開催されました。

殷元良（唐名）は、名乗りを座間味庸昌といい、18世紀に活躍した琉球絵画の画家として知られています。殷元良が師事していた吳師慶（ごしけん：山口宗季）は、中国福建での孫億、順梁享、鄭大觀に師事しており、殷元良自身も中国絵画の系譜を引いています。主な作品としては、山水画の他に花鳥図や人物図なども多数あることが紹介されました。

また、殷元良は、1752年、35歳の時に中国へ渡りますが、その時にはすでに絵師としての技術が出来あがっていたのではないかと言うお話をしました。

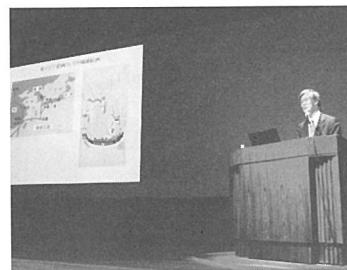
講座では、中国絵画の主な流れや、その中で活躍する画家について触れていただき、四枚の「虎の図」を並べて映写し、比較して見るなど、とても分かりやすい内容となっていました。参加された方々も、中国絵画と琉球絵画との関係、また、絵画の見方など大変興味深い貴重なお話が聞けたことと思われます。



会場の様子



講演の様子



湊氏

第393回博物館文化講座「サンゴ礁の保全と活用」

日時 2009/2/20 14:00～16:00 参加者 70名

講師 西平 守孝（海洋博公園管理財団参与・東北大大学名誉教授）

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

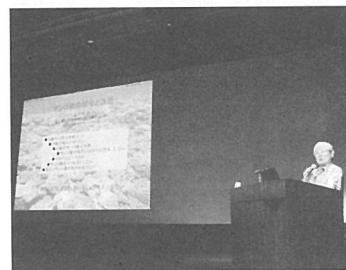
第393回文化講座は、「サンゴ礁の保全と活用」と題して、海洋博公園管理財団参与の西平守孝氏をお招きして行われました。講座では、どのように自然を認識するかということからはじまり、サンゴ礁の生物多様性が維持される上で、生物が作り出した構造が、ほかの生物の新たなすみ場所を提供していくという「棲み込み連鎖」が重要であることが緻密な観察事例で示されました。危機的状況にある沖縄のサンゴ礁を保全する上で、一定以上に成長するとほかの多くの生きもののすみ場所となるサンゴの移植も一つの効果的な方法であることが長年のモニタリングの結果から示されました。一方、このようなサンゴ礁の保全に対する取り組みに先立つべき国内の造礁サンゴの分布や生息状況の調査がまだまだ不十分であり、早急に調査をする必要性があることが指摘されました。

また、サンゴやサンゴ礁の生きものたちが人びとのくらしの中で使われてきたことや今後もさまざまな形で活用される可能性が示唆され、まさにサンゴ礁が沖縄の人びとにとって欠くことのできない存在であることが実感されました。サンゴ礁を健全な形で残すためには、私たち一人ひとりがサンゴ礁の保全に関心をもち、サンゴ礁やそれに由来するものを持続的に活用できることを目指すことが重要であることが示唆された講演でした。

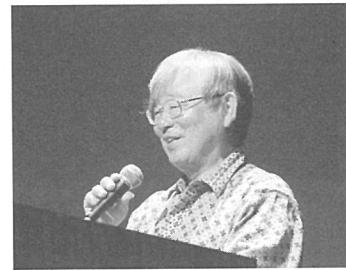
第394回博物館文化講座「グスク巡り」



講演の様子



講演の様子



西平氏

日時 2009/3/20 13:00～17:00 参加者 40名

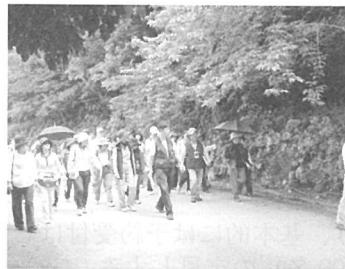
講師 當眞 嗣一（沖縄考古学会副会長）

場所 中城城跡・勝連城跡

第394回文化講座は、中部の「グスク巡り」を沖縄考古学会副会長當眞嗣一氏をお招きして行されました。40名の募集定員に80名の応募があり、人気の高さが窺われました。博物館から中城城跡までの行程中は、當眞氏よりバスの車窓からみえるグスクについての紹介などもあり、有意義な時間を過ごす事が出来ました。中城城跡は、築城家として知られる護佐丸が阿麻和利に対する備えとして創建したグスクと言われ、郭内の複雑な形状から敵の侵入に対する心理的、軍事的効果を狙って造られたとの説明がありました。次に回った勝連城跡は、12～13世紀に阿麻和利によって築城され、建物の屋根に瓦を使った特徴が見られるとのことでした。當眞氏の説明から、勝連城跡は外国との貿易を熱心に行い、繁栄し、琉球の中でも強大な力を持っていた事が窺わされました。今回は2カ所のグスクを中心に回りましたが、當眞氏の豊富なグスク研究の真髄を窺うことが出来、参加者も有意義な時間を過ごせた様子でした。



中城城跡



中城城跡を見学する参加者



説明をする當眞氏

V 博物館学芸員講座

1 博物館学芸員講座等実施要項

(1) 主旨・目的

博物館の展示内容に関する沖縄の自然・歴史・文化等について、学芸員が広い視点から分かりやすく講義・展示解説し、楽しく有意義な学習を通して、県民の意識の向上を図ることを目的とする。

(2) 内容

当博物館の自然史・人類・考古・歴史・美術工芸・民俗の各分野の担当学芸員が行なう講義・展示解説などを通して、県民が楽しく、より深く沖縄について学べるよう企画されている。

(3) 実施日と場所

実施日：毎月1回、第1土曜日 午後2時～4時までの2時間

場 所：特に指定がない場合は、博物館講座室

(3) 受講方法

当日の来館参加という形をとり、基本的には予約受付はしない。

※博物館講座室の収容人数（100名）の定員とする。

(4) 日程

回数	日 程	分 野	講師名	演 題	定員
1	4月 11日	歴 史	崎原 恭子	琉球使節たちの足あとを求めて ～九州から関東まで～	100
2	5月 2日	人 類	山崎 真治	港川人の時代を掘る	100
3	6月 6日	考 古	羽方 誠	首里城周辺発掘	100
4	7月 18日	美 術 工 芸	与那嶺一子	貢納布のはなし	100
5	8月 12～14日	教 育 普 及	上原 成美	教師のための博物館講座	60
6	9月 5日	民 俗	岸本 敬	祖先の残したタイムカプセル 「ジーシガーミ」	100
7	10月 3日	自 然 史	田中 聰	ここだけの、カエルのはなし	100
8	11月 7日	自 然 史	濱口 寿夫	沖縄の天然記念物 その現状と課題	100
9	12月 5日	美 術 工 芸	平川 信幸	新発見資料「孔子像」を読み解く	100
10	1月 9日	人 類	藤田 祐樹	形から入る骨の研究	100
11	2月 6日	歴 史	岸本 弘人	八重山の歴史	100
12	3月 13日	自 然 史	仲里 健	岩石の魅力～石が秘める過去の記憶～	100

2 実施状況

第1回学芸員講座「琉球使節たちの足あとを求めて～九州から関東まで～」

4月11日 (分野) 歴史 (参加者) 45名 (担当学芸員) 崎原恭子

今年度最初の学芸員講座では、これまでの調査成果等とともに、崎原学芸員が琉球使節たちの足あとをたどり、実際に体験した各地での様子を資料を交えながら説明をおこなった。今年は、1609年薩摩の琉球侵攻から400年の年に当たり、5月には、10月に行われる特別展「琉球使節、江戸へ行く！～琉球慶賀使・謝恩使一行2,000キロの旅絵巻～」の「薩摩の琉球侵攻400年を考える」のイベントとして、シンポジウムが行われる予定である。崎原学芸員の琉球使節たちの主なルートをたどる旅は、それに向けての貴重な資料収集のためのものもあり、当時の使節団の様子を彷彿とさせる資料がたくさん見られた。

第2回学芸員講座 「港川人の時代を掘る」

5月2日 (分野) 人類 (参加者) 37名 (担当学芸員) 山崎真治

講座の始めに「人類の誕生と進化の歩み」のビデオが流れ、惹きつけられた参加者もたくさんいた。大山盛保氏による、港川人の発見から、港川人が生きた時代、日本・世界の旧石器時代の説明があった。なぜ、沖縄で人類の化石が見つかったのか、沖縄の石灰岩が保存に適したものであること、また、完全な状態で4体も発見されたことが人類史にもたらす意義の大きさなど、地元にすむ我々はもっと認識すべきだということを感じた。又、南城市ハナンダガマ、糸満市与座岳、真栄平の発掘の様子も資料とともに興味をそそる内容のものであった。

第3回学芸員講座 「首里城周辺発掘」

6月6日 (分野) 考古 (参加者) 43名 (担当学芸員) 羽方 誠

首里城周辺の発掘調査が進められ、次々に新たな成果が得られているとのことで、調査の様子や成果としてあげられた多くの発掘品の説明があった。綾門大道跡、真珠道跡、園比屋武御嶽、その他、屋敷、墓、工房、庭園など今なお興味深い遺構や出土品が出ているとの報告があり、次の報告がさらに楽しみである。また、ナカンダカリヤマ古墓群から出土した、河南三彩の色鮮やかさに感嘆させられた様子であった。

第4回学芸員講座 「貢納布のはなし」

7月18日 (分野) 美術工芸 (参加者) 106名 (担当学芸員) 與那嶺一子

「貢納布とは」の話から始まり、近世の貢納布の制度が1609年の島津氏の侵攻後、強化された経緯と布の種類、課税対象者と減免者の説明があった。織女と役人たちの関係、貢納布の証である署名の残された数少ない布を国立博物館で偶然目にしたことなど、データーをもとに興味ある話があり、多くの参加者も惹きつけられていた。また、「藏元絵師稿」「八重山島御用布座公事帳」に沿って、早船、春立船に間に合わせるため、納期にせきたてながら、役人たちの指導・監督のもとで御用布を織り、織り続けた過酷な歴史。現在の沖縄の染め・織りの水準の高さの原点を偲ばせる貴重な講話であった。

第6回学芸員講座 「祖先の残したタイムカプセル〈ジーシガーミ〉」

9月5日 (分野) 民俗 (参加者) 50名 (担当学芸員) 岸本 敬

沖縄の固有の習俗であり、貴重な文化遺産である厨子甕について、昨年の企画展「ずしがめの世界」の内容をふまえながら、写真や図を使って分かりやすい説明があった。沖縄の洗骨習俗についての興味深いものでは、実際に洗い清めるのは女子のみであることなど、当時の女性の神聖な儀式を司る役割を認識させられた。木棺～石厨子、陶製厨子等への変遷と博物館に収蔵されている代表的な厨子甕の資料が紹介され、改めてその種類の豊かさに目を奪われた。また、厨子甕の装飾では、尚家のものでは簡素で、庶民のものは派手であり、膨大な量のバリエーションがあることが説明され、銘書の中には、王府の歴史書「球陽」にも見えない貴重な記録が残されているのもあることなど、興味深い講話であった。

第7回学芸員講座 「ここだけのカエルのはなし」

10月3日 (分野) 自然史：生物 (参加者) 54名 (担当学芸員) 田中 聰

カエルという動物の性質、世界のなかでみた琉球列島のカエル相や琉球列島のなかでの分布の特徴などの包括的な話に始まり、琉球列島のカエルの固有性の高さが近年の研究成果により、さらに証明されたことなどが紹介された。また、ヤンバルに生息する数種のカエルや八重山のアイフィンガーガエル、宮古島のミヤコヒキガエルなどの興味深い繁殖行動、さらに沖縄島の市街地でも身近なオキナワアオガエル、リュウキュウカジカガエル、ヒメアマガエルの生態や繁殖行動を、自ら撮影した豊富なスライドやビデオを使って説明された。まだどこでも話したことのない未発表の「ここだけ」の話が随所にあった。質問も多く、カエルに興味をもつ人が多いことに気づかされた講座であった。

第8回学芸員講座 「沖縄の天然記念物 その現状と課題」

11月7日 (分野) 自然史：生物 (参加者) 26名 (担当学芸員) 濱口寿夫

沖縄の天然記念物の紹介があり、天然記念物を保護するための文化財保護法の説明があった。文化財には人間の手で作られた文化的遺物と生物等の自然物があり、そのいずれについても現状変更・保存に影響を及ぼす行為の制限があり、罰則規定もあることなどが分かりやすく説明された。いかにして沖縄の天然記念物を守っていくかという大きな課題には「ヤンバルクイナ」の場合のように県民レベルでの保護活動が有効であることが紹介された。多くの資料をもとに、文化財に関わってきた濱口班長の活動等から、県民一人ひとりの意識の高まりをあらゆる場で促すことの大切さを改めて感じた。もっと多くの方々に聴いてほしい内容の講座であった。

第9回学芸員資料 「新発見資料〈孔子像〉を読み解く」

12月5日 (分野) 美術工芸 (参加者) 40名 (担当学芸員) 平川信幸

2006年に尚家の新資料4点が確認された。沖縄の近代史を埋める貴重な資料だが、所在不明となり、80年振りに発見された「孔子像及び四聖配像」について、平川学芸員から資料をもとに丁重な解説がなされた。「孔子像」が、いつ、どのようにして描かれたかということ等、絵画の5H 1Wという分かりやすい解説でおこなわれた。資料状態が悪い中でも図版資料を比較しながら、鎌倉芳太郎氏の残した写真と見比べ、さらに当時の新聞記事から保存場所の推定を行い、琉球処分後の社会情勢にも触れた興味深い講座であった。

第10回博物館学芸員講座 「形から分かる骨の研究」

1月9日 (分野) 人類 (参加者) 66名 (担当学芸員) 藤田祐樹

骨に関する興味が高じて現在に至るまでの、藤田学芸員自身の研究過程や研究資料をもとに、骨に関する見方等の説明があった。その後、各グループに分かれて、実際に参加者が実物や標本で、資料や図鑑をもとに組み立て作業を行った。全グループが熱心に取り組み、確認する時間が足りなかつたことが残念であった。

第11回博物館学芸員講座 「八重山の歴史」

2月6日 (分野) 歴史 (参加者) 74名 (担当学芸員) 岸本弘人

八重山の地理に始まり、地名の由来、オヤケアカハチの乱、人頭税、大津波などを中心に解説が行われた。近代分野では、琉球処分にまつわる八重山の状況や明治から大正期にかけての出来事が、写真投影を交えて紹介された。多くの参加者から9月から行われる博物館特別展「八重山展(仮称)」を楽しみにしている様子が伺われた。

第12回博物館学芸員講座 「岩石の魅力～石が秘める過去の記憶」

3月13日 (分野) 自然史：地学 (参加者) 42名 (担当学芸員) 仲里 健

我々が普段使っている「石」についての認識を、地質学的な分野から解説があった。岩石の種類の分野の仕方、含まれている成分、岩石から分か過去のる様々なできごなど、仲里学芸員の軽妙な話し方に参観者は熱心に耳を傾けていた。最後に偏光顕微鏡で岩石薄片を見ることが出来、その美しい色彩に感動の声があがった。「石は磨けば宝石になる」という言葉に納得し、参加者は改めて足元の「岩石」を見直す機会になった様子であった。



講座の様子（第1回）



講座の様子（第2回）



講座の様子（第4回）



講座の様子（第6回）



講座の様子（第10回）



講座の様子（第11回）

VI 展示解説会

1 展示解説会実施要項

(1) 主旨・目的

博物館の展示内容に関する沖縄の自然・歴史・文化等について、学芸員が広い視点から分かりやすく展示解説し、楽しく有意義な学習を通して、県民の意識の向上を図ることを目的とする。

(2) 内容

当博物館の自然史・人類・考古・歴史・美術工芸・民俗の各分野の担当学芸員が行なう展示解説などを通して、県民が楽しく、より深く沖縄について学べるよう企画されている。

(3) 実施日と場所

実施日：毎月2回、第2・4木曜日 午後2時～3時までの1時間

場 所：博物館常設展示室

(4) 受講方法・定員

受講方法：当日9時から、ふれあい体験室にて受付。

定 員：15名（先着順）

(5) 日程

回数	日程	分野	講師名	回数	日程	分野	講師名
1	4月 9日	美術工芸	平川信幸	11	10月 8日	美術工芸	平川信幸
2	4月 23日	歴 史	崎原恭子	12	11月 12日	歴 史	崎原恭子
3	5月 14日	人 類	藤田祐樹	13	11月 26日	人 類	藤田祐樹
4	6月 11日	自然史(生物)	田中 聰	14	12月 10日	自然史(生物)	田中 聰
5	6月 25日	民 俗	岸本 敬	15	12月 24日	民 俗	岸本 敬
6	7月 23日	考 古	羽方 誠	16	1月 14日	考 古	羽方 誠
7	8月 6日	美術工芸	与那嶺一子	17	2月 18日	美術工芸	与那嶺一子
8	8月 27日	歴 史	岸本弘人	18	2月 25日	人 類	山崎真治
9	9月 10日	自然史	仲里 健	19	3月 11日	自然史(地学)	仲里 健
10	9月 25日	人 類	山崎真治	20	3月 25日	歴 史	岸本弘人

2 実施状況

常設展示解説会では、展示資料を前に各学芸員がパネル文だけでは補いきれない「博物館ならではの最新の調査報告や情報」をふまえた内容を紹介しました。参加者の内訳を見ると、博物館ボランティアスタッフが半数を占め、その他年間パスポートや友の会会員等のリピーターの参加が定着してきています。学芸員が担当する展示室を一周することが定番となっていますが、今後は具体的にテーマを設けるなど、リピーター対策も必要と考えられます。全20回、244名の参加がありました。

また、常設展示解説会とは、別に企画展・特別展展示解説会も行いました。今年度は、特別展「琉球使節、江戸へ行く」を3回、企画展「造礁サンゴ～楽園をつくった偉大な建築家～」を2回、「ものづくり今昔～自然の恵みを活かす～」を2回実施しました。各展示担当学芸員が、パネル文章では伝えきれなかった細かい説明など、分かりやすく解説しました。

常設展の展示解説会同様、博物館ボランティアスタッフの参加が多くみられる中、見学中の一般来場者が気軽に参加する姿も多く見られ、関心の高さを伺うことができました。全7回、122名の参加がありました。

VII バックヤードツアー

1 バックヤードツアー実施要項

(1) 主旨・目的

博物館が持つ、調査・研究・保存の機能を担う収蔵庫や各部屋を学芸員が分かりやすく解説し、普段見る事の出来ない博物館の機能の見学を通して、文化財への県民の意識向上を図る事を目的とする。

(2) 内容

普段見る事の出来ない博物館内の各部屋を見学する。

(3) 実施日と場所

実施日：毎月1回、第4土曜日 午後2時～3時までの1時間
場 所：博物館バックヤード（収蔵庫・トラックヤード・工作室他）

(4) 受講方法・定員

受講方法：当日9時から、総合案内にて受付。
定 員：12名（先着順）

(5) 日程

日 程	講師名	内 容	定 員
4/25 6/11 8/22 11/28 1/30 3/27	上原成美	普段見ることの出来ない博物館内の各部屋を見学する	12名
5/23 7/25 9/26 12/26 2/27	濱口寿夫		

2 実施状況

博物館班の学芸員2名が月替わりで担当し、文化の杜スタッフが安全管理面で加わり2名体制で実施しました。学芸員研究室～研究資料室（書庫）～自然史実験室～写真撮影室～冷凍室～トラックヤード（搬入口）～収蔵庫～工作室の順で案内することを基本コースとして行いました。参加者は、博物館内部を見学するということもあり、学芸員の説明の後に質問をするなど、興味深げに見学している様子でした。見学を通して、博物館の展示室以外の機能や役割についても知る機会になったようでした。

受付方法については、昨年度までは事前申込制でしたが、今年度から当日先着順に変更しました。普段は目にする事のない学芸員の仕事や博物館の役割を知る上で有意義な内容であり、新たなファンを獲得するためにも有効であるため、より一般客が参加しやすい「当日先着順」という方法に変更しました。結果、参加者層もボランティアスタッフや友の会会員といった固定層から親子連れをはじめとする一般の参加者も増えたため、当初の目的を達成できたように思われます。全11回、135名の参加がありました。

展示会解説会の様子



貢納布について



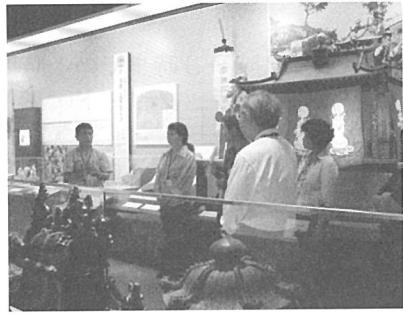
岩石について



港川人について



移民について

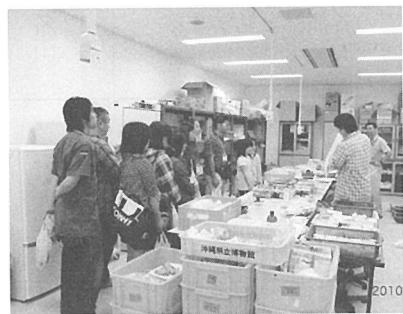


厨房器について



復元模型の前で

バックヤードツアーの様子



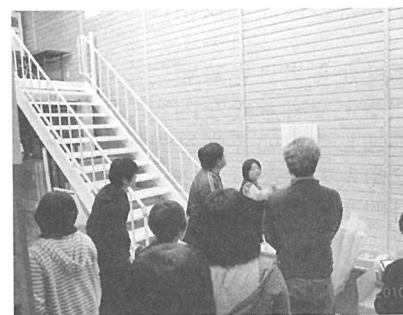
整理作業中の学芸員より説明を聞く



冷凍庫の中へ



自然史収蔵庫



収蔵庫の壁の特徴とは



資料運搬用の大型エレベーターに乗る



大きなトラックヤードの役割とは

VIII 夏休み子ども相談週間

1 夏休み子ども相談週間実施要項

1 趣旨、目的

学芸員が、夏季休暇中の児童生徒を対象に、沖縄の自然、歴史、文化に関する自由研究や調査研究等について、可能な限り博物館の情報を提供し、郷土への興味・関心を高める。

2 内容

総合・部門展示、ふれあい体験室、情報センターなどの博物館の機能を紹介し、博物館を通した、沖縄の自然、歴史、文化についてレファレンスサービスを行う。

3 実施方法

実施日 平成21年8月4日(火)から8月6日(木)まで

対象 小学生・中学生

時間 13:00～17:00(受付12:00～)

定員 各分野10名程度(当日先着順)

参加料 無料

場所 情報センター内・実習室

*生物(植物・昆虫など)の持ち込みの場合は、実習室にて行う。

4 相談方法

- ①相談希望者が、博物館に来館して相談を受ける。
- ②一般的に応対のできない相談は、担当分野の学芸員が対応する。
- ③各分野の担当学芸員日程表を表示する。
- ④相談内容によっては、博物館ボランティアの活動の場とする。
- ⑤当日回答できない内容は調査後に連絡をする
- ⑥分野が異なる質問は、記録を取り、後日担当者が返答する。

8月4日(火)		8月5日(水)		8月6日(木)	
石器	羽方	鳥類・化石	藤田	石器	羽方
骨・化石	山崎	美・工	平川	骨・化石	山崎
生物	田中	民俗	岸本(敬)	生物	濱口
美・工	与那嶺	歴史	崎原	地学	仲里
鳥類・化石	藤田	地学	仲里	民俗	岸本(敬)
歴史	岸本(弘)				

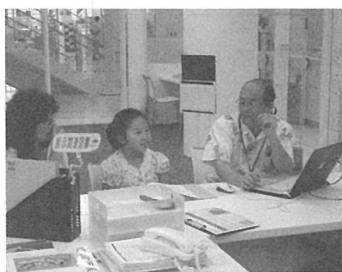
2 実施状況

学芸員が児童生徒を対象に、沖縄の自然、歴史、文化に関する自由研究や調査研究等について、展示資料や図書を活用しながら、調べ方やまとめ方のアドバイスを行いました。

夏休み期間中という事もあり、動物や植物、化石等の自然史分野をテーマとする子どもたちが多い一方、考古・歴史・美術工芸・民俗に関する質問は少ない傾向にありました。兄弟で参加する姿が多く見られ、1年生から6年生まで合計45名の参加がありました。



相談の様子(人類)



相談の様子(生物)



情報センターでの相談の様子

IX ふれあい体験室

1 ふれあい体験室の概要

(1) ふれあい体験室の位置づけと目的

「ふれあい体験室」は、ハンズ・オン展示の資料を通して来館者同士、来館者とスタッフ、また、ここで展示される「おきなわ」との「ふれあい空間」創りをめざしている部屋です。この部屋は、常設展示として、総合展示、部門展示と補完しあい、また、実習室や屋外体験プログラムと連携し、効果的に運用できる機能を併せもっています。

さらに、この部屋は館内における教育普及活動の拠点施設となり、来館者に発見や感動の喜びを提供する場として、教育のさらなる向上に寄与する展示・プログラムの開発を行う場ともなります。

(2) 体験キットの位置づけ

展示物（体験キット）は、沖縄の「自然のしくみ」と「先人の知恵」を触れる・見る・聞くなどの五感を通して体感できる操作や組立てるなどの遊びを通じて学ぶことで、展示資料を深く学ぶことが出来ます。

体験キットは、教育普及資料として位置づけられるもので、沖縄の自然、考古、歴史、美術工芸及び民俗などの内容に基づき、すべてがふれることのできるものとします。

体験キットは、来館者が資料に触れふれあうことで目的が達成するものとして準備されています。来館者が自主的に触れることが出来る様にするために、職員や親子、一般の方々といった様々な人が参加する雰囲気作りを心がけていきます。ふれあい体験室では、能動的に“沖縄の「自然のしくみ」や「先祖の知恵」”を発見・再発見することができる展示とします。

(3) ふれあい体験室・体験キットの対象者

基本的に小学校中学年（3年生以上）を対象としています。しかし、テーマに沿った展示手法の工夫により、幼児から就学年齢の子ども、または大人にとっても楽しめる空間創りを目指しています。

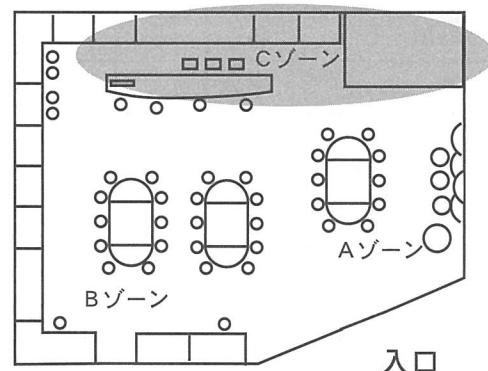
(4) 体験キットの分類

ふれあい体験室は、自由に体験キットを利用する事を基本としています。しかし、体験キットによっては安全性や耐久性の面で使用時の注意や制限がかかるものもあります。ふれあい体験教室では、体験キットを分類し、配置されているゾーンによって、使用制限のランクを分けています。

キットの分類

キットグループ	キットの種類	来館者への使用制限
グループA	<ul style="list-style-type: none">直接的に（一見して）内容が分かる。 (見る、触る 等)安全性、耐久性が高い。	<ul style="list-style-type: none">来館者が自由に出し入れ出来る。 *来館者への手助けは少ない。
グループB	<ul style="list-style-type: none">簡単な操作で内容が分かる。 (聞く、比べる、開ける、押す 等)安全性がある程度確保されている。耐久性がある。	<ul style="list-style-type: none">来館者は自由に出し入れできる。来館者によっては、手助けが必要な場合もある。
グループC	<ul style="list-style-type: none">作業を通して仕組みや内容が分かる。 (組み立てる、作る、分類する 等)細かい部品や安全面での指導、管理を要する。破損、磨耗しやすい等、耐久性が低い。	<ul style="list-style-type: none">スタッフを介してキットを受け渡し、介助を得ながら、もしくは目の届く範囲で利用する。 *来館者への手助けが必要ない場合もある。

見取り図（ゾーニング図）



2 体験キットの種類

大テーマ	中テーマ	小テーマ	番号	タイトル	
自然のしくみ・先人の知恵	生物界	きみはだあれ?	1	サインを見逃すな!	自然史
			2	小さな世界 ~小さいのちの大きな仕事~	
	地史	自然のた	3	耳をすませば	
			4	この骨だれの?	
			5	サンゴと生きる	
	地史	地下にねむる	6	いろいろなタネ	
			7	いろいろな木と草	
			8	いろいろな石と砂	
			9	見える星座・見えない星座	
	人々の暮らし	食の知恵	10	化石 ~生きていた証~	考古
			11	港川人	
			12	土層と出土品からわかること	
		食の習わし	13	石で築く	
			14	ヌチグスイ	
		生活のくふう	15	イノー ~海の食料庫~	
			16	御三味 (ウサンミ)	
		沖縄のコトバ	17	いろいろな道具	民俗
			18	島のコトバ	
		シマの心	19	いろいろな玩具	
			20	いろいろな楽器	
		色のひみつ・形のふしぎ	21	衣からわかること	美術工芸
			22	焼物 ~かたちのわけ~	
			23	漆 ~飾るたのしみ~	
	国のかたち	国のかたち	24	印かんってなあに?	歴史
			25	島のかたち	
			26	記録のくふう	
			27	国々のおつきあい	



No5 サンゴと生きる



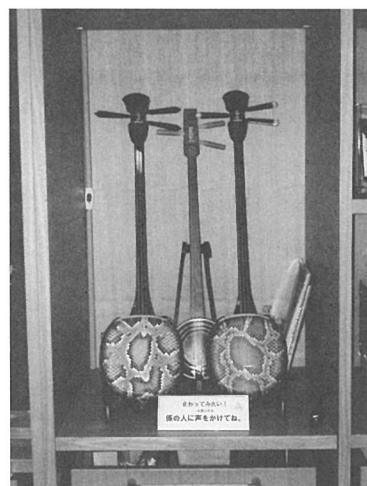
No7 いろいろな木と草



No21 衣からわかること



No14 ヌチグスイ



No20 いろいろな楽器



No11 港川人

3 スタッフの配置状況

常駐職員（指定管理者）1名と、1日3交替のボランティアスタッフ1～2名で運営しています。昨年度からボランティアスタッフは、曜日別の班で活動を行っており、班内で連絡調整をすることにより、ほぼ安定した運営を維持しています。

また、ボランティアスタッフは、職員では対応しきれない豊富な知識や経験を活かし、熱心に活動する姿が見られました。ふれあい体験室の運営には、ボランティアスタッフのサポートが大きな力となっています。

4 利用者状況

今年度のふれあい体験室の利用者は、39,698人を数え、多くの方の利用がありました。一方、開設より2年を迎え、利用者のニーズや様々な問題点なども見えてきた年でもありました。

利用者のニーズという面では、リピーター対策が挙げられます。何度も来ても楽しめるような環境づくりと、利用者の多くを占める未就学児童にも適応できるよう、新しいキットの開発も課題となっています。

一方、キットの劣化・破損・欠損に対する修繕や補充が追いつかないことが問題点として挙げられます。補修や修繕などは、その程度や内容によって、県の担当や指定管理者（文化の杜共同企業体）で協議調整しながら行っています。しかし、軽微なもの以外の修繕については、なかなか進まない状況にあります。

今年度は初の試みとして、展示会関連キットを配置しました。秋の特別展「琉球使節江戸へ行く！」の関連キットとして、（財）海洋博覧会記念公園管理財団より路次楽の楽器を借用し、好評を得ました。

ゴールデンウィークや夏休み期間中には、企画展との相乗効果もあり、多くの利用者がふれあい体験室に集中したため、入場制限（定員30名）を行いました。

また、多くの養護学校等の利用や、ロンドン大学の研究生による調査なども行われました。

3月には「春休み 博物館 体験教室」と題して、“お手玉”と“マーニでつくるバッタ”的作教室を開催しました。ふれあい体験室に展示されている自然素材を使ったおもちゃを作ろうという講座内容で、博物館屋外展示の民家で行いました。ボランティアの方々のサポートもあり、参加された40名の方々も大変楽しめる講座となりました。ふれあい体験室内の活動だけにこだわらず、このような企画は“飽きない環境づくり”という点でも、企画開発や運営に役立てる事ができる内容である上、今後は定番化を目指していきたいと考えています。

ふれあい体験室は、当初の目的以上に様々な活用方法があり、多くの可能性を持った場所だといえるでしょう。

5 その他

タイトル：春休み 博物館体験教室

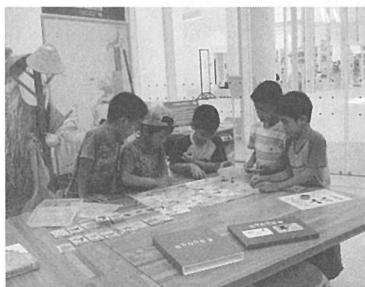
内容：お手玉とバッタづくり

日 時：2010年3月27日（土）13:00～16:00

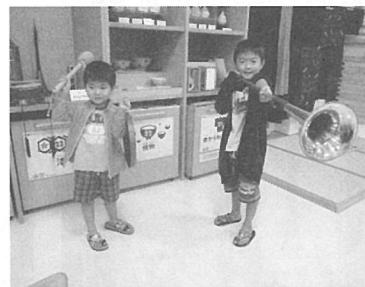
場 所：博物館屋外展示 民家

参 加 費：100円（材料費）

参加人数：合計 40名



スゴロクで遊ぶ子ども達



路次楽の楽器を体験



お手玉つくり

X ボランティア養成事業

1 沖縄県立博物館・美術館 博物館ボランティア活動実施要項

平成 20 年 2 月 13 日

館長決裁

(趣旨)

第1条 沖縄県立博物館・美術館は、博物館が行う教育普及活動または研究資料の収集・整理・充実を図るため、その活動の補助員としてボランティア（以下「博物館ボランティア」という。）を置くことができる。

(博物館ボランティアの活動)

第2条 博物館ボランティアは、次の各号に掲げる活動を行う。

- (1) 展示解説、文化講座、体験学習教室、ふれあい体験室、相談室における対応等の教育普及活動全般にわたる補助的活動。
- (2) 調査研究等を推進するために必要な資料の収集に関し、専門知識を生かした補助的な活動。

(登録等)

第3条 博物館ボランティアの登録は、博物館ボランティア講座の修了者、沖縄博物館友の会の会員、博物館ボランティア活動を希望する者で、登録票（第1号様式）により申請のあった者の中から、沖縄県立博物館・美術館館長（以下「館長」という。）が審査のうえ適当と認められる者について、登録簿（第2様式）へ登載を行う。

- 2 館長は登録を受けた博物館ボランティアに対し、博物館ボランティア登録証（第3号様式）を交付する。
- 3 登録期間は、登録した日の属する年度の末日までとする。但し、当該博物館ボランティアが希望する場合は審査のうえ登録を更新することができる。
- 4 館長は博物館ボランティア登録者に博物館の名誉を傷つける等の行為があった場合は、登録を取消すことができる。

(研修)

第4条 館長は博物館ボランティアの活動が効果的にすすめられるよう、隨時研修会を開催する。

(ボランティア室の設置)

第5条 館長は博物館ボランティア活動の連絡及び相互交流の場として、ボランティア室を設置する。

(庶務等)

第6条 博物館ボランティアの登録は、博物館教育普及担当において処理する。

- 2 博物館ボランティア活動の連絡調整は、博物館教育普及担当と沖縄博物館友の会において処理する。

(雑則)

第7条 この要項に定めるもののほか博物館ボランティア活動の実施に必要な事項は、館長が別に定める。
付則

この要項は、平成 5 年 7 月 1 日から実施する。

この要項は、平成 12 年 8 月 1 日から実施する。

この要項は、平成 20 年 2 月 13 日から実施する。

2 博物館ボランティア活動養成事業実施要項

(1) 目的

沖縄県立博物館は、県民の自己啓発や学習の場を提供するため、博物館支援活動を計画する。
この活動は、多様化する来館者のニーズに対応し、よりきめ細かで適切なサービスへも寄与する。

(2) 主催 沖縄県立博物館・美術館

(3) 内容

・沖縄県立博物館・美術館博物館ボランティア活動実施要項に基づき実施する。
・常設展示や企画・特別展示の案内ならびに教育普及部門の支援ができるよう養成講座を実施する。

(4) 場所 沖縄県立博物館・美術館講堂及び博物館講座室

(5) 対象

・「沖縄博物館友の会」のボランティア部会とともに活動できる方。
・沖縄県立博物館・美術館において養成講座を受講後、ボランティアとして活動に参加する意欲のある一般成人。
・月曜日をのぞく、火曜日から日曜までのいずれかの曜日で二週間に半日以上活動できる方。

(6) 申込期間及び方法

・平成21年4月9日～4月25日
・電話連絡による申込（定員を超える場合は、先着順とする。）

(7) ボランティア講座・登録日程

・募集期間	平成21年4月9日～25日（金）まで
・説明会	平成21年5月
・養成講座	平成21年5月～6月
・ボランティア任命式	平成21年8月
・正式登録	平成21年8月
・専門講座	平成21年9月～10月

(8) 講座内容

回数	日程	内容	時間	担当	場所
1	5／15	博物館活動について IPMについて	18：00～ 19：00～	濱口班長 仲里	博物館講座室 ク
2	5／22	博物館ボランティアについて ふれあい体験室について	18：00～ 19：00～	上原 宮平	ク 博物館講座室及びふれ あい体験室
3	5／29	歴史 民俗	18：00～ 19：00～	崎原・岸本（弘人） 岸本（敬）	博物館講座室 ク
4	6／5	考古 美術工芸	18：00～ 19：00～	羽方 平川	ク ク
5	6／12	自然史 人類	18：00～ 19：00～	田中・仲里 山崎・藤田	ク ク
6		ボランティア実習	開館時間	上原・宮平	ふれあい体験・展示室他

3 平成 21 年度 博物館ボランティア専門講座実施計画

1 目的

本講座は、博物館の登録ボランティアが、総合展示室、部門展示室の資料を出発点にしながら、ふれあい体験室の体験キットや『博物館学習ノート』の意図を理解し、ボランティア活動を円滑に行えるようにする。

2 対象 沖縄県立博物館・美術館 博物館ボランティア

3 期日・時間

平成 21 年 9 月 25 日（金）～10 月 16 日（金）
18:00～20:00（2 時間）

4 場所 沖縄県立博物館・美術館講堂及び博物館講座室

5 内容

- ①：講座は、博物館展示室、ふれあい体験室で実施する。
- ②：学芸員は展示室で 30 分、ふれあい体験室で 30 分の解説を行い、受講生は 30 分単位で班別に移動する。

◎展示室：『博物館学習ノート』の解説を行う。

◎ふれあい体験室：体験キットの解説を行う。

回数	期 日	分 野・内 容			講師
		ふれあい体験	展示室	ふれあい体験	展示室
	時 間	18：00～18：30	18：30～19：00	19：00～19：30	19：30～20：00
1	9 月 25 日	生物（田中）		考古（羽方）	
2	10 月 2 日	美工（平川）	美工（與那嶺）	人類（藤田）	人類（山崎）
3	10 月 9 日	地学（仲里）		歴史（崎原）	歴史（岸本弘人）
4	10 月 6 日	民俗（岸本敬）			

※『博物館学習ノート』は、事前学習すると当日の講座が理解しやすいと思います。

※台風時の講座については、バスの運行があれば実施します。

※飲食物の持ち込みは、ご遠慮ください。（ガムを含む）

※今回の専門講座の補講は、設定できません。

4 博物館ボランティアのてびき

I 目的

沖縄県立博物館は、県民の自己啓発や学習の場の提供、また、博物館支援活動を目的として、「ボランティア」を導入します。この活動は、多様化する来館者のニーズに対して、よりきめ細かく適切なサービスへの寄与を目的としています。

II 活動の方針

- 1 生涯学習の視点から、ボランティアがいつでも参加できる環境作りをすすめます。
- 2 ボランティアの自己啓発を促し、活動を通して無理なく楽しく学べる場にします。
- 3 来館者を発見へと向わせるような発問の研究を行います。
- 4 ボランティアの自立的な活動を導き、意欲的に参加できる方向をめざします。

III ボランティアの活動内容

1 活動内容

展示ガイドと体験サポート（開館当初は、活動内容を限定します。）

2 ボランティアの担当する職務

①展示ガイド

「常設展示室」「企画・特別展示室」において、展示資料の解説、質問対応などを行います。

②教育普及事業の支援

「ふれあい体験室」「民家」「実習室」を中心とした、体験学習サポートなどを行います。

③企画調整

ボランティアへの連絡、新聞資料整理

3 ボランティア活動の場所、人員の配置予定

	活動の内容	場所	指定管理者担当	ボランティア
(1)	常設展示対応	ふれあい体験室	1人	2～3人
(2)	学校団体対応	民家・実習室	1人	各室2～4人
		総合・部門展示室		
(3)	体験学習教室	民家・実習室	1人+外部講師	5～8人
(4)	特別展	特別・企画展示室	なし	2～3人

4 運営体制

ア 博物館に総合、人文系、自然史系、教育普及の正副担当者をおきます。

イ ボランティアの各分野に、正副の世話係をおきます。

ウ 博物館担当者、曜日・勉強会の世話係・友の会ボランティア部の定期的な会議を月一回以上開催します。

エ 友の会は、ボランティア活動を支援します。（連絡・調整等）

5 経費

ア 博物館において、ボランティア活動の保険に入ります。

イ 博物館は、ボランティア活動に必要な名札を購入し、貸与します。

ウ ユニフォーム等については、指定管理者と調整します。

6 活動日、時間、回数

ア 活動は原則的に博物館の開館日とします。

イ 活動時間は、9時から閉館時間までとします。

ウ 活動回数は、2週間に半日以上とします。

7 遵守事項

- ア 博物館の諸規則には従ってください。
- イ 博物館の展示方針に従って説明等を行ってください。
- ウ 博物館内での政治活動、宗教活動は行わないでください。
- エ 博物館の名誉を傷つける等の行為は行わないでください。

8 活動中の事故

- ア ボランティア活動中の障害事故、偶然な事故によりボランティアまたは他人が怪我した場合は、ボランティア保険の対象となります。
- イ ボランティアの故意による事故、ボランティア活動外の事故については、原則としてボランティア自身がその責を負うことになります。

IV ボランティア活動の組織

1 役割分担

- ア 総括 教育普及担当
- イ ボランティア担当

		主担当	副担当
①	教育普及班	上原	宮平
②	自然科学班	山崎	仲里
③	人文科学班	羽方	崎原

2 ボランティア担当の役割

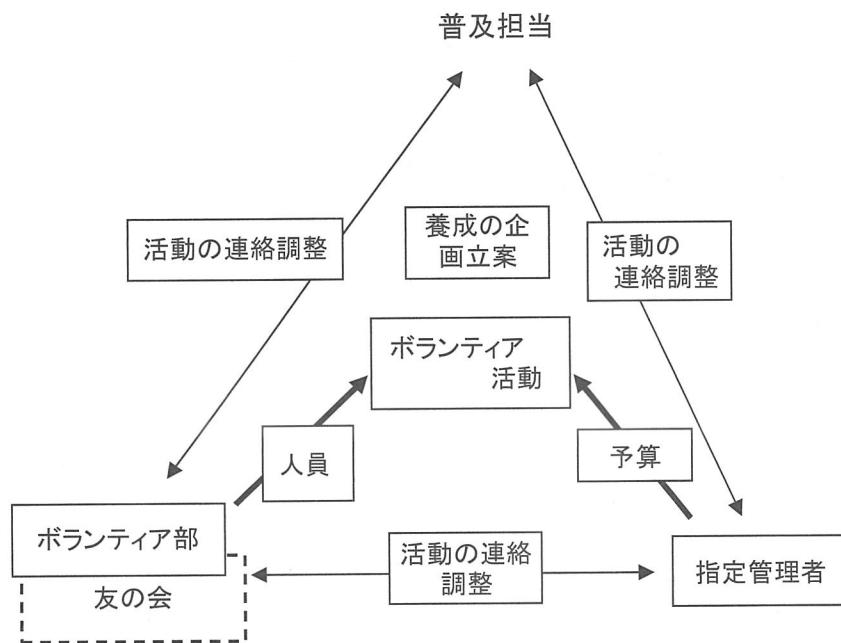
- ア ボランティア応募にかかるそれぞれの班の受付、班員の推薦文。
(決定後の通知用紙は、教育普及担当が準備。)
- イ それぞれの担当の講座の際の、会場、放送機器取扱、会場整理、出席点検等。
外部講師等の場合については、教育普及が担当。
- ウ ボランティア養成後の活動に関する企画、調整の補助。

3 ボランティアの曜日・勉強会別世話係

- ア ボランティアの活動を活性化するために、各曜日・勉強会に正副の世話係を置きます。
- イ 正の世話係は曜日・勉強会を代表し各学芸員と連携を取り、副の世話係は、正の補佐します。
- ウ 世話係は、学習会の企画をし、ボランティア室においてすべてのボランティアに告知する。

	正	副	曜 日 世 話 係		
				正	副
人 類			火曜日	高嶺	具志堅
自 然 史	波 平	吉 見	水曜日	吉見(9月)	
考 古			木曜日	大嵩・崎山(9月)	
美術工芸	平 田	渡 慶 次	金曜日	新田	生方
民 俗	宮里(定)		土曜日	神村	赤嶺
歴 史	宮里(佐)	當 間	日曜日	西田	辻本

V ボランティア組織図



VI 登録

ボランティア登録は下記によりおこないます。

- (1) 養成講座 応募者については、面談のうえ、資格要件及び適性を確認し、ボランティア名簿に仮登録します。
- (2) 登録 養成講座受講者のうち、当館が定めるボランティア養成講座を終了した者で、館長の認定した者を正式登録者とします。
- (3) 登録の更新 登録の活動期間は1年とします。但し、継続を希望し所定の更新研修を終了した者は再登録とします。
- (4) 登録の抹消 登録期間中であっても博物館ボランティアの資格要件に欠格を生じた場合、及び博物館ボランティアとしてふさわしくない行動があった場合は、登録を抹消することができます。
- (5) 登録カード 登録者には登録カードを交付します。活動時は携帯してください。

VII ボランティア活動の評価

ボランティア活動の評価は、活動の目標に照らして、博物館側及びボランティアがその機能をどの程度に果たしているかを客観的基準により判断し、それにもとづいてボランティア活動を改善計画の作成に資することを目的とします。(評価様式は別に作成する)

- (1) 国際的交流に対応し、県民の自己啓発や学習の場を提供できたか。
- (2) 人にやさしく、親しまれる施設を目指し、県民参画の橋渡しとして活動できたか。
- (3) 多様化するニーズに対応し、きめ細かく適切なサービスに寄与できたか。
- (4) 自主的に活動し、生涯学習の実践の場としての役割を担えたか。

5 ボランティア活動の細則

1 活動内容

各活動区分における活動の主な内容は以下の通りです。

(1) 展示解説ボランティア

ア 常設展示解説補助

　　総合・各部門展示解説補助

イ 特別・企画展解説補助

　　特別・企画展示室における解説補助

(2) 教育普及ボランティア

ア 体験学習補助

　　体験教室・講座・観察会・移動展等における指導補助

イ ふれあい体験室

　　ふれあい体験室における活動補助

ウ 各種行事の際の指導補助

エ 屋外展示室の活動補助

2 研修プログラム

(1) 養成講座・・・1日2時間で10日間 合計20時間

例：館長講話、副館長講話、沖縄の歴史・文化の講座、沖縄の自然等についての講座

(2) 専門講座・・・1日2時間で4日間（1日のみ1時間） 合計7時間

例：野鳥の観察、化石のレプリカづくり、他施設の見学等

(3) 更新研修・・・1日2時間で2日間合計4時間

(4) 臨時研修・・・必要に応じて随時実習

例：企画展の解説等

3 表彰及び昇格規程

(1) ボランティア精神が旺盛で、その活動が顕著な者を表彰します。（評価の方法は今後検討）

(2) 最初に正式登録された時点でボランティア初級に認定し、その後2度登録を更新したものを中級とします。

4 ボランティア活動時の服装等について

(1) ボランティアとして正式に登録された者には、ボランティア身分証明書としてボランティア登録証を交付します。

(2) ボランティア活動を行う場合は、原則として県職員の身なりに準ずるものとし、ボランティア登録証を身につけるものとします。

5 ボランティア室の使用について

(1) ボランティア室については、教育普及担当の許可を得て使用できます。

(2) ボランティア室は、原則としてボランティア活動のために以下のような活動で使用します。

ア 日程、連絡等のボランティア活動の掲示

イ ボランティア活動のための器具類の保管及び使用

ウ 来館者を発見へと向わせるような発問研究

エ ボランティアのための休憩

(3) ボランティア室には勝手に私物をもちこまないでください。

（個人の持ち物は、自己の責任で管理してください。）

(4) ボランティア室の使用時間は、原則として館の開館日の開館時間から閉館時間までとします。

(5) ボランティア室は、原則として使用したものが清掃するものとします。

6 博物館継続ボランティア 登録証交付式

1 趣旨

- ・博物館ボランティアの継続にあたり、運営で更改された事項を確認する。
- ・職員の紹介をする。
- ・博物館登録証を交付し、今後の活動の予定等を連絡し、活動を促す。

2 日時

平成 21 年 5 月 13 日（水）博物館講座室 18 時 00 分から

3 場所

博物館講座室

班長 副館長 館長

司会

4 式順

- | | | |
|--------------------|------------------|----|
| ① 館長あいさつ | 館 長 牧野浩隆 | |
| ② 登録証 交付 | 代表者 | |
| ③ 職員あいさつ | 副館長 千木良芳範
副館長 | |
| ④ 本年度のボランティア活動について | | 上原 |
| ⑤ 友の会の活動紹介 | | 松川 |
| ⑥ 質疑応答 | | 上原 |
| ⑦ 事務連絡 | | 上原 |

継続ボランティア 登録証 交付 館長挨拶

ボランティアの皆さん、今年度も継続ボランティアとして活動されるということで感謝申し上げます。昨年度ボランティアの皆さんには、展示ガイドや誘導、体験サポートと学校団体を中心とした支援活動にご援助いただき大変感謝しております。皆さんのおかげをもちまして、特に博物館を利用した学校へのアンケートでは、ボランティアの対応が大変すばらしいとの声が多く寄せられております。

今年度は、新館が開館したことが周知され外部からの期待も、さらに大きくなるものと考えられます。

これまで新館に向けて準備されてきた展示やスタッフの対応の真価が問われる年度になるともいえると思います。

さて、博物館ボランティアのねらいは、大きく三つあります。ひとつは、自己研鑽です。生涯学習の一環で、大いに博物館を通して学習してください。二つ目は、社会への還元です。学習したことを支援活動としてその力を発揮してください。その活動の中からまた、疑問点が見えてくると思います。そこからまた本来の学びの深化へとつながっていきます。三つ目は、仲間作りです。博物館を通して人的なネットワークを構築し、楽しく学習してください。沖縄を学ぶために、本館以上に実物資料をはじめとする資料が準備できるところはありません。たくさん実践し、博物館を通して学ぶ県民の橋渡しとして大いに活動してください。

また、博物館のボランティア活動の中で、友の会との位置づけがどのようにになっているのかという疑問を、多くの皆様からお聞きしております。新館での活動に向けて、友の会とボランティアの皆さんのが、両組織を一元化するということで、話し合いが進められてきたことは、館としても承知しております。早急に一元化における運営の在り方を関係機関と連携を取りながら検討していきます。

生涯学習の場として、博物館にたくさん足を運び多くの情報を得て、多くの友人をつくる機会をもつことが、友の会の原点であると考えます。ボランティア活動に参加されながら、友の会の勉強会や事業に賛同できる方は、できるだけ友の会に入会していただき、活動されていくことをお願いいたします。

これからますます博物館が発展していきますよう、皆様のお力添えをお願いしたいと考えています。

来館者の皆様に、まさに博物館と県民をつなぐ窓口として、良きアドバイザーとしての活躍を期待しております。

7 博物館ボランティア 登録証交付式

1 趣旨

- ・博物館ボランティアの登録にあたり、運営面の方針を確認する。
- ・職員の紹介をする。
- ・博物館登録証を交付し、今後の活動の予定等を連絡し、活動を促す。

2 日時

平成 21 年 9 月 10 日（金） 18 時 00 分から

3 場所

沖縄県立博物館・美術館 講堂

4 式順

- ① 館長あいさつ 館長 牧野浩隆
- ② 登録証 交付 代表者
- ③ 職員の紹介 副館長 千木良芳範

5 全体会

- | | |
|--------------------|----|
| ④ 本年度のボランティア活動について | 上原 |
| ⑤ 友の会の活動紹介 | 松川 |
| ⑥ 質疑応答 | 上原 |
| ⑦ 事務連絡 | 上原 |

新規ボランティア 登録証 交付 館長挨拶

本日ボランティア登録証を交付されたボランティアの皆さんおめでとうございます。5月19日にスタートした博物館ボランティア養成講座は10回の講座と実習を行ってまいりました。皆さんからの申請を受けて、職員で審議したところ、今回登録が認められたボランティアは23名になります。

皆さんの先輩にあたるボランティアのみなさんは、展示ガイドや誘導、体験サポートと学校団体を中心とした支援活動に大いに活躍しております。学校の子供たちから寄せられるお礼状の中にも、多くの子供たちからスタッフへの感謝の言葉が述べられております。子供たちに一番接している方々が、まさにボランティアの皆さんであり、子供たちからの博物館への感謝は、ボランティアの皆さんへの感謝と言いかえいいと考えております。

さて、博物館ボランティアの皆さんにお願いしたいことが、大きく三つあります。ひとつは、活動の実践です。博物館のボランティアは、支援活動あってのボランティアです。活動の中から見えてくる疑問点に本当の『宝』があります。その疑問を自己学習や勉強会を活用しながら糸口を見出して下さい。そこが二つめのお願い「自己研鑽」です。さらに、三つ目は、仲間作りです。博物館を通して人的なネットワークを構築し、楽しく学習してください。沖縄を学ぶために、本館以上に実物資料をはじめとする資料が準備できるところはありません。たくさん実践し、博物館を通して学ぶ県民の橋渡しとして大いに活動してください。

博物館はやがて、開館三周年を迎えようとしております。新館が開館したことが周知され外部からの期待も、さらに大きくなるものと考えられます。これからますます博物館の展示やスタッフの対応の真価が問われる年度になるともいえると思います。

この会場におられる先輩ボランティアの皆さんには、どうぞ三期の皆さんを、博物館のボランティア活動に溶け込むことができるよう、リードをお願いします。博物館の学芸員も、ボランティア専門講座や学習会の補助をしていきます。また、沖縄博物館友の会も、皆さんの活動への連絡等で大いにサポートしていきますので、御安心ください。

これからますます博物館が発展していきますよう、皆様のお力添えをお願いします。県民と博物館をつなぐ窓口として、しばらくの間は、特に支援を必要とする学校団体と「ふれあい体験室」での、良きアドバイザーとしての活躍を期待しております。

博物館アラシテ

発行日：2009年6月25日

発行：沖縄博物館友の会 電話：098-868-2722

6/29~7/10まで館内消費の為休館です

7月のボランティア運営会 7/28 (土) 15:00~17:00 ボランティア室にて

たいへん好評なふれあい体験室ですが、来館者の多い土日に人手が足りなくなります

皆さまのご協力をお願いします

7月の行事（博物館）

【講演会・講座など】
7/18 (土) 14:00~16:00 学芸員講座
「青柳先生のはなし」講師・與那嶺一子（当館学芸員）
3F講堂／当日先着210名

7/23 (木) 14:00~16:00 展示説明会（考古）
講師・羽方誠（当館学芸員）／常設展示室／当日先着15名
7/25 (土) 14:00~15:00 ハックヤードツアー
講師・博物館班長／当日先着12名
7/26 (日) 体験学習教室「博物標本をくわう」
講師・日越国昭人（恩納村博物館館長）
2回連続講座／9:00~16:00 楠添太公園
事前申込 7/17 締切／応募者多数の場合抽選

【*7月の勉強会】
民俗勉強会：7/11 (土) 13:00~15:00
歴史勉強会：7/11 (土) 13:00~15:00
3F研修室／ボランティアによる解説会
美工勉強会：7/26 (土) 10:00~12:00
3F研修室／「美の觀察家・漆器」
講師・與那嶺一子、平川信幸
自然勉強会：7/8 月は勉強会の予定なし

【ご注意】
最近募集用紙に記入のないまま勉強会に参加する方が増えています。資料の準備などがありますので、必ずお申込みください。お申込みの方は必ずボランティア室の募集用紙に氏名を記入するようお願いします。（中村）

『新年に向けて 新たな目標を』

●ボランティアの現場から 松川潤一郎さん



梅雨明け後も不安定な天気が続いている夏に突入するわけですが暑さに負けず、今年もボランティア活動を頑張りましょう。私は今年度もボランティア部の部長に再任されました。今後2年間、皆さまと共にボランティア活動ができる喜びを感じております。皆さまの心からなるご支援、ご協力をお願い致します。今年のボランティア登録者は103人。現在、受講中のボランティア養成講座修了者24人もボランティア登録をして頂けるものと期待しております。

ところで、ボランティア運営委員会は今後の活動計画として「解説ガイドワーク（仮称）を作成することに致しました。このガイドワークは、ボランティアの誰もが統一して解説ガイドワークが出来るようにマニュアルを目指しております。常設展示室の全部門について小学生向け、中学生向け、一般向けと3巻に分けて発行する計画です。その作成に当たりましては2~3年かかると思いますが、ボランティア活動の活性化、さらなるレベルアップには必要なツールであり、是非、実現したいものです。皆さまのご協力をお願い致します。

* * *ボランティアの皆様、いつもありがとうございます *

博物館アラシテ

発行日：2009年7月25日 発行：沖縄博物館友の会 電話：098-868-2722

* 夏休みに入り「ふれあい体験室」への来館者がたいへん多くなっています*

みなさまのお手伝いをお願いします

* 8月のボランティア連絡会*

8/18 (火) 15:00~17:00 博物館友の会連絡会、曜日世話係の皆様参加お願いします

館からのお知らせ

日々暑い日が続きますが、ボランティアの皆さんはないかがお過ごしでしょうか。7月後半から夏休みに入り、来館者も多くなると思われますので、ふれあい体験室等のサポートもよろしくお願いします。8月6日には、ふれあい体験室の「お手玉づくり」をします。申込みは、友の会まで！
☆8月のボランティア連絡会*

8/22 (土) 14:00~16:30 3F講堂 当日先着210名
文化講座「南極の人と自然」
講師・渡辺興西氏（国立極地研究所名誉教授）
8/16 (木) 14:00~15:00 展示説明会（美術工芸）
講師・與那嶺一子（当館学芸員）／当日先着15名
8/27 (木) 14:00~15:00 展示説明会（歴史）
講師・岸本洋人（当館学芸員）／当日先着15名
※展示説明会はふれあい体験室／バッカヤードアート講師・上原成美（当館学芸員）／当日先着12名
※展示説明会は8月を予定しています。（宮平）

8月6日 (木) 9:30~12:00
博物館友の会連絡会にて 4~5名
☆お手玉づくり☆

昨年博物館で収穫したジュズママであります♪(宮平)
文化の杜です〈111〉
ここには、ふれあい体験室の西部です。日原から、県内外多くの来館者がいらっしゃいます。ふれあい体験室でボランティアの皆様と来館者の方々が交流できることが、とても重要な役割を担っています。そして、毎年夏休みが始まりました。ふれあい体験室が毎日お祭り騒ぎです。博物館ボランティアの皆さん、毎年お祭り混み合って来ますと、ふれあいスタッフだけではなく、他のシーソーなどでボランティアの皆様のお手伝いが必要になります。このシーソーなどでボランティアの皆様のお手伝いを楽しんでください。

☆8月の勉強会*

民俗勉強会：8/1 (土) 10:00~12:00
3F研修室／博物館学習ノート勉強会
※学習ノート持参

歴史勉強会：8/8 (土) 10:00~12:00
3F研修室／ボランティアによる発表

美工勉強会：8/23 (日) 10:00~12:00
3F研修室／「資料紹介（漆器）」
自然勉強会：8/月は勉強会の予定なし
※勉強会には積極的に参加してください。
参加希望の方は必ずボランティア室の専用紙に氏名を記入するようお願いします。

* * *ボランティアの皆様、いつもありがとうございます *

博物館ボランティア 高嶺英恒さん

自然史部門に興味がありましたので2008年の博物館ボランティアに参加しました。8回のボランティア講座を受けた後、ふれあい体験室、民具体験、説導等のボランティア活動を始めました。不安でしたが、博物館友の会、文化の杜の職員や1期生の方々からいろいろアドバイスを受けたおかげで大きなミスもなく活動しています。民具体験では子供たちが真剣に話を聞いて、体験学習に取り組む態度にやりがいを感じました。ふれあい体験室では来館者が自由に手に触れていいのアリラックステーブルで時間を過ごしていく、中には昔を思い出してみている方もいます。来館者への手伝いや展示交流員にも参加させさせていただき、理科や社会科での博物館見学の小学生、総合的学習での質問等があり、毎回勉強になっています。来館者が気持ちよく見学できるよう博物館友の会、文化の杜の職員やボランティアの皆さんと協力して活動に参加していくといきたいと思っています。

* * *ボランティアの皆様、いつもありがとうございます *

博物館ボランティア通信

第23号 発行日：2009年8月25日 発行：沖縄博物館友の会 電話：098-868-2722

9月のボランティア連絡会
9/15(火) 15:00～17:00 ボランティア室にて 各勉強会・セミナー・講習会等の皆様参加をお願いします
*10月11日に行う体験教室「行列絵巻をつくろう」のボランティアを募集しています。

9月の行事（博物館）

《講座・解説会など》

9/5(日) 14:00～16:00 1F 講座室 / 当日先着 100名
学芸員講座 講師：岸本敬（当館学芸員）
「祖先の残したタリムカブセア・シニアガ・ミ」

※当日 13:30から会場にて受付
講師・仲里健（当館学芸員）/ 当日先着 15名

9/10(木) 14:00～15:00 常設展示解説会（地図）
講師・山崎真治（当館学芸員）/ 当日先着 15名

9/26(土) 14:00～15:00 常設展示解説会（人類）
講師・瀬口寿夫（博物研究長）/ 当日先着 15名

※展示解説会はふれあい体験室、ワックヤードツアーハンズ合せ受付にて当日9時から受け付けます。

● 3期生 認証式＆交付式 9月 10日 18:00～
博物館講座室 ※ご参加お願いいたします。（宮平）

10月の行事（博物館）

《講座・解説会など》

10/3(土) 14:00～16:00 1F 講座室 / 当日先着 100名
学芸員講座 講師：田中恵（当館学芸員）
「ここだけの工夫のなし」

さて、3期生となるボランティアは21名前後となりそ
うです。3期生の認証式＆交付式を9月 10日に行います。
継続されている皆さんもぜひ参加していただき、新ボラン

ティアさんを迎えていただけようお願いいたします。
また、学年の見学の対応ですが、9月は現在のところ2

校となっており、毎月先から毎週入ってきています。
初めて、ふれあい体験室に加えて体験・ガイド・誘導などで
のご協力よろしくお願いいたします。

● 3期生 認証式＆交付式 9月 10日 18:00～
博物館講座室 ※ご参加お願いいたします。（宮平）

■ からのお知らせ

ボランティアの皆さん、こんにちは！日々涼しくなり、秋を感じる季節になりましたね。

さて、来る9月 10日、新規ボランティア登録交付式が行
われ、20名の方が登録ボランティアに加わりました。新

規の方もどんどん活動へ参加し先輩ボランティアさんと、
楽しく活動していきましょう！

9月に入つて学校への対応が少しづつ入り、10月から12

月にかけては各学校への対応が毎日のように入ります。年の
前半なかなか活動が出来なかった方も少なくとも2回の
活動よろしくお願ひします。（活動状況の少ない方は次年

度の懇親会で貢献しない場合があります。今年はぶれない体験室と、常設展
示室の組み合わせ解説となっています。继续、新規に関係
なく参加出来ますので、ぜひ、ご参加ください。（宮平）

10月のボランティア連絡会

10月のボランティア連絡会に記入してあります

■ 開催日：9月 25日

開催時間：15:00～17:00

会場：沖縄博物館友の会

電話：098-868-2722

発行日：2009年9月 25日

発行：沖縄博物館友の会

電話：098-868-2722

■ お問い合わせ

ボランティアの皆さん、こんちは！日々涼しくなり、
秋を感じる季節になりましたね。

さて、来る9月 10日、新規ボランティア登録交付式が行
われ、20名の方が登録ボランティアに加わりました。新

規の方もどんどん活動へ参加し先輩ボランティアさんと、
楽しく活動していきましょう！

9月に入つて学校への対応が少しづつ入り、10月から12

月にかけては各学校への対応が毎日のように入ります。年の
前半なかなか活動が出来なかった方も少なくとも2回の
活動よろしくお願ひします。（活動状況の少ない方は次年

度の懇親会で貢献しない場合があります。今年はぶれない体験室と、常設展
示室の組み合わせ解説となっています。继续、新規に関係
なく参加出来ますので、ぜひ、ご参加ください。（宮平）

10月の勉強会

*10月の勉強会

民衆勉強会：10/3 (土) 10:00～12:00
3F 研修室 / ボランティアガイドマニュアル作成

歴史勉強会：10/10 (土) 10:00～12:00
3F 研修室 / 「ボランティアによる研究発表」

美工勉強会：移動博・重なる為、決定説明見出しします。

自然勉強会：10/31 (土) 10:00～12:00
1F ボランティア講座室 / 「沖縄・講師・中里健
・沢山あることを知りました。他のボランティアさんや動物館のスタッフ、文化の
社員が多くのサポートもありました。そして、子供たちや一般的の観覧者の笑顔からパワーも貰いました。
しかし、実際にボランティアとして活動していくうちに、自分ができる仕事が
います。

氏名を記入するようお願いします。（中村）

■ ボランティアの現場から

『平ひながらボランティア』 平田由美さん

九月。新学期のスタートです。ボランティア 3 期生もいよいよ本格的なボランティア
デビューですね。

これからの中のシーズンは学校見学の誘導、民具体験等ボランティアの出番はますます多

くになります。ぶんあるいは体験室は常にヘルプが必要としています。

養成講座の受講条件は月 2 回活動ができる人のことです。

1 期生の私は、それを

クリアできなくて月 2 回活動ができないのです。

それでも月 2 回を常に意識し、できると小さな達成

感がありました。

博物館は総合学習の場なので、各勉強会や行事への参加で、楽しく学びながらボランティアできます。

美工勉強会は、今年度より那嶼一子学芸員が加わり、平川信幸学芸員との二人体制で警笛な勉強会です。より充実

した内容の場でインプットした事をボランティア活動により良いアウトプットがでたらいであります。

皆様のご参加をお待ちしています。

■ ボランティアの現場から

『吉見綾乃さん

博物館ボランティア

私は今、民具体験や生徒たちへの解説、イベントのお手伝いなどのボランティアアン

ティアをしています。（けれど、首里の博物館時代はそうではありませんでした。ボラン

ティアといつても受け身で、自分自身が博物館の内容を勉強することだけで済

一杯でした。それに、ボランティアをするのに「知識が足りない」とか、「何をす

ればいいのかわからぬ」という不安も抱いていました。

しかし、実際にボランティアとして活動していくうちに、自分ができる仕事が

います。

氏名を記入するようお願いします。（吉見綾乃さん）

■ ボランティアの現場から

『平成21年度博物館ボランティア専門講座

毎週金曜開催 / 18:00～20:00

1F 講座室・ふれあい体験室

9/25 生物・考古・10/2 美工・人類・10/9 地学・歴史・
10/16 民俗・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
10/25 生物・考古・10/2 美工・人類・10/9 地学・歴史・
10/26 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
10/27 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
10/28 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
10/29 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
10/30 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
10/31 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
11/1 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
11/2 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
11/3 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
11/4 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
11/5 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
11/6 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
11/7 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
11/8 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
11/9 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
11/10 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
11/11 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
11/12 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
11/13 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
11/14 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
11/15 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
11/16 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
11/17 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
11/18 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
11/19 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
11/20 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
11/21 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
11/22 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
11/23 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
11/24 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
11/25 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
11/26 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
11/27 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
11/28 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
11/29 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
11/30 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
11/31 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
12/1 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
12/2 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
12/3 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
12/4 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
12/5 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
12/6 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
12/7 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
12/8 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
12/9 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
12/10 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
12/11 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
12/12 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
12/13 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
12/14 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
12/15 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
12/16 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
12/17 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
12/18 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
12/19 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
12/20 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
12/21 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
12/22 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
12/23 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
12/24 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
12/25 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
12/26 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
12/27 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
12/28 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
12/29 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
12/30 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
12/31 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/1 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/2 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/3 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/4 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/5 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/6 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/7 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/8 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/9 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/10 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/11 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/12 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/13 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/14 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/15 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/16 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/17 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/18 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/19 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/20 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/21 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/22 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/23 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/24 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/25 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/26 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/27 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/28 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/29 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/30 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/31 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/32 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/33 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/34 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/35 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/36 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/37 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/38 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/39 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/40 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/41 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/42 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/43 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/44 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/45 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/46 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/47 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/48 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/49 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/50 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/51 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/52 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/53 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/54 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/55 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/56 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/57 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/58 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/59 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/60 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/61 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/62 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/63 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/64 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/65 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/66 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/67 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/68 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/69 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/70 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/71 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/72 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/73 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/74 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/75 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/76 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/77 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/78 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/79 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/80 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/81 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/82 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/83 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/84 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/85 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/86 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/87 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/88 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/89 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/90 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/91 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/92 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/93 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/94 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/95 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/96 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/97 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/98 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/99 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/100 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/101 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/102 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/103 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/104 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/105 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/106 生物・考古・10/24 美工・人類・10/9 地学・歴史・
1/107 生物・考古・10/24 美工・人類・

博物館アラント

発行日：2009年10月25日 発行：沖縄博物館友の会 電話：098-866-2722

11月のボランティア連絡会

11月は学校対応がたくさん入ってきていますので曜日に関係なくご協力をお願いします

11月の行事（博物館）

11/7 (土) 学芸員講座（自然史）/14:00～16:00/博物館講座室 / 当日先着 100名 / 沖縄の天然記念物、その現状と課題について講師：瀬口善夫（博物館研究員）
11/14 (土)、28 (土) 特別展示解説会「琉球使節、講師・崎原恭子（当館学芸員）」/当日先着 20名程度（9:00～開館展示会場入り口にて受け付け）
11/21 (土) 特別展開シンポジウム「琉球使節のすがたを求めて」14:00～17:00/講堂 / 当日先着 210名 / バナリスト：小野まさ子（県立高等女学校教諭）横山（ソートルダム清心女子大学教諭）深澤恵人（沖縄国際大学、琉球大学附属常勤助教）

11月の勉強会

民俗勉強会：11/1/21 (土) 10:00～12:00 / 3F研修室 / 「ボランティアガイドマニュアル」作成
歴史勉強会：11/14 (土) 10:00～12:00 / 3F研修室 / ボランティアによる研究発表会
美工勉強会：11/15 (日) 10:00～12:00 / 1Fボランティア室及び講座室 / 「渡り鳥と沖縄」
「展示室で気づいた事」
講師・岩崎 哲也氏（情報センター）
参加希望の方は必ずボランティア室の募集中紙に氏名を記入するようお願いします。

11月の勉強会

民俗勉強会：11/28 (土) 10:00～12:00 / 1Fボランティア室及び講座室 / 「渡り鳥と沖縄」
講師・岩崎 哲也氏（情報センター）
参加希望の方は必ずボランティア室の募集中紙に氏名を記入するようお願いします。

ボランティアの現場から

『沖縄の肝心を次世代へ』内間理子さん



私はボランティア活動を通じて来館者に沖縄の肝心（チムグクル）を伝えたいと思想します。私達三期生は専門講座を修了したばかりでございます。近く小中学生の団体見学で私もボランティアの第一歩をスタートしたいと思います。仙台市立博物館ではボランティアが近づいてきてワンボイントアドバイス、その距離感が心地よく、それで情熱を感じさせました。もっと話を聞きたくなりました。五月に行った花巻市立博物館からはサンキューカードが届きました。そのカードには宮沢賢治の童謡のキャラクターが描かれていました。博物館で見た花巻人と共に心温まる思い出になります。これまでの体験を活かして、来館者との心のつなぎを大事にし、ともに喜びを共有できるように精進したいと思います。キャラクターの種く子ども達！博物館で待っています。

* * *ボランティアの皆様、いつもありがとうございます**

博物館アラント

発行日：2009年11月25日 発行：沖縄博物館友の会 電話：098-866-2722

12月のボランティア連絡会

12月半ばまでは学校対応が入っていますので曜日に関係なくご協力をお願いします

*12月のお知らせ

「ボランティアの皆さんへ」上原成美（沖縄県立博物館・美術館）ボランティアの皆様こんにちは。
毎年の様にこの時期は学校の対応に追われる事が多く来館してます。今年も多くの皆様が吹く季節になります。皆様方におかれましては体制管理に充分お力を付けていただき、日々を過ごされますようお願い申し上げます。

今年も余すところこの1カ月となつて参りました。皆様には、例年より博物館の活動のためにご協力いただきよろしくお願い申上げます。
先日当館博物館講座室でボランティア全体会が開催されました。ボランティアの皆様の全員の参加を期待していましたが、残念ながら出席率は3分の1という数で当初の話合いで内容が伝局伝えたい所に伝わらないという現状になつております。

そこで、本年度は各校の児童生徒がほとんど連日はいっており、対応に苦慮しております。一校について、20名のボランティアの皆様が活動なさいます。しかし、30名の方々が交代で毎日関わって下さって、なんとかしのいでおりますが、連日の対応のためどうしても負担が大きくて、疲れ気味です。学校の方へも5つの体験を3つにするなど対策を講じておりますが、12月半ばまで予定が入っております。

現在登録ボランティアの数は123名で御一人最低、月に2回の活動をお願いしておりますが、この10月から学校対応は、曜日を絞り、出来る限り活動をと呼び掛けしております。そのための全体会で確認をしていただく意味で開催致しましたが、思ひたくない結果となっており、残念です。

今後、ボランティアの皆様が博物館活動を考えるために多くの意見を見てこれからもまとめ、次年度は早く時期に見ていくことと思われます。どうぞ、これからも活動に対して意見を出していただき、よりよい活動のために恩恵のない御意見を下さいますようお願いいたします。又、12月半ばまでの学校対応に少しでもご協力くださいますことでお互いの負担を少なくし、無理のない活動が出来ますよう、心よりお願い申し上げます。

この、1年間博物館のため、ご尽力いただきました皆様に感謝申し上げます。

博物館アラント

発行日：2009年11月25日 発行：沖縄博物館友の会 電話：098-866-2722

12月のボランティア連絡会

12月半ばまでは学校対応が入っていますので曜日に関係なくご協力をお願いします

12月の行事（博物館）

12/5 (土) 学芸員講座（美工）/14:00～16:00/博物館講座室 / 当日先着 100名 / 「新発見、孔子像を読みとく」平川信幸（当館学芸員）
12/10 (木) 展示解説会（生物）/14:00～15:00/当日先着 15名（ふれあい体験室前集合）/解説：田中誠（当館学芸員）
12/24 (木) 展示解説会（民俗）/14:00～15:00/当日先着 15名（ふれあい体験室前集合）/解説：岸本敬（当館学芸員）
12/26 (土) 文化講座「身近な自然（野外観察会）」講師：加藤祐三氏（琉球大学名教教授）/※要事前申込 12/15 締切 / 定員：30名（応募者多数の際は抽選）
当日先着 12名 / 講師：渥口寿夫（博物館部研究員）

12/19 (土) 文化講座「身近な自然（野外観察会）」講師：加藤祐三氏（琉球大学名教教授）/※要事前申込 12/15 締切 / 定員：30名（応募者多数の際は抽選）
当日先着 12名 / 講師：渥口寿夫（博物館部研究員）
12/26 (土) ハッカチャアード / 14:00～15:00 / 当日先着 12名 / 講師：渥口寿夫（博物館部研究員）

12月の勉強会

民俗勉強会：12月5日 (土) 10:00～12:00 / 12月19日 (土) 10:00～12:00 / 3F研修室
歴史勉強会：12月12日 (土) 11:30～13:00 / 3F研修室
美工勉強会：12/20 (日) 10:00～12:00 / ボランティア室 / 平川学芸員「展示室で気づいた事」
自然勉強会：未定（確定いたボランティア室に掲示します）
参加希望の方は必ずボランティア室の募集中紙に氏名を記入するようお願いします。

文化の杜です〈14〉

ここには、教育普及、主に美術館を担当しています町田惠美です。博物館と美術館の違いについて、博物館で得る学びが似たところと異なるところがあります。博覧会や美術館は感性を磨く想像力の場といいます。博覧会だと、美術館は感性を持つ空間が、せっかく同じ館内に在るのですからより多くの方が垣根なく気軽に楽しめるのではないかと思います。美術館は体験の方、ぜひ一度（度）遊びに来て下さい。（伊藤）

博物館ボランティアの杜です〈15〉*

私はボランティア活動を通して来館者に沖縄の肝心（チムグクル）を伝えたいと思想します。私達三期生は専門講座を修了したばかりでございます。近く小中学生の団体見学で私もボランティアの第一歩をスタートしたいと思います。仙台市立博物館ではボランティアが近づいてきてワンボイントアドバイス、その距離感が心地よく、それで情熱を感じさせました。もっと話を聞きたくなりました。五月に行った花巻市立博物館からはサンキューカードが届きました。そのカードには宮沢賢治の童謡のキャラクターが描かれていました。博物館で見た花巻人と共に心温まる思い出になっています。

これまでの体験を活かして、来館者との心のつなぎを大事にし、ともに喜びを共有できるように精進したいと思います。キャラクターの種く子ども達！博物館で待っています。

博物館アラント

発行日：2009年11月25日 発行：沖縄博物館友の会 電話：098-866-2722

12月のボランティア連絡会

12月半ばまでは学校対応が入っていますので曜日に関係なくご協力をお願いします

*12月のお知らせ

「ボランティアの皆様へ」上原成美（沖縄県立博物館・美術館）ボランティアの皆様こんにちは。
毎年の様にこの時期は学校の対応に追われる事が多く来館してます。今年も多くの皆様が吹く季節になります。皆様方におかれましては体制管理に充分お力を付けていただき、日々を過ごされますようお願い申し上げます。

今年も余すところこの1カ月となつて参りました。皆様には、例年より博物館の活動のためにご協力いただきよろしくお願い申上げます。
先日当館博物館講座室でボランティア全体会が開催されました。ボランティアの皆様の全員の参加を期待していましたが、残念ながら出席率は3分の1という数で当初の話合いで内容が伝局伝えたい所に伝わらないという現状になつております。

そこで、本年度は各校の児童生徒がほとんど連日はいっており、対応に苦慮しております。一校について、20名のボランティアの皆様が活動なさいます。しかし、30名の方が交代で毎日関わって下さって、なんとかしのいでおりますが、連日の対応のためどうしても負担が大きくて、疲れ気味です。学校の方へも5つの体験を3つにするなど対策を講じておりますが、12月半ばまで予定が入っております。

現在登録ボランティアの数は123名で御一人最低、月に2回の活動をお願いしておりますが、この10月から学校対応は、曜日を絞り、出来る限り活動をと呼び掛けしております。そのための全体会で確認をしていただく意味で開催致しましたが、思ひたくない結果となっており、残念です。

今後、ボランティアの皆様が博物館活動を考えるために多くの意見を見てこれからもまとめ、次年度は早く時期に見ていくことと思われます。どうぞ、これからも活動に対して意見を出していただき、よりよい活動のために恩恵のない御意見を下さいますようお願いいたします。又、12月半ばまでの学校対応に少しでもご協力くださいますことでお互いの負担を少なくし、無理のない活動が出来ますよう、心よりお願い申し上げます。

この、1年間博物館のため、ご尽力いただきました皆様に感謝申し上げます。

博物館アラント

発行日：2009年11月25日 発行：沖縄博物館友の会 電話：098-866-2722

12月のボランティア連絡会

12月半ばまでは学校対応が入っていますので曜日に関係なくご協力をお願いします

*12月のお知らせ

「ボランティアの皆様へ」上原成美（沖縄県立博物館・美術館）ボランティアの皆様こんにちは。
毎年の様にこの時期は学校の対応に追われる事が多く来館してます。今年も多くの皆様が吹く季節になります。皆様方におかれましては体制管理に充分お力を付けていただき、日々を過ごされますようお願い申し上げます。

今年も余すところこの1カ月となつて参りました。皆様には、例年より博物館の活動のためにご協力いただきよろしくお願い申上げます。
先日当館博物館講座室でボランティア全体会が開催されました。ボランティアの皆様の全員の参加を期待していましたが、残念ながら出席率は3分の1という数で当初の話合いで内容が伝局伝えたい所に伝わらないという現状になつております。

そこで、本年度は各校の児童生徒がほとんど連日はいっており、対応に苦慮しております。一校について、20名のボランティアの皆様が活動なさいます。しかし、30名の方が交代で毎日関わって下さって、なんとかしのいでおりますが、連日の対応のためどうしても負担が大きくて、疲れ気味です。学校の方へも5つの体験を3つにするなど対策を講じておりますが、12月半ばまで予定が入っております。

現在登録ボランティアの数は123名で御一人最低、月に2回の活動をお願いしておりますが、この10月から学校対応は、曜日を絞り、出来る限り活動をと呼び掛けております。そのための全体会で確認をしていただく意味で開催致しましたが、思ひたくない結果となっており、残念です。

今後、ボランティアの皆様が博物館活動を考えるために多くの意見を見てこれからもまとめ、次年度は早く時期に見ていくことと思われます。どうぞ、これからも活動に対して意見を出していただき、よりよい活動のためには恩恵のない御意見を下さいますようお願いいたします。又、12月半ばまでの学校対応に少しでもご協力くださいますことでお互いの負担を少なくし、無理のない活動が出来ますよう、心よりお願い申し上げます。

この、1年間博物館のため、ご尽力いただきました皆様に感謝申し上げます。

博物館アラント

発行日：2009年11月25日 発行：沖縄博物館友の会 電話：098-866-2722

12月のボランティア連絡会

12月半ばまでは学校対応が入っていますので曜日に関係なくご協力をお願いします

*12月のお知らせ

「ボランティアの皆様へ」上原成美（沖縄県立博物館・美術館）ボランティアの皆様こんにちは。
毎年の様にこの時期は学校の対応に追われる事が多く来館してます。今年も多くの皆様が吹く季節になります。皆様方におかれましては体制管理に充分お力を付けていただき、日々を過ごされますようお願い申し上げます。

今年も余すところこの1カ月となつて参りました。皆様には、例年より博物館の活動のためにご協力いただきよろしくお願い申上げます。
先日当館博物館講座室でボランティア全体会が開催されました。ボランティアの皆様の全員の参加を期待していましたが、残念ながら出席率は3分の1という数で当初の話合いで内容が伝局伝えたい所に伝わらないという現状になつております。

そこで、本年度は各校の児童生徒がほとんど連日はいっており、対応に苦慮しております。一校について、20名のボランティアの皆様が活動なさいます。しかし、30名の方が交代で毎日関わって下さって、なんとかしのいでおりますが、連日の対応のためどうしても負担が大きくて、疲れ気味です。学校の方へも5つの体験を3つにするなど対策を講じておりますが、12月半ばまで予定が入っております。

現在登録ボランティアの数は123名で御一人最低、月に2回の活動をお願いしておりますが、この10月から学校対応は、曜日を絞り、出来る限り活動をと呼び掛けております。そのための全体会で確認をしていただく意味で開催致しましたが、思ひたくない結果となっており、残念です。

今後、ボランティアの皆様が博物館活動を考えるために多くの意見を見てこれからもまとめ、次年度は早く時期に見ていくことと思われます。どうぞ、これからも活動に対して意見を出していただき、よりよい活動のためには恩恵のない御意見を下さいますようお願いいたします。又、12月半ばまでの学校対応に少しでもご協力くださいますことでお互いの負担を少なくし、無理のない活動が出来ますよう、心よりお願い申し上げます。

この、1年間博物館のため、ご尽力いただきました皆様に感謝申し上げます。

博物館アラント

発行日：2009年11月25日 発行：沖縄博物館友の会 電話：098-866-2722

12月のボランティア連絡会

12月半ばまでは学校対応が入っていますので曜日に関係なくご協力をお願いします

*12月のお知らせ

「ボランティアの皆様へ」上原成美（沖縄県立博物館・美術館）ボランティアの皆様こんにちは。
毎年の様にこの時期は学校の対応に追われる事が多く来館してます。今年も多くの皆様が吹く季節になります。皆様方におかれましては体制管理に充分お力を付けていただき、日々を過ごされますようお願い申し上げます。

今年も余すところこの1カ月となつて参りました。皆様には、例年より博物館の活動のためにご協力いただきよろしくお願い申上げます。
先日当館博物館講座室でボランティア全体会が開催されました。ボランティアの皆様の全員の参加を期待していましたが、残念ながら出席率は3分の1という数で当初の話合いで内容が伝局伝えたい所に伝わらないという現状になつております。

そこで、本年度は各校の児童生徒がほとんど連日はいっており、対応に苦慮しております。一校について、20名のボランティアの皆様が活動なさいます。しかし、30名の方が交代で毎日関わって下さって、なんとかしのいでおりますが、連日の対応のためどうしても負担が大きくて、疲れ気味です。学校の方へも5つの体験を3つにするなど対策を講じておりますが、12月半ばまで予定が入っております。

現在登録ボランティアの数は123名で御一人最低、月に2回の活動をお願いしておりますが、この10月から学校対応は、曜日を絞り、出来る限り活動をと呼び掛けております。そのための全体会で確認をしていただく意味で開催致しましたが、思ひたくない結果となっており、残念です。

今後、ボランティアの皆様が博物館活動を考えるために多くの意見を見てこれからもまとめ、次年度は早く時期に見ていくことと思われます。どうぞ、これからも活動に対して意見を出していただき、よりよい活動のためには恩恵のない御意見を下さいますようお願いいたします。又、12月半ばまでの学校対応に少しでもご協力くださいますことでお互いの負担を少なくし、無理のない活動が出来ますよう、心よりお願い申し上げます。

この、1年間博物館のため、ご尽力いただきました皆様に感謝申し上げます。

博物館アラント

発行日：2009年11月25日 発行：沖縄博物館友の会 電話：098-866-2722

12月のボランティア連絡会

12月半ばまでは学校対応が入っていますので曜日に関係なくご協力をお願いします

*12月のお知らせ

「ボランティアの皆様へ」上原成美（沖縄県立博物館・美術館）ボランティアの皆様こんにちは。
毎年の様にこの時期は学校の対応に追われる事が多く来館してます。今年も多くの皆様が吹く季節になります。皆様方におかれましては体制管理に充分お力を付けていただき、日々を過ごされますようお願い申し上げます。

今年も余すところこの1カ月となつて参りました。皆様には、例年より博物館の活動のためにご協力いただきよろしくお願い申上げます。
先日当館博物館講座室でボランティア全体会が開催されました。ボランティアの皆様の全員の参加を期待していましたが、残念ながら出席率は3分の1という数で当初の話合いで内容が伝局伝えたい所に伝わらないという現状になつております。

そこで、本年度は各校の児童生徒がほとんど連日はいっており、対応に苦慮しております。一校について、20名のボランティアの皆様が活動なさいます。しかし、30名の方が交代で毎日関わって下さって、なんとかしのいでおりますが、連日の対応のためどうしても負担が大きくて、疲れ気味です。学校の方へも5つの体験を3つにするなど対策を講じておりますが、12月半ばまで予定が入っております。

現在登録ボランティアの数は123名で御一人最低、月に2回の活動をお願いしておりますが、この10月から学校対応は、曜日を絞り、出来る限り活動をと呼び掛けております。そのための全体会で確認をしていただく意味で開催致しましたが、思ひたくない結果となっており、残念です。

今後、ボランティアの皆様が博物館活動を考えるために多くの意見を見てこれからもまとめ、次年度は早く時期に見ていくことと思われます。どうぞ、これからも活動に対して意見を出していただき、よりよい活動のためには恩恵のない御意見を下さいますようお願いいたします。又、12月半ばまでの学校対応に少しでもご協力くださいますことでお互いの負担を少なくし、無理のない活動が出来ますよう、心よりお願い申し上げます。

この、1年間博物館のため、ご尽力いただきました皆様に感謝申し上げます。

博物館アラント

発行日：2009年11月25日 発行：沖縄博物館友の会 電話：098-866-2722

12月のボランティア連絡会

12月半ばまでは学校対応が入っていますので曜日に関係なくご協力をお願いします

*12月のお知らせ

「ボランティアの皆様へ」上原成美（沖縄県立博物館・美術館）ボランティアの皆様こんにちは。
毎年の様にこの時期は学校の対応に追われる事が多く来館してます。今年も多くの皆様が吹く季節になります。皆様方におかれましては体制管理に充分お力を付けていただき、日々を過ごされますようお願い申し上げます。

今年も余すところこの1カ月となつて参りました。皆様には、例年より博物館の活動のためにご協力いただきよろしくお願い申上げます。
先日当館博物館講座室でボランティア全体会が開催されました。ボランティアの皆様の全員の参加を期待していましたが、残念ながら出席率は3分の1という数で当初の話合いで内容が伝局伝えたい所に伝わらないという現状になつております。

そこで、本年度は各校の児童生徒がほとんど連日はいっており、対応に苦慮しております。一校について、20名のボランティアの皆様が活動なさいます。しかし、30名の方が交代で毎日関わって下さって、なんとかしのいでおりますが、連日の対応のためどうしても負担が大きくて、疲れ気味です。学校の方へも5つの体験を3つにするなど対策を講じておりますが、12月半ばまで予定が入っております。

現在登録ボランティアの数は123名で御一人最低、月に2回の活動をお願いしておりますが、この10月から学校対応は、曜日を絞り、出来る限り活動をと呼び掛けております。そのための全体会で確認をしていただく意味で開催致しましたが、思ひたくない結果となっており、残念です。

今後、ボランティアの皆様が博物館活動を考えるために多くの意見を見てこれからもまとめ、次年度は早く時期に見ていくことと思われます。どうぞ、これからも活動に対して意見を出していただき、よりよい活動のためには恩恵のない御意見を下さいますようお願いいたします。又、12月半ばまでの学校対応に少しでもご協力くださいますことでお互いの負担を少なくし、無理のない活動が出来ますよう、心よりお願い申し上げます。

この、1年間博物館のため、ご尽力いただきました皆様に感謝申し上げます。

博物館アラント

発行日：2009年11月25日 発行：沖縄博物館友の会 電話：098-866-2722

12月のボランティア連絡会

12月半ばまでは学校対応が入っていますので曜日に関係なくご協力をお願いします

*12月のお知らせ

「ボランティアの皆様へ」上原成美（沖縄県立博物館・美術館）ボランティアの皆様こんにちは。
毎年の様にこの時期は学校の対応に追われる事が多く来館してます。今年も多くの皆様が吹く季節になります。皆様方におかれましては体制管理に充分お力を付けていただき、日々を過ごされますようお願い申し上げます。

今年も余すところこの1カ月となつて参りました。皆様には、例年より博物館の活動のためにご協力いただきよろしくお願い申上げます。
先日当館博物館講座室でボランティア全体会が開催されました。ボランティアの皆様の全員の参加を期待していましたが、残念ながら出席率は3分の1という数で当初の話合いで内容が伝局伝えたい所に伝わらないという現状になつております。

そこで、本年度は各校の児童生徒がほとんど連日はいっており、対応に苦慮しております。一校について、20名のボランティアの皆様が活動なさいます。しかし、30名の方が交代で毎日関わって下さって、なんとかしのいでおりますが、連日の対応のためどうしても負担が大きくて、疲れ気味です。学校の方へも5つの体験を3つにするなど対策を講じておりますが、12月半ばまで予定が入っております。

現在登録ボランティアの数は123名で御一人最低、月に2回の活動をお願いしておりますが、この10月から学校対応は、曜日を絞り、出来る限り活動をと呼び掛けております。そのための全体会で確認をしていただく意味で開催致しましたが、思ひたくない結果となっており、残念です。

今後、ボランティアの皆様が博物館活動を考えるために多くの意見を見てこれからもまとめ、次年度は早く時期に見ていくことと思われます。どうぞ、これからも活動に対して意見を出していただき、よりよい活動のためには恩恵のない御意見を下さいますようお願いいたします。又、12月半ばまでの学校対応に少しでもご協力くださいますことでお互いの負担を少なくし、無理のない活動が出来ますよう、心よりお願い

2010年1月25日 発行：沖縄博物館友の会 電話：098-88688-2222

2目のボラソ元ア連終全*

10

アユン終業会*

発行：2016年2月25日 発行：沖縄博物館及びの会 電話：0988-22-0960

＊3目の中ボランティア連絡会*

解説

2/16(火) 15:00~17:00 ボランティア室にて 各勉強会世話係、曜日世話係の皆様参加をお願いします
→ こなみハーナンーム

1月も終わりに近づいてまいりました。
そろそろ、21年度のまとめの時期に入つて参りました。皆様の日々のご活動のおかげで昨年は無事乗り切ることが出来たことに感謝申し上げます。
昨年度の活動を反省し、次年度の計画に生かしていくためにも、ボランティア活動の本来の在り方を皆様とともに考えていきたいと思います。

そこで、これまでの活動を振り返り、継続の時期を迎えた今、どれだけの方々が実質的に博物館に来て、ボランティア活動をできたのか?ということになりまとめて、100名余の会員の中、実際に10回以上活動なされた方は42名という残念な結果が出てきています。

小説の歴史

＊2月の虹色星＊	
民俗勉強会：2/6（土）10：00～12：00	自然勉強会：企画展「造熊サンゴ～楽園をつくつ 3F研修室／岸本学芸員の講話
歴史勉強会：2/13（土）10：00～12：00	億大な建築家～」開連イベントへの参加を勉強会 2/20（土）14：00～16：00 文化講座
3F研修室／ボランティアによるレポート発表	「造熊サンゴの歴史と活用」 講師：中野義勝氏 洋蔵公園管理財団参与・東北大学名譽教授
美工勉強会：2/21（日）10：00～12：00	2/27（土）14：00～17：00 バル座談会 「サンゴ礁保全について？」 講師：中野義勝氏、 村茂樹氏、比嘉義規氏、横井謙典氏、波崎直子
ボランティア室／レポート発表その他	藤田啓氏
参加希望の方は必ずランティア室の募集中紙に 氏名を記入ください。	

ボランティア室／レポート発表その他
参加希望の方は必ずボランティア室の募集用紙に
氏名を記入するようお願いします。

＊＊ボランティアの皆様、いつもありがとうございます＊＊

教育普及事業を担当するようになり一年が過ぎました
が、当館における普及活動はボランティアの皆さんのが
協力のもとで成り立っているということを痛感しています。
年が明け、新年度に向けた準備も進みつつあります
が、より魅力的な講座等の開催を考える一方、新館オープン
から二年目が過ぎた今、ボランティアの皆さんと何がで
きるのか、新たに考える時期にきていることを感じてい
ます。3月下旬頃、新規ボランティアの募集を予定して
います。皆さんからのご意見や一般の方からの電話
問い合わせを受け、今回は「ボランティア募集」の合
意を得て行なっています。博物館で有意義な時間を共有できる仲間
をめでています。

まずは、博物館でご指導とご協力ををお願いします。(中略)
今後もご指導とご協力をお願いします。ありがとうございました。

*ボランティアの皆様、いつもありがとうございます**

発行日：2001年2月25日 電話：098-8998-2122

3目のボランティア連絡会

曾からのお知らせ

2/16(火) 15:00~17:00 ボランティア室にて 各勉強会世話係、曜日世話係の皆様参加お願いします
・この日はハンドルーチン、

寒暖の激しい時期ですが、ボランティアの皆さんにおかれましては、如何がお過ごしてでしょうか。体調に充分に配慮下さいまして、博物館活動をエンジョイなされますよう心よりお願い申し上げます。

博物館の方では、ボランティアの養成講座、専講座を開催し、育成をしてまいりました。そこで、生かせないことは、とても残念です。そこで、回から、継続に際しましては活動が無い方は、こ

1月も終わりに近づいてまいりました。
そろそろ、21年度のまとめの時期に入つて参りました。皆様の日々のご活動のおかげで昨年は無事乗り切ることが出来たことに感謝申し上げます。
昨年度の活動を反省し、次年度の計画に生かしていくためにも、ボランティア活動の本来の在り方を皆様とともに考えていきたいと思います。

そこで、これまでの活動を振り返り、継続の時期を迎えた今、どれだけの方々が実質的に博物館に来て、ボランティア活動をできたのか?ということになりまとめて、100名余の会員の中、実際に10回以上活動なされた方は42名という残念な結果が出てきています。

* 2月の勉強会*

民俗勉強会：2/6（土）10：00～12：00
3F研修室／岸本学芸員の講話

歴史勉強会：2/13（土）10：00～12：00
3F研修室／ボランティアによるレポート発表

美工勉強会：2/21（日）10：00～12：00
ボランティア室／レポート発表その他

自然勉強会：企画展「造礁サンゴ～楽園をつくつ
偉な建築家～」関連イベントへの参加を勉強会
えます。

2/20（土）14：00～16：00 文化講座
「造礁サンゴの保全と活用」講師：西平守孝氏
（洋博公園管理財団参与・東北大学名誉教授）

2/27（土）14：00～17：00 バトル座談会
「サンゴ礁生態について？」講師：中野勝哉氏、
村茂樹氏、比嘉義親氏、横井詩典氏、波崎直子

参加者は記入する方には貰いやすいです。
氏名を記入する方には貰いやすいです。

ボランティア室／レポート発表その他
参加希望の方は必ずボランティア室の募集用紙に
氏名を記入するようお願いします。

＊＊ボランティアの皆様、いつもありがとうございます＊＊

教育普及事業を担当するようになり一年が過ぎました
が、当館における普及活動はボランティアの皆さんのが
協力のもとで成り立っているということを痛感しています。
年が明け、新年度に向けた準備も進みつつあります
が、より魅力的な講座等の開催を考える一方、新館オープン
から二年目が過ぎた今、ボランティアの皆さんと何がで
きるのか、新たに考える時期にきていることを感じてい
ます。3月下旬頃、新規ボランティアの募集を予定して
います。皆さんからのご意見や一般の方からの電話
問い合わせを受け、今回は「ボランティア募集」の合
意を得て行なっています。
まずは、博物館で有意義な時間を共有できる仲間
をめざします。今後もご指導とご協力をお願いします。(中村)

*ハラナギの音様、いつもモルヒがこうございります

博物館ボランティア通信

第30号

発行日：2010年3月25日

電話：098-868-2722

4月のボランティア会議は4/20(火) 15:00～17:00 ボランティア室にて

各勉強会世話係、曜日の世話係の皆様は出席をお願いします

『ボランティアの皆さまへ』

上原 成美

暖かな風が心地よく感じられる今日この頃となりました。この1年間、皆様のおかげで教育普及事業のスムーズな推進が出来ましたこと心より感謝申し上げます。この度、人事異動で石垣島の新規小学校に転勤が決まりました。やっと、教育普及の仕事を離れてきましたが、残念なことにこれで、皆様と過ごした9、10、11月の学校訪問の体験学習のせわしい中連日、子供たちのために博物館の良さを伝え、「又いらっしゃい」と送る姿いつも頭が下がる思いです。体験学習は事前学習から、当日の来館者への対応も細やかな心配りをしていただき有難うございました。ふれあい体験室においては、来館する若者男女の全てにかかわっていただき、リビーティーへとつなげる役割を担っていただきました。ボランティアの皆さまから本当に博物館に対する想いが伝わって来ます。

各講座への参加、展示説明会への出席、ひいてはボランティア各部門勉強会など、皆様の学ぶ姿勢も素敵でした。「民俗部門」のミニユアリも完成間近となり、次は「自然史部門」へとさらなる意欲を燃やしておられる姿勢から、たくさんのこと学ばせて頂きました。

今後も皆様が楽しく、博物館と交流の輪を広げ、学びのためのあなた達の想いをいつまでも継続やすることがありますように。また、決して無理することなく、お体に留意なされて豊かな時を過ごしていただきましょう、心からお願いし、お礼の言葉をいたしました。本当に有難うございました。

皆さん、こんにちわ。博物館教育普及の宮平真由美です。

早いもので、4月も終り、本格的に春が訪れるようになつて4年（旧館1年）になります。アッという間の4年間でしたが、この3ヶ月で教育普及を終えることになりました。新館の準備、開館から、教育普及事業とボランティア事業など試行錯誤しながらやってきましたが、ボランティアの皆さまのお陰だと感謝しております。ボランティアの活動について、また学校団体の対応、ふれあい体験室の運営など、共に笑い、共に謙譲しながら良い体験をされた結果が出来たと思っています。そして、様々な事を教えてくださいました。本当にありがとうございました。4月からも、仕事内容は変わりますが、また教育普及の担当が2人とも変わりますが、どうぞ今まで通り協力よろしくお願ひ致します。（宮平）

4月の勉強会

民俗勉強会：4/3 (土) 10:00～12:00
ボランティア室

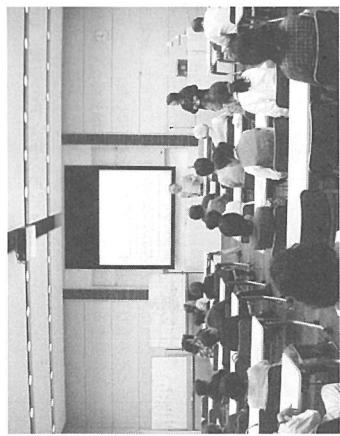
歴史勉強会：4/10 (土) 10:00～12:00
3F研修室

美工勉強会：4/18 (日) 10:00～12:00
ボランティア室

自然勉強会：4/24 (土) 10:00～12:00
ボランティア室

参加希望の方は必ずボランティア室の募集用紙に
氏名を記入しようお願いします。

ボランティアの皆様、いつもありがとうございます



勉強会の様子（歴史）



全体会



民具体験サポート



ふれあい体験室でのサポート

体験学習教室サポート

XI その他

1 移動展

名 称：第2回 沖縄県立博物館・美術館 移動展
会 期：平成21年10月23日（金）～25日（日）
開催地：久米島町
主 催：沖縄県立博物館・美術館、文化の杜共同企業体
共 催：久米島町、久米島町教育委員会

（1）趣旨

ふだん沖縄県立博物館・美術館に足を運ぶことの出来ない離島や遠隔地の方々に移動展の展示を見てもらうことによって、沖縄県の自然、歴史、文化の広域普及を図り、美術作品を鑑賞する機会を提供する。



チラシ（表）

（2）展示会

会 場：メイン会場・・・具志川農村環境改善センター 大ホール、ホワイエ
映写会場・・・久米島自然文化センター
会 期：平成21年10月23日（金）～25日（日） 午前9時～午後6時（23日は午前10時～）
対 象：一般
観覧料：無料

（3）展示内容

- ①博物館資料：「大むかしの生物」 恐竜の骨格標本
- ②「沖縄の自然、歴史、文化」 沖縄の自然、歴史、文化に関する総合展示
- ③沖縄県内作家の写真、絵画、彫刻、陶芸、版画

（4）関連イベント

- ①展示解説会（10月23日 メイン会場にて）
- ②ソテツの実でアクセサリーを作る（10月24日・25日 メイン会場にて）
- ③映写会（10月23～25日 映写会場にて）
- ④「山城知佳子アーチストインレジデンス久米島」作品公開
(10月23～25日 映写会場にて)



テープカットの様子



演奏



岡本太郎の絵画



会場の様子



関連イベント



港川人

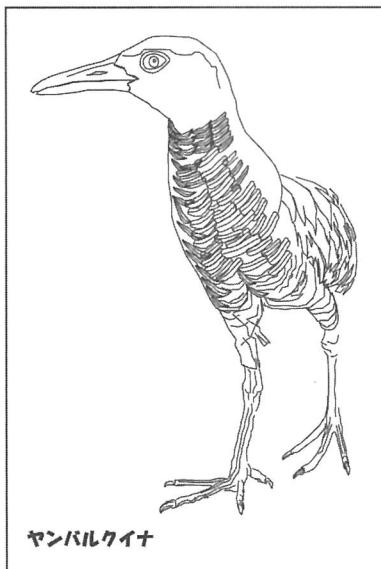
2 沖縄県立博物館・美術館のフリーパス

沖縄県立博物館・美術館では、県内の小中学生が博物館・美術館を知る機会とし、また、同館を身近に感じてもらい、何度も足を運んで欲しいとする目的で、「沖縄県立博物館・美術館フリーパス」の作成を小・中学校へ依頼しています。

「沖縄県立博物館・美術館フリーパス」は、学校で印刷・作成し、裏面に校長印を押印します（サンプル：博物館・美術館作成）。表紙は、沖縄の自然、歴史、文化に関する図案を基本としますが、自らデザインした図柄でもよく、裏面にはマス目があり、来館の際にスタンプが押印出来る形になっています。

利用の対象は、県内の小・中学生で、学校の授業の一環、または個人での来館の際に持参して利用します。スタンプの押印数については、遠隔地や離島などの学校の生徒にはスタンプの数を調整するなどとして、配慮を行っています。

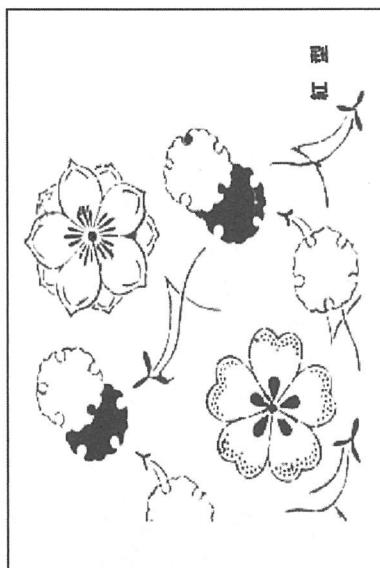
【表面】



【裏面】

小学生用

沖縄県立博物館・美術館フリーパス			
1年		2年	
氏名	学校名	校長印	
スタート!!			
			10
			ちょうど 半分だよ!
			20
			もう少し!
			30
			ゴール!!



中学生用

沖縄県立博物館・美術館フリーパス			
1年		2年	
氏名	学校名	校長印	
スタート!!			
			10
			ちょうど 半分だよ!
			20
			もう少し!
			30
			ゴール!!

「沖縄県立博物館・美術館のフリーパスをつくろう！」実施要項

1 目 的

- (1) 沖縄県立博物館・美術館について、県内の小中学生が知る機会とする。
- (2) フリーパスを自ら作成することで、同館を身近に感じてもらう。
- (3) 県内の小中学生は、開館時より無料入館となるが、県内と県外の児童生徒をパスの提示により確認することができる。

2 内 容

沖縄の自然、歴史、文化に関する図柄を基本とし、以下の仕様に合わせて、沖縄県立博物館・美術館をイメージする表紙のパスを作成する。

3 作成方法

- (1) パスのサイズは8cm×12cmを基本とし、画用紙等の厚紙を使用する。
- (2) 表紙に使う図柄は、自らデザインした形を表現するか、もしくは、別添サンプルの図柄を用いて、内部の彩色を工夫したものとする。
- (3) 裏面には、別添サンプルの様式のとおり、来館時押印用のマス目を作成すること。
- (4) サンプル図柄やマス目はコピーして使ってもかまいません。
- (5) パスの裏面には学校長の公印を捺印して下さい。

4 対 象

沖縄県内の小中学校の児童生徒

5 実施方法

- (1) 県教育庁文化施設建設室より義務教育課・文化課の協力を得て、県教育長から県内小中学校へ「フリーパス」の実施を知らせ、協力を依頼する。
- (2) 11月以降に来館した際に、博物館・美術館の受付案内にて、持参したパスに押印する。遠隔地や離島地域の児童生徒については、押印の数を調整の上、配慮する。
- (3) パスはすべて(30回)使い切った児童生徒に対しては、褒賞を準備する。
- (4) パスをすべて使い切った場合は、上記の要領で新たにパスを作成する。

3 職場体験

博物館では、学校の計画する就業体験学習を平成15年度より学校現場からの要望により、受け入れています(平成18・19年度は新館移転などのため休止)。

体験の内容や実施期間等については、学校からの希望を博物館の状況と合わせながら調整しています。希望体験の内容によっては、博物館を運営している文化の杜共同企業体の業務を体験する事もあります。

本年度実施校

①那覇市立鏡原中学校 4人

期間 平成21年9月8日～10日(3日間)
内容 教育普及資料整理、交流員補助 等

②ジョブシャドウイング

嘉手納高校 4人
真和志高校 2人
期間 平成21年11月12日(午前)
内容 学芸員、情報センター、教育普及、事務スタッフにつき、実際に仕事内容を見る

4 教育普及資料貸出

博物館の教育普及関係資料等を貸出しています。貸し出し可能な資料は、黒糖づくり、豆腐づくり、民具等です。教育普及資料の活用について、学芸員及びボランティアが支援します。積極的に活用してください。

①団体名：平安病院

行事名：デイケアプログラム「思い出茶屋（回想法）」

貸出期間：平成21年7月16日

貸出資料：民具体験（クバガサ・クバンヌー・サバ・バーキ・ガンシナ・ティール・ミーゾーキ・ターグ・サギジョーキ・洗濯桶・洗濯板・ンブル）

使用場所：博物館実習室

②団体名：安謝保育所

行事名：地域交流の日

貸出期間：平成21年9月10日～9月11日

貸出資料：豆腐作り用具（石臼・アジマー・トーフウーキ・タライ・シンメーナービ・ひしゃく・豆腐箱）

③団体名：沖縄市立高原小学校

行事名：豆腐作りをしよう

貸出期間：平成21年9月18日～9月30日

貸出資料：石臼・樽・豆腐箱・アジマー

④団体名：浦添市立浦西中学校

行事名：総合的な学習（豆腐作りをしよう）

貸出期間：平成22年1月28日～2月26日

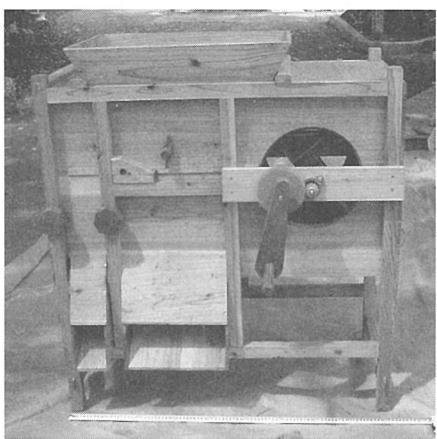
貸出資料：唐箕

⑤団体名：NHK沖縄放送局

行事名：「うちなーであそぼ」

貸出期間：平成22年3月3日～3月8日

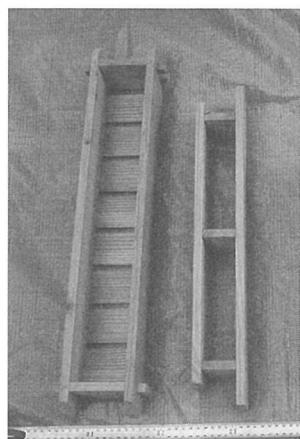
貸出資料：アダン葉サバ



唐箕



豆腐ウーキと石臼



豆腐箱

平成 21年度
博物館教育普及活動
2010(平成22)年3月

編集・発行 沖縄県立博物館・美術館
〒900-0006
沖縄県那覇市おもろまち 3-1-1
Tel (098) 941-8200 (代表)
Fax (098) 941-2392

印 刷 株式会社 平山印刷
〒901-0225
沖縄県豊見城市字豊崎 3-5-9
Tel (098) 995-6233 (代表)
Fax (098) 995-6236